

クル必要アルニアラサレハ發スルコトヲ得サルモノニシテ即子消極的ニ危害防護ノ目的ニ出ツルヲシテ積極的ニ幸福増進ノ目的ニ出ツルヲ許サルノ法意ヲ示シテ餘

アリ而シテ勅令第一三百五號及第一二百六號ハ施行ノ必要ナシトシテ廢止セラレタルモノナレハ其目的危害ノ防護ニアラスシテ幸福ノ増進ニアルコト明ケシ故ニ假ニ廢止シ得ヘキモノトスルモ勅令第一百四十二號ハ憲法第九條ニ則リテ發セラルヘク

同法第八條ニ基キテ發セラルヘキモノニアラス而シテ事爰ニ出テサルハ憲法ノ條規ニ違フモノト信ス敢テ問フ現政府ノ所見如何

第四現政府ハ憲法第八條第二項ノ條規ニ遵ヒ明治三十八年勅令第二百五號第一二百六號及第二百四十二號ヲ帝國議會ニ提出シテ承諾ヲ求ムヘキモノト信ス敢

テ問フ其時期如何

憲法上緊急勅令發布ニ關スル條規アルモ其廢止ニ關スル條規ナシ

憲法上緊急勅令廢止ノ場合ニ於テ次ノ議會ニ提出スルコトヲ免除シタル條規無シ

憲法上緊急勅令ヲ以テ緊急勅令ヲ廢止スルコトヲ許シタル條規無シ

明治二十七年勅令第百六十七號ヲ以テ同年勅令第三十四號（新聞紙雜誌及ヒ其他ノ出版物ニ關スル件）ヲ廢止シ及明治二十九年勅令第三百九十八號ヲ以テ同年勅令第一二百四號（朝鮮國渡航ノ禁ニ關スル件）ヲ廢止シタル先例アリ然レトモ是レ違憲ノ惡例ニシテ範トスルニ足ラス

右及質問候也

明治三十九年二月七日

一 貴族院ヨリ送付セラレタル政府提出案左ノ如シ
民法施行法中改正法律案

一指定セラレタル委員左ノ如シ
日本興業銀行法中改正法律案

元 田 ト 肇君
大 井 ト 肇君
山 本 恒二郎君
波 多 野 傳三郎君
山 田 省三郎君
鈴 置 倉次郎君

森 森 本 駿君
堀 田 達太郎君
青 地 雄太郎君
歲 太郎君
武 德君

臺灣銀行法中改正法律案
岩 元 信 兵 衛 君
牧 野 元 君

井 上 傳 七 君
山 口 小 一 君
河 原 林 義 雄 君
平 島 松 尾 君
山 森 隆 君

明治三十五年法律第二十九號中改正法律案
江 間 俊一君
澤 田 耕治郎君
關 信 之 介君
一 委 員 長 理 事 左 通 常 選 セラレタリ
日本興業銀行法中改正法律案

委員長 元 田 肇君

臺灣銀行法中改正法律案
委員長 山 口 小 一 君

理 事

關 口 安 太 郎 君

○ 議長（杉田定一君） 花井卓爾君

（花井卓爾君登壇）

明治三十五年法律第二十九號中改正法律案
委員長 關 信 之 介君 理 事 楠 目 玄君

一 貴族院ハ本院送附ニ係ル政府提出案臨時事件費支辨ニ關スル法律案明治二
十一年法律案第三號廢止法律案ヲ可決シタル旨同院ヨリ通牒アリタリ

○ 議長（杉田定一君） 是ヨリ會議ヲ致シマス、諸君ニ御詔リヲ致スコトガアリマスルガ、松本長平君ヨリ病氣ノタメ、二月五日ヨリ同十五日まで日數十一日間、請暇ノ願が出テ居リマス、許可シテ御異議ゴザイマセヌカ

（「異議ナシ異議ナシ」聲起ル）

○ 議長（杉田定一君） 御異議ガナイト認メマス、許可スルコトニ致シマス、坂本金彌郎君ヨリ一月五日ヨリ一週間請暇ノ願が出テ居リマス、許可シテ御異議ゴザ

イマセヌカ

（「異議ナシ異議ナシ」聲起ル）

○ 議長（杉田定一君） 御異議ガナイト認メマス、許可スルコトニ致シマス、田中藤次君ヨリ病氣ノタメ一月八日ヨリ二週間請暇ノ願が出テ居リマス、許可シテ御異議ゴザ

イマセヌカ

○ 議長（杉田定一君） 森田卓爾君

（森田卓爾君登壇）

○ 森田卓爾君 演說致ス譯デハアリマセス、過日即チ本月ノ一日ニ本員等ハ政府ニ對シテ、法律案提出ニ關スル質問書ヲ提出致シテ置キマシタ、是ハ頗ル簡明ノ事柄ニアリテ、一々此處ア申上ゲテ、趣意ヲ辯明スル必要ハナリ、要スルニ年來ノ公論ニナシテ居リマス刑法、刑事訴訟法、民事訴訟、裁判所構成法、請願ニ關スル憲法上ニ認メラレタル臣民ノ権利ニ關スル法律、市制町村制ト云フヤウナ、我國デ最モ大キナ部分ノ法律ハ改正ヲ要スルト云フコトデ、政府モソレカラ國民ノ方ノ側ニモ、イロノノ案ヲ具ヘテ政府ハ既ニ提出セラレタコトモ度ニアリマス、本院及貴族院ニ於テモ、議事ノ半バニシテ終ツタコトモ度タアリマス、大體デナク、一部ノ改正案モ諸君カラ度々出タコトモアル、而シテ其案ト云フモノハ、最早政府ノ方ニ於テ十分ニ審査セラレテ、今尙持ツテゴザル筈デアル、若シ之ヲ本期ノ議會ニ提出サレルヤ否ヤト云フコトヲ問ウタノアル、詰問デモ何デモナイ、此心持ハ若シ出サレヌト云フコトデアリマスレバ、本員ハ自カラ案ヲ具シテ提出スルノ勞ヲ執ル積ノデアル、所ガ此議會モ最早此十日デ半バニ經過スル、若シ政府が出サレヌト云フコトデアリマスレバ、是カラ出スト云フ計畫ヲスルニ於テ大イニ急グ所ガアル、此問題ハ出ストカ出サヌトカ云フコトノ一點ヲ答ヘテ戴ケバ、ソレア宜イノデ、時局ニモ關係ガナク、戰後ノ經營ニモ何モ關係ガナク、極ク冷カナル問題ニアリテ、答ヘルニ易イ問題デアル、出シマストカ出シマセヌトカ云フダケノ答ラシテ戴ケバ宜イニ、提出ノ後八日デアルガ、此案ノ答ガナイ、餘程取締レテゴザル見エルガ、モウ豫算モ彼是今日デ御シマヒニマス

トカ云フコトヲ政府カラタツタトロデ宜イカラ御答シテ貴ヒタ、就イテハ議長ニ要求ガアルト申シマシタハ、議長カラドウカ早速ニ答辯ガアルヤウニ、公然御掛合アランコトヲ望

云々コトヲ質問致スノデ、是が第一ノ質問デアリマス、ソレカラ假ニ議會提出前ニ於テモ異ナルトコロハ無イト信ジマスルガ、今日有セラル、トコロノ御意見ハ如何デアルカト慶止スルコトガ出來ルト致シタトコロデ、其慶止ニ歸シタリトノ理由ニ依テ、此勅令ヲ議會ニ提出スルノ政府ノ責任ト云フモノヲ免除スル法律ノ規定ハナリ——憲法上ノ規定ハ無イゾデゴザイマス、當時發布ノ必要アリヤ否ヤト云フコトヲ詮議スルノデゴザイマスカラ——事前ニ遡テ審査スルノデゴザイマスカラ、慶止セラレタトシタコロデ、爲ニ事前ノ事實が消滅ベキ筈ハナイ、ソレ故ニ議會ニ提出シテ當時果シテ發布ノ必要アリヤ否ヤト審査セシメ、議會ハ又之ヲ監視シテ適當ノ處置デアリシヤ否ヤト決定スルノ機能ヲ有スルノデアリマス、故ニ勿論現内閣ニ於テハ、前ノ緊急勅令ヲ當議會ニ提出セラレテ、諸君ニ審査ヲ要求セラル、ト云フコトハ憲法ノ條規ノ上ニ於テ當然ノ事デアルカラ、必ズ左様ニセラル、コト、確信致シマス、左様ノ次第デゴザイマスカラ、ソレ故ニ若シ之ヲ提出シナイコトニ相成タナラバ、確ニ憲法ノ條規ニ違フモノト確信致シマス、此點ニ關スル現内閣ノ所見ハ、本員ト同様デアルヤ否ヤト云フコトヲ問フノデス、是ガ質問ノ第二デゴザイマス、而シテ憲法第八條第一項ニ據テ、見マスレバ緊急勅令ハ公共ノ安全ヲ保持シ、又ハ災厄ヲ避ケルタメノ必要ニ依テ發スベキモノニシテ、其他ノ場合ニハ一切之ヲ發布スルコトハ出來ナイノデゴザイマス、消極的ニ或危害ヲ防禦スル目的ニ出アルト云フコトヲ必要ト致シテ居ルノデゴザイマシテ、積極的ニ人民ノ幸福ヲ増進スルノ目的ニ於テ發スルコトヲ認メテ居ナイノデゴザリマス、而シテ勅令第二百五號第一二百六號ハ、最早ヤ施行ノ必要ガ無イ、是ノ如キ惡勅令ハ存置スルノ必要ハナイト云フノデ、勅令第二百四十二號ヲ以テ廢止セラレタノデアリマスカラ、其目的タルヤ危害ヲ防止スルト云フ趣意ニアラズシテ、人民ノ幸福ヲ増進スルト云フ趣意ニ於テセラレタモノデアルト云フコトハ、眞ニ明カナ次第デアリマス、故ニ若シ假ニ廢止シ得ベキモノトスルモ、此勅令ヲ廢止スルニハ普通ノ勅令ニ依ルベク、幸福増進ヲ目的トシテ居ル、憲法第九條ヲ以テ廢セラルベキモノデ、危害ノ防禦ヲ目的トスル緊急勅令即チ憲法第八條ニ據テ廢止スベキモノデハナイト思フ、殊ニ憲法上ニハ緊急勅令ヲ廢止スルニハ、緊急勅令ヲ以テセヨト云フ規定ハ存在シテ居ラヌノデゴザリマス、此點ニ關シマシテ先例ガゴザリマス、明治二十七年勅令第二百六十七號ヲ以テ同年勅令第二百三十四號ヲ廢止シタ云フ實例ガアル、明治二十九年勅令第二百九十八號ヲ以テ同年勅令第二百四號ヲ廢止シタト云フ實例ガアル、併ナガラ此先例ハ違憲ノ先例デゴザイマシテ、此先例ノ下ニ隠レテ而シテ緊急勅令ヲ廢止スルニ緊急勅令ヲ以テスルト云フノ論據ト爲スト云フコトハ、憲法ノ條規ノ上ニ於テ如何ニシテモ解スルコトが出來ヌノデアリマス、然ルニ前内閣ハ此勅令ヲ廢止スルニ當シテ、憲法第九條ノ條規ニ基カズシテ、憲法第八條ノ條規ニ基キマシタノハ、取りモ直サズ憲法ノ條規ヲ無視シタモノデアルト云フコトヲ確信スルスルノデアリマス、是ガ質問ノ第三デゴザイマス、諸君立法ノ變例ヲ常例ニ恢復ヲ致シマスルト云フコトハ、議院ニ於テ有スル當然ノ權利ヲ回復スル所以アリマス、又是ノ如キノ審査ノ權能ヲ憲法ノ條規ニ基キマシテ完全ニ施行スルト云フコトハ、議院當然ノ義務デゴザイマス、現政府ハ元ヨリ本員ノ質問致シマスル第一第一第二第三ノ理由ニハ、深く同情ヲ寄セラル、コト、私ハ確信シテ居ルノデゴザイマス、果シテ然ラバ現政府ハ憲法

第八條第二項ノ條規ニ從^テ、明治二十八年勅令第二百五號竝ニ勅令第二百六號、及第二百四十二號、即チ戒嚴令適用ノ勅令、新聞紙發行停止ノ勅令、並ニ之ヲ廢止シタル勅令、此ノ三ツノモノハ共ニ^{シテ}、帝國議會ニ提出セラレテ、承諾ヲ要求セラル、ニ相違ナイモノト確信致シテ居リマス、又必ズ左様ナカラシケレバ相成ラヌ次第アラウト存シマス、果シテ私同様ナ御趣意ニ御解釋ニ相成^{シテ}居ルト致シマシタナラバ、現内閣が此ニツノ勅令ヲ當議會ニ提出セラレ、又諸君ノ審査ヲ請ヒ、諸君が審査ヲセラレテ、憲法上帝國議會ノ有スル權利ヲ完全ニ現ヘシ來ルベキノ日、即チ提出セラルノ時期ト云フモノハ、凡^ク幾日頃ノ御豫定アルデアラウカ、明日ニアルデゴザイマセウカ、明後日ニアルデゴザイマセウカト云フコトヲ伺ヒタイト云フノガ、是ガ質問ノ第四ニアリマス、質問ノ要點ハ右ニテ盡キテ居リマスル、實ニ緊急勅令ハ非常ノ命令テゴザイマシテ、非常ノ場合ニアラザレバ發スルコトヲ得ザル性質ノモノデアル、然ルニ非常ノ場合ナラザルニ名ラ非常ノ必要ニ藉リテ、非常命令ヲ發布致シマシテ、議會閉會中ニ於テ憲法上帝國議會ノ有スル權利ヲ無視シ、輕蔑シ、濫用シ、而シテ議會ト云フモノヲ、權能ヲ認メナイ惡慣例ヲ屢々繰勇内閣、非立憲内閣、藩閥内閣が繰返シテ居リマス、幸ニ立憲的内閣、殊ニ政友會ノ内閣——ト申シマシテハ少シク語弊ガアルカ存ジマセヌガ、政友會及其他ノ混成内閣、此内閣ニ於キマシテハ、斯ル惡慣例ト云フモノヲ全然打消シテ、誠ニ善美ナルトコロノ立憲政體ヲ樹立スルト云フノ基礎ヲ、此緊急勅令不承諾ノ下ニ立テラル、ト云フコトヲ希望シマス、此内閣ガ有終ノ美ヲ濟サル、ト云フコトハ、固ヨリ何時ノコトアルカハ存シマセヌケレドモ、免ニ角有始ノ美ヲ此點ニ於テナサル、ト云フコトハ、甚ダ善キ事ニアラウト思フノデアリマス、誠ニ善意ノ質問ヲ致シタノデゴザイマスカラシテ、善意ノ答辯アラレマシテ、サウシテドウカ西園寺内閣ヲ全ク憲政内閣ノ歴史ノ第一頁ニ置キタイト云フ、諸君ヨリ御依頼モ何モゴザイマセヌガ、私ニ取テハ餘り譽メタクナイ人ヲ譽メテ上ゲルノデゴザイマス、誠ニ此内閣ヲ極メテ歡迎致シマスルが故ニ、ドウカ此歡迎ガ後ニハ不歡迎ト云フ状態ニ立至ラナイヤウニ、善意ヲ以テ御答辯アランコトヲ切望致シマス、緊急勅令が議場ニ出テ、當時ノ事情ヲ審査シテ、サウシテ大イニ其非ヲ鳴ラシテ、戒嚴令ノ適用、新聞紙ノ取締ノ問題ニ關シテ、盛ニ争フベキ時期ガ今ヨリ晩クトモ五日若クハ七日ノ間ニアランコトヲ切望致シマス○議長(杉田定一君) 議事日程ノ第一、陸海軍ニ屬スル臨時事件費特別會計終結ニ關スル法律案第一讀會ニ移リマス、議案ヲ朗讀致サセマス

算額ヲ一般會計ニ移シ使用スルコトヲ得
第五條 前二條ニ規定シタルモノヲ除クノ外陸海軍ニ屬スル臨時事件費支
辨ノ諸費ニシテ既ニ契約ヲ爲シ又ハ仕拂ノ義務ヲ生シ其ノ會計年度内ニ
支出ヲ終ラサルモノハ其ノ支出未済ノ豫算額ヲ一般會計ニ移シ使用スル
コトヲ得

第六條 陸海軍ニ屬スル臨時事件費特別會計ニ於テ歲計剩餘アルトキハ一
般會計ノ歲入ニ繰入ルヘン
(大藏大臣法學博士阪谷芳郎君登壇)

○大藏大臣法學博士阪谷芳郎君 此法律案ハ、臨時軍事費特別會計ノ法律ニハ、
年度ノ閉鎖ニ關シマスル規定ガゴザイマセヌ、此度平和克復ニナリマシタニ付キマシテハ、
茲ニ閉鎖期限ヲ定メマシテ、臨時軍事費特別會計ヲ、速ニ整理シテ、其整理未済ノモ
ハ、一般會計ニ移シテ、其後ハ特別會計ヲ廢スル、斯ウ云フ趣意ノ法律也ゴザイマス、
御協賛ヲ願クテ置キマス

○議長(杉田定一君) 別段御質問ガゴザイマセヌ故ニ、日程第一、右議案ノ審査ヲ
付託スペキ委員ノ選舉ニ移リマス

第一 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉
○元田肇君 本案ノ委員ヲ九名トシ、議長ニ於テ指命スペシトノ動議ヲ出シマス
○議長(杉田定一君) 元田君ノ發議通、九名ノ委員議長指名ニ御異議ハゴザイマ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕
○議長（杉田定一君） 御異議カ無イト認メマス、議事日程第三、作業會計法中改正法律案第一讀會ニ移リマス、議案ヲ朗讀サセマス

第三 作業會計法中改正法律案
（書記朗讀）

第一條中「廣島鑛山」ヲ「海軍採炭所」ニ改メ第二條第二項ノ次ニ左ノ一項ヲ
加フ
海軍採炭所据置運轉資本ハ十萬圓トシ漸次一般會計ヨリ繰入ス

本法ハ明治四十年度ヨリ之ヲ施行ス
〔政府委員若槻禮次郎君登牘〕

○政府委員(若槻禮次郎)君　海軍採炭所ノ事業ハ、一種ノ作業アゴザイマス故ニ、之ヲ一般會計カラ離シマシテ、作業會計トシテ特別ニ經理スル方ガ、相當デアル、斯ウ云フノガ本案ノ趣意アゴザイマス、ドウゾ御協賛アランコトヲ希望致シマス

○議長(杉田定一君) 別段御質問モゴザイマセヌデ、日程ノ第四、右議案ノ審査ヲ付託スベキ委員ノ選舉ニ移リマス

第四 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉
元田篠吉 本案ノ委員モシ名ト致シマニ、議長ノセ

（「賛成」、「異議ナシ」と呼フ者アリ）

○議長(杉田定一君) 元田君ノ發議通り御異議ゴザイマセヌカ

○議長(杉田定一君) 御異議が無いた認メマス、議事日程第五、國債整理基金特別會計法案ノ第一讀會ノ續キニ移リマス

第五 國債整理基金特別會計法案（政府提出） 第一讀會（續）
報告（委員長）

國債整理基金特別會議法案（政府提出）

道理デアル、故ニ此特別法案ハ今日ノ場合ニ於テ、最モ適當ナル方法ト認ムルヲ以テ、十三名ニ對スル十八名ノ多數ヲ以テ決シタノデゴザイマス、是モ各賛成諸君カラ議長ノ手許ニ通告ニナシテ居リマスカラ、詳細ナコトハ、自然此壇ニ於テ述ヘラル、デアラウト思ヒマスカラ、私ハ之ヲ省略致シマシテ、此國債整理基金

成野陽吉君登壇

長(杉田定一君) 淺野陽吉君
(浅野陽吉君登壇)

○淺野陽吉君 唯今ノ委員長報告、即チ政府提出案ニ反対ノ意見ヲ主張致シマシテ、原案ノ廢棄ヲ唱へント欲スルモノニアリマス、先日來委員會ニ於テ數日ヲ重ね、政府當局者ノ本案ヲ出シマシタ趣意ヲ、段々尋ねテ見マスルト、畢竟スルトコロ、此本案ヲ政府ヨリ提出致シマシタ趣意ハ、唯今日、ヨリ以上ニ公債ノ價格ヲ引上ダテ置イテ、サウシテ他日益公債募集ノ便宜ヲ圖ラウト云フヨリ外ニハ趣意ハナインデアグテ、今委員長報告ノ通此案ヲ以テ減債ノ基金トナシテ、段々公債ノ減額ヲシテ往カウト云フ趣意デアルト云フコトハ、口ニ之ヲ言フコトが出來テ、實際ニ於テ計算上其實ヲ舉グルコトハ出來ナイノデ、唯徒ニ此減債基金ト云フ、即チ國債整理基金ト云フモノ、實際ハ、漸次國債ノ價格ヲ増加スルニ止マルノデアルト、私ハ信ズルノアルカラ、今日ヨリ少シクタノモ、是ハ全ク戰勝ノ效果デアル、即チ陸海軍が戰場ニ捨テ、吳レタ血ト骨トニ依シテ、我國ノ陸海軍ハ戰場ニシテ、我國ノ陸海軍ハ戰場ニシテ、吳レタ命、即チ血ト骨トニ依シテ、我國民ハ歐米各國ノ經濟社會ニ對シテ、偉ナル信用ヲ購ヒ得タト私ハ信ジマス、今日マテ戰時ニ於ケル外債ノ募集が遺憾ナク採取シタルノモ、是ハ全ク戰勝ノ效果デアル、即チ陸海軍が戰場ニ捨テ、吳レタ血ト骨トノ價デアルト信ジマス、「ボーツマウス」講和談判ハ國家ノ元老、若クハ元勳ト云フ名ノアル人々、若クハ前内閣即チ桂内閣ニ依シテ、遂ニ國家ノ汚辱ヲ點ジマシタケレドモ、幸ニシテ此陸海軍ノ忠勇ナル勵キハ、各國民ニ對シテ偉大ナル信用ヲ世界各國ヨリ買ヒ得タト云フコトノ恩惠ガアルト存ジマス、此戰勝ノ結果ニ依シテ購ヒ得タル我國ノ信用ノ程度ハ、左程薄弱ナモノハナイ、強テ今日此公債整理基金ト云フヤウナ制度ヲ作ラナクトモ、我帝國ニ於テハ、將來十分ニ信用ヲ維持シテ往シテ、公債ノ便宜ハ十分享ニアルト本員ハ信ズルノデアル、又我國民ノ經濟狀態ヲ觀察シマスレバ、戰爭ノ結果膨脹シマシタ通貨ノ隋勢ハ今以テ經濟社會ニ横溢シテ居ルノデアル、貨幣ハ餘ツテ居シテ、而シテ皆警戒心ノタメニ事業が起ラヌ、從テ金利ハ漸次低下ノ状勢ヲ呈シテ居ルノデアル、此際ニ當シテ強テ減債基金ノ如キモノヲ——此制度ヲ設ケナクトモ、公債ノ價格ト云フモノハ、漸次騰貴ノ形勢ヲ保ッガ、今日經濟界國內ノ狀況デアルト私ハ信ジマス、此際ニ當シテ此減債基金制度ヲ置イテ、一層公債ノ價格ヲ引上ゲルト云フコトハ、油ヲ掛ケルト云フコトハ、寧ロウナ政策ヲ執シテ、公債ノ價格ヲ上げテ、益々公債募集ノ便宜ヲ圖シテ、サウシテ亂暴ナル財政計畫ノ便宜ヲ茲ニ圖ラントスルト云フコトハ、如何ニシテモ國民ノタメ國家ノタメニ贊成ノ意ヲ表スル譯ニイカヌノデアル、若シ我國ノ政體が露國若クハ支那ノ如クニ、國家メニ慶ブベキコトデアル、併ナガラ一ノ經濟社會ノ秩序ヲ或ハ惑亂シャシナイカト云フヤノ状態ハ海外ヨリ如何ニシテモ窺フコトが出來ナイ國度アレバ卒サ知ラズ、古今未嘗有ノ戰争シテ、古今未嘗有ノ勝利ヲ占メテ、サウシテ尙其間ニ財政ヲ維持シ來シテ、鞏固ナル我國ノ財政狀態ハ、明カニ如何ニ此非立憲的舉動ヲナス内閣ノ下ノ財政ト雖モ、歲入出ノ状態ハ明カニシテ、國家ノ法律ト立憲政治ノ恩恵ニ依シテ世界ニ暴露シテ居國度ゴザイマス、隨シテ世界列國ノ人ハ減債基金ノ如キモノヲ信用シナシ、寧ロ直接ニ

我財政ノ状態ヲ見テ始メテ信任ヲ下スアラウト思フ。若シ此基金制度ヲ置キマシタトヨロガ、万一國家前途ノ財政ニ、此基金ノタメニ危イ兆ヲ生ズルコトガアツテ、財政ノ基礎ヲ危クスル憂ガアリマシタナラバ、法律ノ下ニ基金制度ノ存立ヲ世界列國ニ示シマシタトヨロガ、列國ノ人民ハ唯基金制度ノ存在ノミラ信用シテ、財政ノ基礎ヲ見ナイデ、我國ヲ信スル程、即チ現内閣ノ想像スル程、愚ナル人民アヘナイト本員ハ信スル、是本員ガ第一ニ此本案ニ對シテ反対ヲ表スル所以アリマス、本案ヲ採用シマシタナラバ——國家今日ノ内外ノ状勢ニ於テ必要ノナイ本案ヲ採用シマシタナラバ、一二富豪債基金——國債償還ノ目的が是三依ツテ達セラル、ノデアラウカト云フコトハ、餘程疑ハシト思ヒマス、御承知ノ通ニ此三十九年度ノ政府提出ノ豫算案ニ依ツテ、我國將來ノスト信ズルノアリマス、又深ク考ヘテ見マスレバ、此國債整理基金ト云フノガ、果シテ目的ヲ達シ得ルコトが出來ルデアラウカ、疑ハシト思ヒマス、政府者ガ言フ通、果シテ此減債基金——國債償還ノ目的が是三依ツテ達セラル、ノデアラウカト云フコトハ、餘程疑ハシト思ヒマス、御承知ノ通ニ此三十九年度ノ政府提出ノ豫算案ニ依ツテ、我國將來ノ財政ノ状態ヲ推測シテ見マスレバ、殆ド此國債整理基金ト云フ名ヲ設ケテモ、其實が無クナルコトニナツテ居ルト私ハ信ジマス、三十九年度ノ歳出入入ニ依ツテ、四十年度以下ノ——以後ノ財政ノ状態ヲ推察シマスレバ、如何ニシテモ此歳出ノ總額ハ四億三千萬圓以下ハナカラウト、私ハ推察ヲ致シマス、本年ノ豫算、即チ三十九年度ノ豫算ノ中、通常經費ニ屬スルノガ、大藏大臣ノ説明ニ據レバ、一億六千万圓アル、其中時局關係ノ中、經常費ノ性質ヲ帶ビテ後年度三瓦ルノガ一億七千万圓ト云フコトデアル、之ヲ言ハレ、根本ニ行政刷新ヲヤラナイ以上ハ、政費ノ節減ト云フモノハ、ムダカシトイ思セレバ、四億三千万圓ト云フ金額ハ、四十年度ノ歳出ニ於テ決シテ免カル、コトノ出来ナイ金額デアルト考ヘル、是ハ私ノ推察デハナイ、大藏大臣ノ説明ノ材料ヲ綜合スレバ、斯クナルノデゴザイマス、而シテ西園寺首相ハ行政刷新ハ斷ジテヤラヌ、打切りテアルト、陸軍ノ復舊ハ、御承知ノ通ニ六箇年、海軍ノ復舊ハ九箇年間ノ性質デアルト云フコトハ、陸海軍大臣ノ説明ニ依ツテ明カデアル、尙満韓派兵費ノ如キモ、將來ニ向テ、ラウト思ヒマス、是ガ想像シ得ラル、歳出ノ豫想額デアラウト思ヒマス、而シテ此歳出ノ繼續シテ居ツテ、何時之ヲ取除ケルコトが出來ルカ、殆ド今日ニ於テ當テハナインデアリマス、是ノ如キ推測ヲ下シテ見マスレバ、十中八九後年度ニ瓦ル繼續費ノ性質ヲ帶ビテ居ス、其他滿韓經營費ノ如キ漸次年ヲ逐ウテ、是ハ増スバカリテアラウト思フ、當分ノノハ——其外ニ陸海軍大臣ノ説明ニ據レバ、軍備擴張ハ尙此外デアル、他日時期ヲ待テテノヲ提出セント云フコトヲ明言サレテ居ル、必ズ將來是ハ一二年ノ中ニ出ルコト、信シマス、是ノ如キ推測ヲ下シテ見マスレバ、四十年度乃至四十一年、二二年一度ニ於テ歲カト云フコトヲ計算致シマスレバ、三十九年度ノ豫算ヲ見テ看マスレバ、總額四億九千萬圓ト云フコトデアル、其中ニ公債ノ金額ガ八千万圓上ガツテ居リマスカラ、是ハ無論ノ方針ヲ以テ組立テラバ、ナラバ、或ハ遙四億ヲ超エテ五億ニ近ク歳出豫算ノ上ニ現ハレテ來ルデアラウト私ハ信ズル、サウシテ之ヲ償フトコロノ歳入ノ財力ハ、ドレダケアルテ財源ニアラウト信セラレルダケノ彈力ノアル財源ノナイノガゴザイマス、ソレヲ總計シマスレバ、御承知ノ通ニ一千五百万圓近クニナルノデアル、是ヲ無論引去リマスレバ健全ナル三十九年度ノ財源ハ、三億九千万少シ上ニ過ギナイノデアル、如何ニシテモ、是ハ四十年度以後ノ財源ヲ調ベテ見マスレバ、是以上ニ取レルト云フ見込ハ先ツ立難イモノト

私ハ信シマス、其外三大藏大臣ノ説明ニ據リマスレバ、満韓地方ニ於テハ撫順若クハ東清、若クハ京義線ノ如キ利源ガアルト云フケレドモ、是等ノ利源ヨリ國家ノ收入ヲ増スト云フコトハ、多大ノ費用ヲ投ジタ後デナケレバ、出來ナイコトデアラウト私ハ信シマス、シテ見レバ歲入ト歲出ヲ想像シテ、四十年以下ノ計算ヲシテ見マスレバ、歲入ニ於テノ缺陷ハ恐クハ一億ニ近イ缺陷が必ズ生ズルデアラウト私ハ信シマス、是ハ統計ノ上ニ斯様ニ現ハレルノデアル、諸君モ亦必ズ統計ノ數字ニ訴ヘテ計算ヲナサツタナレバ、私ノ計算ト略々同一ノ結果ヲ生ズルデアラウト思ヒマス、是ニ據リマスレバ、如何ニシテモ此一億一千萬圓ノ國債基金ヲ積ムト云フコトハ、健全ナル財源ヨリ產出スコトハ出來ナインデアル、八千万以上ニ近イ公債ヲ起サナケレバナラヌ、此一億一千萬圓ノ基金ト云フモノヲ積ムコトハ計算か――算盤が既ニ許サナイコトデアルト私ハ思ヒマス、而シテ此一億一千万圓ノ内容ヲ段々調べマスレバ、公債ノ金利ガ既ニ本年モ來年モ再來年モ八千万圓以上ニアルノデアル、差引僅カ二千万圓内外ノ元金ヲ拂ハンガタメニ、一般收入

ヨリ早ク既ニ一億一千萬圓ノ金額ヲ引去ラネバナラヌト云フ、茲ニ法律ヲ作ル必要が
殆ドナイト私ハ思フ、其名がアシテ其實ハ殆ドナインデアシテ、却テ二千万圓ノ元金ヲ拂
ハンガタメニ、年々今後數年間ハ八千万圓ニ近イ新公債ヲ起サナケレバナラヌ又形勢ア
アルト信ジマス、是ノ如ク歲入歲出ノ計算ノ上カラ割出シマスレバ、國債整理基金ト云
モノハ、偶以テ元金ヲ二千万圓減ラス傍ニハ、年々八千万圓近クノ新公債ヲ起ストモ
コロノ法案アル、差引シテ五六千万圓ノ公債ハ、却テ年々殖エテ往クノデハナイカト思
ヒマス、若シ之ヲ極端ニ申シマシタナラバ、減債ヲ二千万圓近クヤシテ、一方ニハ數年ノ
間八千万圓近クノ増債ヲ行ハナケレバナラヌ、殆ド其名ガアシテ、其實ハ遂ニ亡ビテシマフ
ト云フヤウナコトハ、此財政ガ斯ク致サシメル結果アルト私ハ思フ、茲ニ現内閣ノ一員
アル加藤外務大臣ノ如キハ、野ニ居ラレトキニハ、極力口ヲ極メテ、現内閣ノ百
ナ、前内閣ノ此財政方針ニハ反対ヲセラレテ、併セテ此減債基金ノ如キモノニハ、口ヲ極
メテ、否ナ、筆ヲ極メテ反対ノ意ヲ表シテ、社會ニ對シテ、教師ノ地位トナシテ、是ヲ社會
ニ向クテ此案ハ非ナリ、減債基金ノ如キモノハ我國ニ於テ採ベルカザル政策アルト云
フコトヲ主張サレタトコロノ一人テゴザイマスルガ、一度廟堂ニ立タレテ、茲ニ二十日カ
三十日僅か經過シタ今日ニ於テサヘモ寂々寥々一言ノ聞ク所ガナインデアル、併ナガラ其
胸中ニハ必ず是ハ反対デアラウ、政治家ノ德義サモアルベキコト、私ハ信ズル、是ヲ見レ
バ此減債基金案ト云フモノニ向クテハ、内閣ノ全體モ亦一致ナリ、必ず不一致ノ事
柄アルト私ハ思フ、若シ今日ノ加藤外相ノ態度が真正アルナラバ、過日ハ虛偽アル
アル、過日が真正アルナラバ、今日ノ態度ハ虛偽ト云ハナケレバナラヌ、人間ノ豹變
是ノ如ク速ニシテ、迅速ニシテ、氣樂ニ往クナラバ、誠ニ人間ノ生活ハ氣樂ナモノト思フ、
併ナガラ加藤高明氏、又一個ノ政治家アル以上ハ、必ず此基金案ニ對シテハ内閣ノ
一員トシテ反対ヲ表セラレテ居ルニ違セナ、内閣ノ意見、既ニ本案ニ對シテハ不一致アル
アルト本員ハ信ジマスノミナラズ此法案ノ完結ヲ告ゲテ、其目的ヲ達スルニハ、今後三
四箇年ノ長歲月ヲ要スルノアル、大藏大臣説明ノ如ク、今日ノ状態ハ戦後非常ナ變
化ヲ來スト云フコトハ、誰モ知テ居リマスガ三十四箇年間是が無事三年々一億一千萬
圓ヲ、特別會計ニ繰入ガ出來ルト云フコトハ、誰が保證ガ出來ルノアルカ、歲出ハ益
增加ノ傾カアシテ、歲入ニ如何ニシテモ增加ノ傾ノアルト云フコトハ、事情ガ許シマセヌ、
ソレニ向クテ、三十四箇年繼續シテ、之ヲ無事ニ通過セシメナケレバ、此效力ハ吾ニハ收
ムルコトハ出來ナインデアル、二十四箇年ノ長年月ニ瓦ル茲ニ約束ヲ御互ニ設クルト云
フコトハ、却テ將來敏腕ナル財政家ガ出タトキニ、即チ臨機ノ處置ヲシテ、財政整理ノ
大手腕ヲ振フト云フコトハ、是ニ依テ妨げラル、惡因縁ヲ作出スノデハナオカト私ハ思セ

シテ歲入ニハ賴ミ寡ナノ今日ニ於テ、是ノ如キ改策ノ根本ヲ立テルト云フコトハ、寧ロ之ヲ廢棄スルが却テ安全ニアリ、内閣ノタメニ得策アル、斯様ニ眞意ヲ以テ信ズルカラ茲ニ、茲ニ反対ノ意見ヲ述べテ、廢棄
○望月小太郎君 講長
○議長（杉田定一君） 望月小太郎君
〔望月小太郎君登壇〕
○望月小太郎君 諸君、本案ノ運命ハ、議論ヲ闘ハセズシテ、大勢ハ既ニ定ツテ居リ
マヌニモ拘ハラズ、尙私ハ茲ニ數言敷衍ノ必要ヲ感ジマシタ、ト云フ次第ハ頃日委員會
ニ於テ本案提出ノ政府ノ辯明ト言ヒ、又是ガ贊成ノ御意見ト云ヒ、露骨ニ申上ゲマス
レバ、說イテ未ダ詳カナラザルト云フ憾ミヲ本員ニハ感シタノアリマス、又從ツテ是有ニ對ス
ル反対論ノ御議論ヲ謹聽致シテ見マスレバ、大石君ノ如キ、島田君ノ如キ、
議論家ノ間ニスラ、其反対ノ標準ハ、失禮ナガラ多ク是皮想的評論ニ過ギンバ半バ
ハ悲觀的想像說ニ過ギナイトシカ本員ハ感ゼヌノデアリマス、況ヤ本案ノ運命ハ、戰時
ニ於テ多大ノ犠牲ヲ供シタコロノ忠愛ナル國民ニ向ツテ、吾々ハ尙前途其負擔ニ向ツ
テ堪ヘテ貴ハナケレバナラスト云フ境遇變轉ノ國運ニ際會シタル今日、惡稅ノ改良ス
キモノハ勿論之ヲセナケレバナラズ、サリナガラ負擔其物ノ増額ニ於テハ勢ヒ是ヲ忠愛ナル
國民ニ向ツテ訴ヘナケレバナラスト云フ是レ本案ノ緊急ニシテ必要避クベカラズト云フ事
所以ニ、其精神ニ向ツテハ、本員之ヲ明白ニ簡潔ニ其所感ヲ述ベテ、諸君ノ御批評ヲ
願ハウト思ヒマス、本員が本案ニ贊成スルト云フ趣旨ハ、極メテ簡単アル、贊成ノ要
點ハ之ヲ四ツニ分ケマスル、即チ本案ハ既往竝ニ將來ニ於ケル外債ニ對スル、否國債ニ
對スルノ信用維持上避クベカラザル政策デアルト云フ事、是ガ贊成ノ一要點、第二ニ
於テハ將來ニ於ケル戰後經營ニ必要ナル資金、殊ニ殖產興業上ニ關スル國債信用ノ
維持上、避クベカラザル必要案トシテ贊成スルト云フ是ガ二點、第三ハ既往公債ノ整理
竝ニ内外資本共通ノ便宜ノタメ、本案ハ是又必要避クベカラザルト云フ事、第四ニ於
テ本來基金制度ナルモノハ其實文明諸國が認メテ以テ安全ナル財政政策シテ居ルモ
ノデアルト云フ、此四箇ノ論據ヨリシテ、本員が贊成ノ趣旨ヲ簡單ニ申述ヘテ、見ヤウト
思ヒマス、諸君、國家ノ信用ハ勿論白國ノ實力ニ依ルノ申マデモガリマセス、左リナ
ガラ自國ノ實力ヲ事實ノ上ニ現ハスマデハ自國民が思フが如ク、他國民が其國家ヲ信
用スルモノデナイト云フコトハ、論ヨリ證據、日本ノ軍事上ニ於ケル信用、即チ戰時ノ實
力ニ對シテ、御同様ニ日本國民ヨソ日露戰爭前既ニ之ヲ確信致シマンダガ、日本ハ勝
テカシ、ドリツク破れハ因ルト同情アル歐米諸國人も、此戰爭ニ於テハ日本ノ實力ハ、
戰爭其物ノ結果ニ依ラザレハ、之ヲ認メナカツタノアル、
且是ノ如シ、況ヤ平時ニ於ケルトコロノ國家ノ信用、即チ日本ノ財政上ニ實力ニ對シテ

ハ、唯今ノ反対ノ御意見ニハ偉大ナル信用アリト言ハレテ居ルガ、本員ノ見ル所ヲ以テ
スレバ、戰時ノ實力ヨリハ、尙平時ノ信用ニ對シ今日ハ其信認ノ程度甚ダ低クアルト
云フコトヲ證明セラル、ノアル、何トナレバ連戰連勝ノ我國ガ、而モ同盟國ノ英國ニ
向ヅテ其外債ヲ募集スルニ於テハ、第一回、二回、三回、四回、此同盟國ノ英國ハ日
本ガ勝テハ勝ツダケ、自國ノ利益ニナルニモ拘ハラズ、日本ニ貸付ケル外債ノ利子ニ至ツ
テハ、普通英國人が仕拂フトコロノ一倍以上三倍ニモ及シダルニアル、尙其高利ニ於テ
モ不満足デアル其以上ニ擔保ヲ出サナケレバナラスト云フコトハ、縱シ是前内閣ノ財政
政策が公債攻略ノ上ニ於テ誤タトハ言ヘ、結果ノ上ニ於テハ諸君ノ知ラル、ガ如ク、
同盟國ノ英國スラモ普通金利ノ一三倍以上ニ搥テ、加ヘテ擔保ヲ要求シタ云フ、是
ガ日本ノ財政ノ實力ニ於ケルトコロノ外國ノ信任アル、英吉利既ニ是ノ如シ、其他ノ
歐米諸國ガマシテ況シヤ地理歴史ノ異ナル此日本ノ事情ニ通ゼザルトコロノ外國ニ向ツ
テ、吾々日本國民が信ズルガ如ク、其財政上ノ實力ヲ信用セヨトマデ待設ケルノハ、是
ハ諸君世界ニ不通ナルトコロノ議論、即チ通セザルトコロノ議論デハナカラウカト本員ハ思
フ、免ニモ角ニモ本員ノ見ル所ノ世界カラ見タル日本ノ財政ノ實力ハ、斯ク薄弱ト信
對シテハ、年々三千六百万圓ズ、元利償還ノ基金法モ同様ナル制度ガ出來テ居ルカラ
ズルノデアル、ソレ故ニ歐米諸國ガ日本ハ過去又現在將ニ負擔セントシク、アルトコロノ
公債ヲ合セテ、此一十三億ノ國債ハ如何ニ整理シテ往クノデアラウ、是ガ日本が平時ニ
於ケルトコロノ實力ノ試験アル、其二十三三四億中、戰爭前ニ於ケル五億七千万圓ニ
對シテハ、年々三千六百万圓ズ、元利償還ノ基金法モ同様ナル制度ガ出來テ居ルカラ
安心デアルガ、残リ十七億、即チ日露戰爭ノ結果ニ依テ生ミタル其外債ハ、如何ニ日
本ハ之ヲ處理シテ往クデアラウカ、豈啻ニ現在ニ於ケル十七八億ノ公債處理ノミナラ
ズ、將來日本ガ此發展ト共ニ必要ナルトコロノ殖產興業ノ財源ト云ヒ、其他國防上ノ
經營ニ於テ避クベカラザル財源ト云ヒ、日本國民ハ現存シタル二十三三四億以上尙數
億ノ負擔ヲシテ往カナケレバナラヌ、此勇武ナルトコロノ日本國民ガ、戰爭ニ於ケルト均
シク、果シテ能ク平時ニ於ケル其財政ノ運用ヲ圓滿ニシテ往クヤ否ヤト云フコトハ、世界
ノ疑問デアル、諸君故ニ歐米諸國ハ縱シ日本ニ同情アリトハ云ヘ、好意ニ同情ヲ持テ
居ルトコロノ財政ノ實力ニ對シテハ、實ハ試験中ト本員ハ信ズルノデアル斯ル有様デゴザ
イマスカラ、此本案ノ目的タル日露戰爭ノ結果ニ依テ起スベキトコロノ十七八億ノ國
債整理ノ方法ガ付カナカタナラバ、此國債ノ時價ヲ維持スルコトノ出來ザルハ申スニ
及バス、前途ニ於テ起スベキ殖產興業ニ必要ナル資金ハ、何レカラ得ヤウト云フ御希望
デゴザイマスルカ、即チ少ナクトモ世界ノ普通金利以上ニ割三割否ニ二倍三倍ノ増加ヲ
拂フニアラザレバ、日本ニ放銀スル者ガナイト云フノガ、今日ノ世界ニ於ケル日本ノ財政
上ノ信用ト見テ居リマスル、ソレ故ニ現ニ前内閣ノ財務委員タル高橋君ガ、昨年ノ十
月ニ五千万磅ヲ四分利附キテ、而カモ無擔保デ借リタノデアル、併ナガラ是ハ無擔保
デアルトハ云ヒナガラ、其實此金ヲ以テ内國債ノ六分利附ヲ二億万圓拂ヒ、而シテ其
殘部ヲ以テ、外國ノ六分利附ノ一回ニ回ヲ拂フ、此拂フノモ來ル三月カラ之ヲ償還シ
始メルト、斯ウ云フ條件ニヨソ、是ハ無擔保デ以テ此公債ガ出來タノデアル、併ナガ
ラ英國資本家ヘ向シテ、高橋君ハ如何ナルコトヲ言フタカ、即チ日本前内閣ノ財政委
員タルモノガ歐米各國ノ財政家ニ向シテハ、斯ウ明々白ニ質言シテアルノデアル我政
府ノ財政政策ハ日本ノ信用ニ依頼シタルモノニ向シテ寸毫モ後悔又ハ失望ヲ來タサシム
ベキ原因是ナキハ予ノ確信スル所ナリ我日本ノ重要ナル財政計畫ノ一ハ國債元利ノ償
却ニ向シテ特別基金法ヲ定ムルニアリ、此目的ニ對シ我以肩ハ既ニ大藏省中新タニ一
局ヲ設ク即チ國債整理局ナリ右ノ基金ハ此局ノ特別取扱ニ屬シ、決シテ他ノ目的ニ
使用セズ而シテ其額ハ年々一億四千六百万圓ヲ一般歳入ヨリ特別會計ニ移シ以テ國

債ノ償却ニ應べ此特別基金ニ依テ我國ハ三十年内外ニシテ全ク國債ヲ償却シ得ラルベシ云々是ハ信用アルトコロノ記事ヨリ本員ガ諸君ニ證據ノタメニ提出致ス次第アフル、諸君、日本人トシテハ、如何ニモ遺憾ナル問ハレ方デハアルガ、併ナガラ貸方タル英米ノ資本家が日本ノ財力ニ付イテ安心ガ十分デナイト云フ結果、此質問ヲ起シタト云フコトハ、是ハ當然ノコトデアル、此當然ナル質問ニ對シテ、我財務委員ハ是ニ言質ヲ與ヘタノデアル、諸君、本員ハ之ヲ以テ日本國ノ言質ト認メルニ於アハ、獨リ本員ノミナラズ、大藏大臣モ之ヲ是認シタノデアル即チ此委員會ニ於テ、本員が此點ニ付イテ、大藏大臣ニ質問ヲ致シマシタ時ニ大藏大臣ハ答ヘタ、其速記録ニハ斯ウ云フコトヲ云ガラ日本國ヲ代表シタル財政委員ノ此言質ハ、縱シ法律的條件トシテ借リタノデハナカレ居ル、「外國人ノ安心スルタメニ必ズ高橋君ハサウ言フタラウト思フ、(笑聲起ル)又事情サウ云フコトヲ云フベキデアルト私ハ信ズル(高橋君ハ日本ニアラズ)ト呼フ者アリ」此高橋ノ言質、大藏大臣ノ是認シタル言質、如何ニモ高橋君ハ日本デハナイ、去リナガラ日本國ヲ代表シタル財政委員ノ此言質ハ、縱シ法律的條件トシテ借リタノデハナカレモ、即チ國家平時ノ財力ヲ試驗スルトコロノ其基礎タル德義的言質ト致シテ、ドコニ差支ガアル、デアル(ヒヤー)ト呼フ者アリ」此德義的言質ニ對シテハ、獨リ前内閣ノミナラズ、現内閣ハ勿論、尙況ヤ現内閣ヲ歡迎シタルトコロノ國民ハ、現内閣ノタメデハナイ其實自己ノ利益ノ上カラシテ、此質言ノ有無ニ拘ハラズ、減債基金ノ方法ヲ講ゼズシテ往カレヤウトハ、ソレハ自分勝手ノ理屈トシカ本員ハ信ゼラレナイ(「大出來大出來」ト呼フ者アリ)何トナレバ公債整理ノ基金法ガ、我國ニ於テ出來ナカツナラバ、既往否現在ニ於ケルトコロノ十七八億ノ國債ノ信用ト云フモノハ、直チニ歐米人不安ノ念ヨリ市場ニ擾乱來ス目前ノ損害、是レ則チ本員が第一ノ理由トシテ此案ハ必要缺クベカラザルモノトシテ贊成スル眞意ハ、實ニ茲ニアルノデアル、更ニ第一ニ至テ見ルト、「簡單」又「謹聽」ト呼フ者アリ)三十年ノ問題が簡單ニ往キマスカ(ヒヤー)大ニヤルベシト呼フ者アリ)第一ニ要點タル將來國防ニ必要ナル財源、若クハ殖産興業ニ必要ナルトコロノ財源ハ、勢ヒ是ヲ低利ノ公債ニ仰グト云フコトハ、是又諸君ニ於テモ是認セラル、コト、思フ、果シテ然ラバ、現時存シテ居ルトコロノ公債ノ整理ノ付カト、「簡單」又「謹聽」ト呼フ者アリ)二十年ノ問題ニ於テ、之が募り得ラレマセウ、是が則チ第一ニ於テ本員が此案ヲ贊成スルトコロノ要點デアル、又第三ニ於テ、今日ノ公債ヲ整理スルト云フ必要ハ目前ニ迫マシテ居ルト信ジマスル又内外資本ノ共通ハ、間、髮フ容レザル程、戰後ノ經營上大切ノ問題ト思ヒマス、此點カラ見マスルナイノニ、如何ニシテ新ナル公債ガ而カモ日本ノタメ有利ノ條件ニ於テ、之が募り得ラレマセウ、是が則チ第一ニ於テ本員が此案ヲ贊成スルトコロノ要點デアル、又第三ニ於テ、本員ハ事實ニ於テ日本ハ決シテ偉大デハナイ、極ク僅少ナル信用シカ得テ居ラヌト云フコトヲ數字ニ示シ得ラレヤウト思フ、(ノウ)又「ソレハ往カナイ」ト呼フ者アリ)諸君日本が偉大ナル信用、アルカ將タ僅少ナル信用ヲ得テ居ルカハ、試ミニ日露戰爭ノタメニ生ジタル内外公債ノ利子ヲ一覽致シテモ、明白デアル、先づ外債ノ方カラ見マスルト、第一回六分公債ハ其實幾ラニナシテ居ルカト云フト、八分五厘七毛ニナシテ居ル、第二回ノ六分公債ハ其實幾ラニアルカト云ヘバ是ハ九分三厘一毛デゴザイマスル、第三回四分半ノスラモ、其實ハ六分二厘ニナシテ居ル、更ニ内ヲ顧ミマスレバ、第一回ヨリ五回マデノ五分利付ノ公債ハ、名義ハ五分アリマスルガ、事實ハ六分六厘八毛ニナシテ居ル、又六分利付ノ公債ハ、其實八分二厘五毛ニナシテ居ル、斯ク致シマスレバ、日露戰爭ニ依ジテ日本が得クト云フ、論者ノ所謂偉大ナル信用ハ、實ハ平均七分八厘ニ當テ居ルト云フ數字ニナリマス、諸君、今世界一等國ノ公債ハ、平均三分以上ヲ出ヅル國ガ何處ニアリマセウ、吾々が認メテ以テ財政上不安ノ國アルト云フ(アルゼンタイン)ノ如キスラモ、三分半以上六分ノモノハ僅少ナル、白耳義ノ如キモノハ四分五

厘ナル、戰敗ノ露國アラム、尙且三分以上五分ノ公債、然ルニ世界ノ一等國トナリ、英國ノ同盟國タル日本が、世界ノ金利ノ二倍三倍以上ヲ拂テ、尙是デモ偉大ナル信用ガアルトハ如何ニ算盤ニ暗イ人ト雖モ、是ハ無理ナル結論ト本員ハ信ズルノデアル(セヤノ)ト呼フ者アリ)然ラバ則チ此高キ處ノ公債ハ一刻モ早クドウシテモ整理シテ、世界ノ金利ト平等ヲ保テ往カナケレバナラズ、若シ平等が保チ得ラレルトシ、即チ七分八厘ノ金利が半額ニナシテ、世界ト平等ヲ保ツトシタナラバ、今日拂テ居ル金利ヲ以テスレバ、十八億デハナニ二十六億ノ公債ヲ吾々ハ負擔シ得ラレルノデアル(拍手起ル)假ニ此十八億ハ戰爭ノ——不生產的ニ使ツトシテモ、殘ル十八億ハ殖產興業ノ方面ニ綽々トシテ餘裕アル費途ノ明カデアルマテ、吾々ハ公債ノ整理ハ必要ナルト信ブル、此公債ノ整理ヲゼナカッタ結果ハ、ドウデアルカ、井上君モソニ見エルガ炭礦鐵道會社ノ如キハ、有利ノ條件テ外資ヲ入レタニモ拘ハラズ、思フニ五分五厘以上彼は六分ニナラウト思フ、又關西鐵道ノ如キモ是ノ如キモノデアルト思フ、諸君我國ハ世界ノ金利ノ二倍以上若クハ三倍ノ金ヲ拂ウテ、而モ其高キ利息ノ金ヲ以テ、如何ニシテ門戸開放、各國均沾ト云フ亞細亞大陸ニ於テ吾々が戰後ノ經濟ヲ發達シ得ラレヤウト云コトガドウシテ結論が起リマセウ、(望月長夫君)此法律テ廉ク借リラレルト云フコトが全クナイト呼フ)ソレ故ニ若シ元金ヲ拂フコトガ出來ナケレバ、金利ダケ拂テ居アモ宣イデハナイカト云フ反對ノ議論ノ如キハ、俗ニ所謂後家ノ算盤、世界ノ大勢ニ通ゼザルコロノ數字ト私ハ論定セザルヲ得ナインデアル、斯ク申シマスレバ此基金制度ハ現在ノハ勿論ノ事、將來ノタメ吾々國民ハ戰時同様、所謂舉國一致ノ熱誠ヲ以テ、アラユル苦痛ヲ忍シテ、此基金制度ヲ通過スルト云フコトハ、國家今日ノ財政タ策トシテハ緊急避クベカラザルモノデアルト云フ、是が本員ノ贊成ノ第三ノ理由デアル、今一條アリマス、諸君第四基金ノ制度ハ、世界ノ強國が認メテ以テ安全ナル財政政策ト致シテ居ルト云フコトニ付キマシテハ、本員モ曾テ誤謬ニ陥リ即チ財政上不信任ナル智利、「アルゼンタイ」ノ外ニハナイモノダト思フタ、所ガ其實英吉利ニモ佛蘭西ニモ獨逸ニモ亞米利加ニモゴザイマス、否現時之ヲ繼續致シテ居リマス、之ヲ一分間外國ノ例ヲ申スコトヲ御許シヲ願ヒタイ、簡單ニ——諸君、英吉利ノ基金制度ハ二十一年前ヨリ七年前マテ續キマシテ、年々二億五千万圓ア、新基金制度ノ中入レテ參リマシテ、是が「トランスペール」戰爭ノタメニ動搖シタ結果ハ、ドウデアル百十磅ノ「コンソル」ハ九十磅ニ減シ遂ニハ十五磅ニ減額致シマシテ、今日英吉利ノ新内閣ハ、此減債基金ヲ復活スルニアラザレバ、英國ハ間接ニ五億万圓ノ損失ヲ來スモノデアルト云トガ、有力ナル財政家ノ輿論トナシテ居リマス、又佛蘭西ノ如キモ、九十二年前ヨリ實行政シマシテ、年々四千万法ダケ、此基金ノ中入レテ其外ソレニシテ尙甘シゼス、土地賣下代金ヲ以テ此基金ニ入レテ居ル、獨逸ノ如キハ元利債却ノタメ、特別ノ稅源ヲ定メテ、支出シテ居ル、即チ鹽稅國有財產拂下代金、又官有地ノ收入ト云フモノヲ一定ノ基金ニ入レテ居リマス、亞米利加ノ如キ、富強國ニ在シテモ、百十數年前ヨリ此制ヲ實行シテ、今日ハ公債額ノ百分ノ一以上、若クハ百分ノ五マツラ年々積立テ、基金制度ノ中入レテ以テ其國家ノ信用ヲ海外ニ維持シテ居ルト云フ、此安全ナル基金制度ニ對シテ、諸君我國ガ之ヲ採用スルニ何トシテ恥カシイコトガゴザイマセウ、況ヤ日本ハ此戰爭ノタメニ、一年五十六万ノ増加ト見マスレバ、二十四年掛ラクレバ増加シナイトコロノ人口ヲ、一舉シテ吾々ハ増加致シタノデアル以上ハ、此六倍大ノ新領土、若ク新領土ト見ルベキ所ノ亞細亞大陸、此二十四年ニシテ増加スベキモノガ、一朝ニシテ增加シタル此人口、此二ノモノニ對シテ——日露戰爭ノ結果トシテ得タル此二ノモノノ

ヲ、其費用ノ償却法ヲ講セナイト云フコトガ、果シテ是が安全ナル財政政策ニアリマセウカ、此償却法ヲ講ズルタメニ、茲ニ特別基金制度ヲ設ケルコトヲ以テ、人爲的ノ政策ダト攻撃スルナラバ、凡ソ世界ノ財政政策ハ皆人爲的政策ニアイモノハナイト本員ハ信ズルノアル、即チ人爲的ノ政策ヲ以テ、天然ノ信用ヲ發揮スル、是が財政運用ノ妙ア、本案ノ如キハ宜シク上下舉テ以テ之ヲ贊成スベシト云フノハ、實ニ此原因デアル(「ヒヤ」「ト呼フ者アリ」)終ニ臨シテ反対論ノ骨子ト云フモノニ向テ一言ヲ加ヘテ置キ、ウゴサリマス、反対論ヲ謹シテ承リマスレバ、二ツニツ有力ナル御議論ガアル、是ヲ茲ニ是非辯明スル必要ガアリマスカラ、今數分御割愛ヲ願ヒマス、反対論ノ一二曰ク、年々缺損ヲ生ズベキ前途ノ財政ニ對シ一ノ造織的ノ減債基金ヲ設ケルヨリハ、寧ロ其足リナイトコロダケ借りタラドウアルカト云フ御議論、此御議論ハ基金制度其モノ、目的ヲ誤解ナサレテ居ル論旨ト思フ、何トナレバ將來借りリモノハ暫ク措イテ、現在借りタモノ、整理ヲ付ケルニアラザレバ、如何ニシテ將來起スベキ財源ヲ得ラレマセウ、此故ニ是等ノ議論ハ深ク取ルニ足ラズトシテ、次ニ尤モラシク如何ニモ一度之ヲ聞ケバ同情ノ感ニ堪ヘナイトコロノ議論ハ、先刻モ承ハリマシク、即チ四十年度以後ノ財政ト云フモノノ上ニ於テハ、歲出入ニ不足ヲ生ズル、是ニ對シテ當局者ノ意見ハドウアルカト云フコトカラ、陸軍大臣、海軍大臣、大藏大臣ヲ追窮又追窮、而シテ其返答が不得要領デアルタ結果、之ヲ以テ愛國心ニ冷淡デアルカノ如ク呼バレタトコロノ御議論ガアル、諸君、此四十年以後ノ財政計畫が不得要領デアルト云フコトヲ攻撃ナサルノハ、寧ロ政界ノ事情ニ通セザルトコロノ俗論ト本員ハ信ズルノアル、(拍手起ル)一個人ノ寺内大臣、一個人ノ阪谷君、一個人ノ齊藤君ハ各、軍事財政ノ専門家トシテ一定ノ意見アルニ相違ナイ、サラナガラ一個人ノ齊藤君ナリ、阪谷君ナリ、寺内君ナリノ這入ダタコロノ内閣、其内閣ハ諸君ノ認メテ以テ憲政ノ一進歩ナリト歡迎シタル其内閣、此内閣ニ這入シタコロニ三君ハ、内閣ノ生レタトコロノ壽命ト共ニ、其命數ヲ等ウスル、即チ諸君ノ歡迎シタル西園寺内閣ハ、生レテ僅カニ四週間、乳ヲ飲ムカ、生キテ育ツカ、此儘艶レカ、(笑聲起ル)ト云フトニ付イテハ、實ニ國民が研究セネバナラストコロデアル、此四週間ノ短日月ナル内閣ニ向シテ、而モ日本が前古未曾有ノ大戰争ヲ爲シタ戦後經營ニ對シテ、内閣ノ意見ガドウアル、戦後經營ノ方策ヘドウアル、此答辯が出來ナケレバ是ハ不得要領デアルト云フニ至シテハ、是甚ダ事情ニ通セザルノミナラズ、試ミニ反対レカ、(笑聲起ル)ト云フコトニ付イテハ、實ニ國民が研究セネバナラストコロデアル、此四週間ノ地位ニ至シテ、果シテ之ヲ能クシ得ラマセウカ、(ヒヤ)「ト呼フ者アリ」是ハ寧ロ自己ニ於テ出來難キトコロノコトヲ、他人ニ向シテ難キヲ責ムルモノ(拍手起ル)ト本員ハ信ズレバ信ズル程、現内閣ヲ以テ憲政ノ一進歩ナリト歡迎シタル其言葉ハ、徒ラニ言葉ノ上ノ雅量ニシテ、其行ニ向シテハ頗ル狹量デアルト云フ遺憾ヲ抱クノアリマス、(拍手起ル)今一ツ反対ノ意見ニハ前途ノ公債ハ、其公債ヲ募ルベキモノ、產出スル所ノ利益ヲ以テ、元利ヲ償却シテ往々方法ヲ講ズルノアル、即チ朝鮮問題ニ向シテハ、朝鮮公債モ起リマセウ、満洲公債モ起リマセウ、鐵道公債モ起ル、斯ニ云フ公債が多々益、辨ズルダケノ日本ノ將來ノ利源開發ト云フコトニ向シテ熱中スルノアル、般鑑遠カラズ臺灣が六千万圓ノ公債ヲ募ラテ、臺灣ノ財源ヲ以テ裕ニ收支相償シテ居ルト云フ、此前途ヲ考ヘマスレバ、此將來ニ於ケル公債ノ基金ヲ如何ニスルカト云フコトハ、餘り憂フルニ足ラストコロノ御議論ト思フノアル(「ヒヤ」「ト呼フ者アリ」)要スルニ戰後ノ國家經濟ト致シテハ申スマデモナイコト、御同様舉國一致ノ實ヲ以テ如何ニシテ民力ノ發達ヲ圖リ、如何ニシテ貿易、增進ヲ企テルカ、此民力ノ發展、貿易ノ増進ト共ニ、政府ノ收入タ

ルベキ營業稅、所得稅ノ所得ハ增加致シマセウ、更ニ關稅ノ改正ヲ企テル、又ハ惡稅ノ改廢ヲ爲シ、進シテハ滿韓起業ノ利源ヲ以テ、算盤ヲ立ツテ往クト云フ、此外ヨリ八百萬ノ神様ヲ以テ内閣ヲ造ラテモ、此日本ノ財政政策トシテハ此上ノ明案ハナイモノト信ズルノアル、(笑聲起リ拍手起ル)以上本員ノ所論ニ反シテ、若シ反対論者ノ希望スルガ如ク、本案が否決ヲセラレタ曉ニハ、如何ナル結果ヲ日本ハ得マセウカ、現ニ委員會ニ於テ此案ハ否決サレハシマイカト云ノ風説ガ、倫敦ニ傳ハルヤ否ヤ、直ニ其公債ハ一磅四分ノ一下落シタノアル、又數日來此賢明ナル忠愛ナル諸君ノ大多數ハ、本案ヲ通過スルアロウト云フ氣配ガ、株式市場ニ現ハル、ヤ、八十圓臺ノ公債が九十九十五圓ニ上ル、外ニ於テハ五分利付ノ公債ガ二三磅騰貴シタ、況ヤ甚ダ極端ナルガ、反対ニ本案が否決サレタ曉ニハ如何ニナルカ、差當リ先年借りタ五億万圓ノ新舊公債ヲ償還シナケレバナラヌ、即チ目前ニ追テ居ル三月ノ外國市場ニ於ケル日本ノ公債ハ、必ズ響ニ聲ニ應ズル如ク下落スルデアル(「ヒヤ」「ト呼フ者アリ」)諸君、百圓ノ借錢ノ上ニ於テハ、少クモニ三千六百万圓以上五六千萬圓ノ損失ヲナス、五圓損圓ノ借錢ノ上ニ於テハ、少クモニ三千六百万圓以上五六千萬圓ノ損失ヲナス、五圓損シタラバ一億万圓ノ損失ガ、吾ミガ二三分ノ間ニ國家ノ上ニ蒙ラシムベキモノダラウト思フ、(拍手起ル)畢竟反対論ノ骨子ハ愛國心ニ媚シガタメ(「ノウ」「又ハ」「ヒヤ」「ノウ」)ノ聲起ル)敢テ媚シト云フ——愛國心ノ目的タル國家永遠ノ財政上ノ信用ヲ破壊スルト云フコロノ結果マデハ御推論ナサランカタトコロノ御議論デハナカラウカト、本員ハ信ズルノアル(「ヒヤ」「ト呼フ者アリ」)況ヤ苟モ現内閣ヲ以テ憲政ノ一進歩トマデ歎迎セラレタ其舌根ノ未ダ乾カサルニ、早クモ此現内閣ノ死活問題デハナイ——國家永遠戰後經營ノ第一主義タル此減債基金ニ反対ヲ云フコトハ、果シテ是ガ諸君憲政ノ益友デアルカ(「ヒヤ」「ト呼フ者アリ」)抑モ又戰後經營ニ對スルトコロノ、満場一致ノ大多數ヲ以テ通過シナケレバナラヌ問題ニ對スル政治家ノ行動トシテ是認シ得ベキモノカ(拍手起ル)本員甚ダ疑ナキ能ハザル次第デアル、申スマデモナキコト、政界ノ感情ニ風吹カレテ、(笑聲起ル)此國家永遠ノ前途ノ利害ニ關スル本問題ニ反対ト云フコトハ、本員ハ切ニ反対諸君ノ猛省ヲ望ムト共ニ、一人モ贊成者多ケレバ多キ程、ノ諸君が日本ノ如キ現状ニ於テ、政權ノ授受が未ダ立憲的ナラザル國ニ於テ、此現内閣ノ地位ニ至シテ、果シテ之ヲ能クシ得ラマセウカ、(ヒヤ)「ト呼フ者アリ」是ハ寧ロ自己ニ於テ出來難キトコロノコトヲ、他人ニ向シテ難キヲ責ムルモノ(拍手起ル)ト本員ハ信ズレバ信ズル程、現内閣ヲ以テ憲政ノ一進歩ナリト歡迎シタル其言葉ハ、徒ラニ言葉ノ上ノ雅量ニシテ、其行ニ向シテハ頗ル狹量デアルト云フ遺憾ヲ抱クノアリマス、(拍手起ル)是ハ一應尤デアリマスガ、前途ノ公債ハ、其公債ヲ募ルベキモノ、產出スル所ノ利益ヲ以テ、元利ヲ償却シテ往々方法ヲ講ズルノアル、即チ朝鮮問題ニ向シテハ、朝鮮公債モ起リマセウ、満洲公債モ起リマセウ、鐵道公債モ起ル、斯ニ云フ公債が多々益、辨ズルダケノ日本ノ將來ノ利源開發ト云フコトニ向シテ熱中スルノアル、般鑑遠カラズ臺灣が六千万圓ノ公債ヲ募ラテ、臺灣ノ財源ヲ以テ裕ニ收支相償シテ居ルト云フ、此前途ヲ考ヘマスレバ、此將來ニ於ケル公債ノ基金ヲ如何ニスルカト云フコトハ、餘り憂フルニ足ラストコロノ御議論ト思フノアル(「ヒヤ」「ト呼フ者アリ」)要スルニ戰後ノ國家經濟ト致シテハ申スマデモナイコト、御同様舉國一致ノ實ヲ以テ如何ニシテ民力ノ發達ヲ圖リ、敢テ此議場ニ勝敗ヲ争フ云フ趣意デハアリマセヌガ、實ハ内閣諸公ニ日本帝國ノ財政ガ是デ往ケルト云フ信用ヲ得ラル、カ、モウ一ツ元ニ遡ラテ此本年ノヤウナ豫算ノ杜撰

ナル不健全ナル有様デ、殊ニ日本帝國ノ財政ノ根本ガ、是テハ決シテ健全ナイト云フコトヲ、國民ハ見テ居ル、此點ニ十分ニ現政府が省慮セラレントヲ望ムノデ、私ハ此案ト相並ンデ日本帝國ノ財政ノ根本ガ、外ニ於テ確然ト立タネバナラヌ點ヲ論ジヤウト思フ、テ又内閣諸公ニモ十分此一ツノ減債基金法案位ヲ以テ、左程是ニ重キヲ措カズ、モウ一ツコニ迦シテ親切ニ帝國ノ財政ヲ料理セラレンコトヲ望ム、故ニ國民ノ現政府ニ希望シテ居ル財政上竝ニ其他ノ點ニ付イテ最モ現政府ニ勸告ヲ致シタイ考デゴザイマス、固ヨリ財政ト云フモノ、方針ノ立ツ立タヌト云フコトハ、決シテ此財政單獨ニ方針ガ立ツモノデハナイ、整理ノ出來ルモノデナイ、其外ニ内閣ノ内外施政ノ方針、陸海軍ニ對スル整理及其擴張ノ計畫、或ハ戰後ニ於ケル滿韓其他ノ經營ノ方針、此三大方針ガ立ツテ初メテ財政ノ整理ガ付クノアラヌアル、初メテ財政ノ基礎ヲ鞏固ニスルコトガ出來ル、之ヲ立テズシテ、財政ノミ獨リ鞏固ナランコトヲ欲スルノハ抑間違フタコトアハナイカト私ハ信ズル、何トナレバ政治ト云フモノハ金ノ出入ヲスルノガ政治ノ本職デナク、必要ナル國家ノ事務ヲナスガ上ニ於テ初メテ金ノ出入ヲスルコトガ起シテ來ル、其方針ガ立ズシテ此財政ノ整理ガドコデ付クデアラカト思フ、故ニ新政府ノ立ツ以來、國民が翹望シテ政府ニ聞カント欲スルトコロハ此方針ヲアル、内外施政ノ方針ノ立方モ間違ヒ、或ハ陸海軍整理、及擴張ノ程度ヲ間違ヘルカシテ、御覽ナサイ、此財政ノ整理ト云フモノハ、根本的カラ破レテ來ルノデアル、此減債基金法ナルモノハ、實ハ財政中ノ僅カノ小部分ニ居シテ、決シテ之ヲ以テ日本ノ財政ヲ立アルナド、云フコトハ、大ナル間違デアル、國民が此政府ニ向シテ、施政ノ方針、竝ニ陸海軍ノ整理及擴張ノ方針ヲ聞カントシトコロノ目的ハ、甚ダ失望ニ終ツタ、總理大臣が開會ノ初メニ當リテ、施政ノ方針ト稱スルトコロノモノヲ御演説ニナッタ、吾々モ謹聽致シタ次第ゴザイマスルガ、是ハ私ハマダ方針ト稱スル程ノ具體的ノモノデナイト考ヘテ居リマス、成程戰後ノ經營ヲ舉國一致デガナケレバナラヌト云フ、斯ウ云フコトハ、是ハマダ方針ニハナラヌ、若シ是ガ方針ナラバ、小学校ノ生徒モ、車夫馬丁モ皆此位ノコトハ知シテ居ル、是ハ詰リ戰後ノ經營ハ斯クタニセネハナラヌ、斯ウ云フ重大ナ問題ハ斯ウスルト云フ方針ヲ御示シニナラヌケレバ、決シテ施政ノ方針ト云フコトニハナラヌノデアル、偶ニ内政上ノ方針ト申スベキモノナ、此處ア無日本帝國ノ今日ノ狀態ハ、決シテ此行政整理ト云フモノヲセナケレバ、(高橋安爾君「問題外」ト呼フ)此機關ハ時勢ニ決シテ是ハ適合シナイト云フコトカラ、行政整理ヲ望ムノデアル、是ノ如ク日本帝國ノ……(「問題外」ト呼フ者多シ)時勢後レニナッテ數年前カラ主張シタトコロノ行政整理ガ、戰後ノ今日ニ於テ、是ガ未ダ整理モセザル中ニ、是ガ不需要ナリト云フコトハ、固ヨリ此行政整理ノコトタルヤ財政ノ上ニ大ナル關係ヲ生ズルノデアル、既ニ行政上ニ於テ既ニ不完全ナル點ガアル、又甚此豫算ノ出方ニ於テ杜撰ナル不謹慎ナル點ガアルト云フコトハ、一一ノ例ヲ以テ申シマシテモ、即チ此經常費ト臨時費ト云フモノヲ大イニ顛倒シタ云フノ感モアル、又或ハ復舊費、補充費、若クハ新計畫ニ係ル一部分ト看做サル、トコロノモノモ混同シテ居ルト云フコトハ事實デアル、殊ニ此豫算ノ出方ノ杜撰ナルコトハ、昨日モ委員會ガ僅カ數分間ニシテ五百万圓ノ金ヲ一筆ニ削ルト云フコトハ、實ニ奇怪千萬ナルコトデアル、是ハ當局者ニ於テモ是ノ如キ杜撰ノ豫算ヲ出シテ、成程之ヲ削シテ一方ニ生產的ニ用井ルト云フコトヲ言ヘバ、如何ニモ尤モラシク聞エマスルガ、併シ凡ソ内閣大臣ガ責任ヲ以テ國會ニ提出スル豫算ノ上ニ於テ、是ノ如キ杜撰ノコトハ將來ハ戒ムベキコト、私ハ

考ヘル、是ノ如キモノニアジテ本年ノ財政ト云フモノハ、殆ド之へ整理シタト云フ述ヘ見エズシテ、實ニ紛糾亂シテ居ル、頗ル此豫算ト云フモノハ杜撰不謹慎ト云フ言葉ノ裡ニ纏メルコトが出來ルヤウナ有様デアル、斯ウシテ此施政ノ方針、竝ニ陸海軍ノ整理、及將來ノ擴張ト云フコトニ付イテハ、全く方針ガナイト云フコトヲ斷言セラレテ居ルノデアル、然ルニ此國家ハ一日モ方針ノナイ下ニ活動スルコトハ出來ヌノデアル、凡ソ國務ヲ處理スルト云フコトハ、必ず是ハ繼續的關聯のノモノデアル、殊ニ陸海軍ニ至ツテハ最モ然リ、軍艦ヲ半分造ツテ之ニ乘ル譯ニ往カヌ、大砲ヲ半分造ツテ之ヲ擊ツ譯ニ往カヌ、然ラバ必ず是ハ繼續シタ事業、繼續シタ事業デアル以上ハ、必ズ初メカラ方針ヲ立ツテ、ヤルト云フコトガナケレバナラヌ、ソレハ或ハ此新内閣就任勿々總チノ調査其他ノコトガ、間ニ合ハヌト云フコトモ成程一理アル理窟デアツテ、是ハ決シテ苛酷三責メルト云フ譯ハアリマセヌガ、併ナガラ政治家ノ野ニ在ルト朝ニ在ルト問ハズ、時ノ國情ニ對スル政策ト云フモノハ、イツデモナケレバナラヌ、若シ是ガナケレバ政府ヲ攻撃シタト云フノガ、抑、間違アル(征矢野半彌君「議長、今ハ何ノ問題アリマス」ト呼フ)是ノ如クニ無方針デ、此國政ヲ料理スルト云フコトハ間違ツテ居ル、(征矢野半彌君「問題外」ト呼フ、又「謹聽タ」ト呼フ者アリ)財政ノ整理ニ付イテ根本的ニ關係ノアル議論ヲシ居ルノデ、「議長ニ注意ス、問題外」ト呼フ者アリ)未ダ其連絡ヲ知ラヌモノガ、サウ云フコトヲ云フノデアル、(「問題外」又ハ「謹聽」ト呼フ者アリ、議場騒然)最モ是ハ國家ノ重大ナル問題アルカラ、諸君が激動サル、コトハ甚ダ尤アル、(征矢野半彌君「今ハ減債基金ニ議事中ダ」ト呼フ)是ノ如ク政府が方針ヲ立テズシテヤルト云フ弊害ハ實ニ將來恐ルベキコトデアルト思フ、何トナレバ陸海軍本年度ノ豫算ハ決シテ本年度ニ打切レルモノデナイ、必ず是ハ來年度ニ至ツテモ此事業ヲ繼續セヌナラヌト云フコトガ、多々起シテ來ルが故ニ、政府が是ノ如キ「議案ニハ區別ケアル」ト呼フ者アリ)是ノ如キ問題ニ對シテハ、先ツ速ニ方針ヲ立て、ハシメズ、調查ニ迷ハシメヌトコロニ於テ、利害得失ヲ堂々論シサセルダケノ餘地ヲ與ニ、議員ヲシテ盲判ヲ捺カセルト云フコトノ弊ニ陷ルノデアル、是ハ我輩此内閣ノタメニ甚ダ惜ムノデアル、判然ト陸海軍々事ノ方針ヲ極メテ、サウシテ此議員ヲシテ贊否ニ迷ハシメズ、調査ニ迷ハシメヌトコロニ於テ、利害得失ヲ堂々論シサセルダケノ餘地ヲ與ヘ、サウシテ政府ハ十分ナル、之ヲ擴張スルノ理由ヲ説イテ、然ル後ニ此贊否ヲ決スルト云フコトヲセネハナラヌノデアル、是ノ如キ豫算ノ出方ヲスルト云フコトハ、抑、此政府ノ方針デナイト云フノデアルカ、或ハ勇氣ガナイト云フノデアルカ、吾々ハ甚ダ是ニ迷フ、若シ今日ノ如キ財政ノ有様ヲ以テ、一面ニハ豫算ノ上ニ大ナル、缺陷ヲ生ムツ、其缺陥ハ或ハ公債ヲ以テ之ヲ補填スルト云フヤウナ、頗ル不健全ナル有様ニ財政ヲ置イテヲ復舊費、補充費、若クハ新計畫ニ係ル一部分ト看做サル、トコロノモノモ混同シテ居ルト云フコトハ事實デアル、殊ニ此豫算ノ出方ノ杜撰ナルコトハ、昨日モ委員會ガ僅カ數分間ニシテ五百万圓ノ金ヲ一筆ニ削ルト云フコトハ、實ニ奇怪千萬ナルコトデアル、是ハ當局者ニ於テモ是ノ如キ杜撰ノ豫算ヲ出シテ、成程之ヲ削シテ一方ニ生產的ニ用井ルト云フコトヲ言ヘバ、如何ニモ尤モラシク聞エマスルガ、併シ凡ソ内閣大臣ガ責任ヲ以テ國會ニ提出スル豫算ノ全體ヲ見、日本財政ノ根本ニ迦シテ考ヘテ見ルノニ、決シ

テ是が來年ニ至ラナラバ、斯ク改マツテ來ヤウト思フコロノコトヲ今日デハ見出サヌ、吾吾ハ唯此政府ノ財政ノ立方ヲ徒ニ攻撃スルト云フ譯デハナイ、若シ政府ノ茲ニ提出シテアルトヨロノ財政計畫ノ立方ニ付イテ單ニ批評ヲ下シテ見レバ、茲ニ若シ政府ガ勇氣ガアレバ決シテ國ルコトハナイ、誠ニ易カノ間ニシテ處理スルコトガ出來ハセヌカト考ヘラレル、其概要ヲチヨット申セバ、吾ミガ斯ウスルガ宜イ、斯ウスルト云フ考デハナイガ、政府ノ出シテ居ルトコロノ財政全體ノ立方ニ付イテ一時ノ説ヲ立て、見レバ、先づ世界ノ形勢ニ鑑ミテ、殊ニ東洋ニ對外國ノ狀態ヲ考ヘレバ、此十四五年ノ間ニ於テハ、東洋ニ於テ日本ト衝突ヲ求ムルト云フ國ハ、先づ之ハナイ、ナイト申スヨリハ寧ロ之ハ不可能ノコトデアル、何トナレバ今日ノ戰爭ト云フモノハ、固ヨリ大仕掛ノ準備ヲセヌケレバ戰爭ハ出來ヌ世ノ中ニアリテ、茲ニ若シ帝國ト衝突ヲ求ムルト云フ國ガ、苟モ現ハレテ來ルナラバ、少ナクモ十五六年ノ歲月ヲ積マヌケレバ衝突ヲスルト云フコトハ出來ナイノアル、又日本ノ決心次第、茲ニモウ四五年ノ平和ガ欲シト云フナラバ、外交ノ作用ニ依テ、四五年ノ平和ヲ引延ベルコトが出來ル、然ラバ東洋ノ平和ハ、確實ナルトコロガ二十年ノ平和ガ保テルト云フコトハ、略々豫算が立ツノデアル、サウシマスレバ當局者ガ今提出シテ居ルトコロノ豫算案ヲ其儘修正シテ、マダ此豫算ト云フモノニハ五百万圓カ二三百万圓ハ削減ノ出來ル豫算カラ、マダ是ハ研究シタラ何千万圓出テ來ルカ分ラヌケレトモ、併ナガラ先づ此豫算ト云フモノヲ正當ナルモノト認メテ、是ニ修正ヲ加ヘバ、チヨット修正ヲ加ヘレバ、即チ日本ノ財政ノ始末ヲ付ケルト云フコトが出來ル、何トナレバ茲ニ東洋ノ平和ヲ二十年確實ニ維持セラル、コトが出來ルナラバ、陸海軍ノ今竊ニ計畫シテ居ルトコロノ、或ハ六年ノモノヲ十二年ニシ、八年ノモノヲ十六年ニ引延ベレバ、即チ要求スル額ハ半額ニナル、是ニモウ一々今ノ減債基金ニ一億一千万圓ヲ使フタルアルガ、是ハ即チ公債ノ利子ヲ拂フニ止メテ、八千万圓ヲ引去レバ三千万圓程出テ來ル、又此政府ハ先キニ行政整理テ千五百万圓ハ確カニ出來ヤウト云フコトヲ主張サレテ居ラタガ、大イニ是ヲ負ケテヤツテ三分ノ一ニシテモ五百万圓ハ、出來ル、サウスルト云フ、詰リ茲ニ六千万圓、合計六千万圓位ノ金ハ容易ク此上ニチヨット修正ヲ加ヘレバ出來ルノデアル、此八年ノモノガ十二年ニナリ、八年ノモノガ十六年ニナシタト云フタメニ、決シテ日本帝國ハ危險ヲ感ズルト云フ、位地ニハ落子ナノイデアル、是ノ如クシテ込ムト云フコトハヨシテ、或軍事ノタメニ費ス金、若クハ公債ノタメニ拂フコロノ利子ト一面ニ民力休養ノタメニ五六年ノ間決シテ増税フシナイ、一面ニハ借金政策ハズット云フモノハ無論此經常歲入ニ仰グト云フコトニシテ、暫ク借金政策ハ一方ニ止メテ、此豫算上ニ缺陷ヲ生ゼシメルト云フヤウナ不束ナ財政ノ整理ノ仕方ハズテ改メルナラバ、日本帝國ノ財政ノ信用ハ愈々鞏固ニナルノデアル（「ヒヤー」ノ聲起ル）是ト同時ニ一面ハ戰後ノ經營一於テ、早く當局者ガ其方針ヲ立テラレ、愈々戰後經濟上ノ施設ニ急がレ、又戰勝ノ利益、結果ヲ利用シテ、萬國ニ日本ノ貿易ヲ擴張スルト云フヤウナコトニナリ、段々ト此戰爭ノ勢力、利益、結果ト云フモノヲ利用スル日ニ於テハ、日本ノ貿易其他經濟社會ノ事業ト云フモノハ、駿々トシテ此數年ノ間ニ起テ來ル、然レバ則チ此日本ノ經濟力ト云フモノガ、段々一方ハ民力ノ休養ニ依リ、一方ハ借錢ノ政策ヲ止メ、一方ハ事業ガ勃興スルト云フ結果ハ、歲入ノ增加（ナルノミナラズ、三年四年ノ後ニ關稅ノ改正ヲ行ヘバ、少ナクトモ二千万圓位ノ歲入ハ増ス、此時ニ至ラ）、始メテ此公債ノ償還モ行ハベシ、軍備ノ擴張モ急グナラバ、年限ヲ縮小シテ宜カラウト考ヘル、十分ニ日本ノ信用ヲ高メ、財政ノ基礎ヲ固クスルト云フ方法ハ、吾輩ハ此滅

債基金ニアラズシテ、却テ他ノ此日本ノ財政ノ大ナル料理ヲスル上ニ於テ、當局者ガ意ヲ用井ラレルト云フコトが當然デハナイカト考ヘル（「ヒヤー」ノ聲起ル）此減債基金ナルモノソレ自身ノ性質ハ、敢テ重キヲ措クニ足ラヌ、又今日ノ場合ニ於テ、財政ガ是ノ如ク紊亂シテ居ル傍ラ、是ヲ置クト云フコトデハ、餘り效能ハナイテアラウト云フ考ヲ持シテ居ル（「ヒヤー」ノ聲起ル）實ハ此案ニ付イテハ、十分ニ専門家ノ説明カサレタ方デ、吾ミノ辯ヲ俟ツ程ノナイ案デアリマスルガ、チヨット近イ一、二ノコトヲ申シテモ、吾ミハ一ツノ著コロガ二十年ノ平和ガ保テルト云フコトハ、略々豫算が立ツノデアル、サウシマスレバ當局者ガ今提出シテ居ルトコロノ豫算案ヲ其儘修正シテ、マダ此豫算ト云フモノニハ五百万圓カ二三百万圓ハ削減ノ出來ル豫算カラ、マダ是ハ研究シタラ何千万圓出テ來ルカ分ラヌケレトモ、併ナガラ先づ此豫算ト云フモノヲ正當ナルモノト認メテ、是ニ修正ヲ加ヘバ、チヨット修正ヲ加ヘレバ、即チ日本ノ財政ノ始末ヲ付ケルト云フコトが出來ル、何トナレバ茲ニ東洋ノ平和ヲ二十年確實ニ維持セラル、コトが出來ルナラバ、陸海軍ノ今竊ニ計畫シテ居ルトコロノ、或ハ六年ノモノヲ十二年ニシ、八年ノモノヲ十六年ニ引延ベレバ、即チ要求スル額ハ半額ニナル、是ニモウ一々今ノ減債基金ニ一億一千万圓ヲ使フタルアルガ、是ハ即チ公債ノ利子ヲ拂フニ止メテ、八千万圓ヲ引去レバ三千万圓程出テ來ル、又此政府ハ先キニ行政整理テ千五百万圓ハ確カニ出來ヤウト云フコトヲ主張サレテ居ラタガ、大イニ是ヲ負ケテヤツテ三分ノ一ニシテモ五百万圓ハ、出來ル、サウスルト云フ、詰リ茲ニ六千万圓、合計六千万圓位ノ金ハ容易ク此上ニチヨット修正ヲ加ヘレバ出來ルノデアル、此八年ノモノガ十二年ニナリ、八年ノモノガ十六年ニナシタト云フタメニ、決シテ日本帝國ハ危險ヲ感ズルト云フ、位地ニハ落子ナノイデアル、是ノ如クシテ込ムト云フコトハヨシテ、或軍事ノタメニ費ス金、若クハ公債ノタメニ拂フコロノ利子ト一面ニ民力休養ノタメニ五六年ノ間決シテ増税フシナイ、一面ニハ借金政策ハズット云フモノハ無論此經常歲入ニ仰グト云フコトニシテ、暫ク借金政策ハ一方ニ止メテ、此豫算上ニ缺陷ヲ生ゼシメルト云フヤウナ不束ナ財政ノ整理ノ仕方ハズテ改メルナラバ、日本帝國ノ財政ノ信用ハ愈々鞏固ニナルノデアル（「ヒヤー」ノ聲起ル）是ト同時ニ一面ハ戰後ノ經營一於テ、早く當局者ガ其方針ヲ立テラレ、愈々戰後經濟上ノ施設ニ急がレ、又戰勝ノ利益、結果ヲ利用シテ、萬國ニ日本ノ貿易ヲ擴張スルト云フヤウナコトニナリ、段々ト此戰爭ノ勢力、利益、結果ト云フモノヲ利用スル日ニ於テハ、日本ノ貿易其他經濟社會ノ事業ト云フモノハ、駿々トシテ此數年ノ間ニ起テ來ル、然レバ則チ此日本ノ經濟力ト云フモノガ、段々一方ハ民力ノ休養ニ依リ、一方ハ借錢ノ政策ヲ止メ、一方ハ事業ガ勃興スルト云フ結果ハ、歲入ノ增加（ナルノミナラズ、三年四年ノ後ニ關稅ノ改正ヲ行ヘバ、少ナクトモ二千万圓位ノ歲入ハ増ス、此時ニ至ラ）、始メテ此公債ノ償還モ行ハベシ、軍備ノ擴張モ急グナラバ、年限ヲ縮小シテ宜カラウト考ヘル、十分ニ日本ノ信用ヲ高メ、財政ノ基礎ヲ固クスルト云フ方法ハ、吾輩ハ此滅

タガ、モウ一ツハ即チ日本社會ノ非立憲的ノ勢力ヲ、之ヲ駕御スルト云フコトヲシテ、而シテ憲政ノ發達ヲ計ルト云フコトデアル、此日本社會ノ非立憲的ノ勢力ト云フモノハ、是ハ争フベカラサル勢力デアグテ、即チ此外交ノ失敗ヨリ、日比谷ノ大騒動トナリ、或ハ戒嚴令ノ實行トナリ、種々此民權ノ抑壓手段ヲ執テ來タト云フモノハ、是ハ桂内閣ノ獨リノ罪デハナイ、即チ此社會ノ非立憲的勢力ノ伏在シテ居ルモノガ、桂内閣ヲ藉リテ愈々勃發シテ來タノデアル、是ノ如キ例ヲ舉ケテ來レバ、日本ノ社會ノ未だ立憲政治ト云フモノガ根柢ノ強イモノナクシテ、大ニ此國民ノ勢力ヲ後援トスル政府ノ盡力ヲ俟タナケレバナラヌ、此一ノモノタ國民が新政府ノ成立ト共ニ、最モ要望シテ居ル點ニアリマスカラ、即チ此豫算ノ編成、日本財政ノ整理ノ上ニ於テハ、十分ニ勇氣ヲ奮テ抑ヘルトコロハ抑ヘ、而シテ其適度ノ計畫ヲサセルト云フコトノ方針ヲ、今日カラ執ラレルト云フコトが得策デアラウト考ヘル、若シ此軍事上ノ整理、及擴張ノ方針ニ於テ、一度政府ガ深入リヲシテ、或ハ彼ノ虜ニナルト云フヤウナコトニナレバ、此國民が政府ニ要望シタトヨロノ目的が外レテシマノデアル、又是ガ大ニ國民ノタメニ悲ムベキコトデアラウト存ジマスルカラ、此ニ付イテハ、宜シク猛省スルトコロアグテ、十分ニ此戰後困難ノ際ニ、日本財政ノ整理ヲ勇氣ヲ出シテ斷行セラレントコトヲ希望スルノデアル

○渡邊敬昌君 質問ガアル、唯今ノ大石君ノ御討論中ニ車夫馬丁……
○議長（杉田定一君） 大岡君ニ發言ヲ許シマシタ

（大岡育造君登壇）

○大岡育造君 諸君、私ハ國債整理基金法案ニ賛成ヲスル一人ニアリマス、此法案ニ對シテハ贊成ノ論者モアリ、又反對ノ論者モザイマス、既ニ論旨モ大概ハ明カニナ、テ居ルヤウデアリマスケレドモ、私ハ茲ニ自ラ信シテ必要デアルト思フトコロヲ簡單ニ申述ベヤウト思ヒマス、此法案ヲ要スル所以ノモノハ、日露戰爭ノ結果デアル、日露ノ戰爭ハ連戦連勝ニ終タト云フハ、誠ニ國家ノ幸デアル、而シテ上ハ、陛下ノ御稜威、中頃軍人ノ忠勇及人民ノ後援ノ力ニ依ルト申シナガラ、二箇年ニ亘る大戰爭、巨額ノ費用ヲ投ジタルトコロノ大戰爭ガ、幸ニ圓滿三十分ニ出來タノハ、財政上ノ運ビノ宜カッタ結果ト申サナケレバナラヌノデアル、而シテ世界ニ於ケル大戰爭ナルモノ、困難ヲ致スコトハ、表面ニ於テハ戰鬪アルケレドモ、亦一面ニ於テハ財政ノ計畫デアル、英吉利ノ如キ進歩シタル國ニ於テモ、英佛戰爭ノ際ニハ、直チニ正貨準備ヲ失テ仕拂が出來ナクナリ、不換紙幣ヲ發行シナケレバナラヌト云フコトニ出逢テ居ル、又亞米利加ノ如キ、彼ノ南北戰爭ニ於テ同ジ例ヲ履シテ居ルノデアリマス、然ルニ我後進ナル日本國ガ此大戰爭ヲ行フニ方ダテ、一回ノ不換紙幣ヲ發行シタルコトナク、正貨準備ヲ失タルコトナクシテ、遂ニ終局マデ健全ニ至シタト云フコトハ、内ニ人民ノ後援モ強カタケレドモ、外ニ於ケル列國ノ同情ト云フモノガ、大ニ力アルト評サナケレバナルマイト思フノデアル、今此基金ヲ置クコトハ、今ノ日本ノ財政ノ度合ニ於テハ、實ハ苦シキコトデアル、或論者が委員會等ニモ述ベラタガ如ク、此基金ナルモノハ財政整理ノ上ニ現ハレタルトコロノ所謂剩餘金カラ來タモノナラバ、甚ダ結構デアル、自然ニ出來タモノナラバ、其自然ニ出來タモノナラバ、斯ウ云フコトヲ遣ルハ宜シクナイ、故ニモウ少シ自然ノ信用ヲ待テ然ル後三行フモ可ナリト言ハレテアリマスガ、是ハ日本人自身ノ立場カラハ誠ニ都合好キコトデアリマスケレドモ、外ノ列國ノ同情ニ對スル點カラ考ヘテ見レバ、私ハ俄ニ同意スルコトハ出來タノイノデアル、此大戰爭ヲ斯クマテ無事ニ經過シタルコロノ、財力ヲ供給シタルトコロノ世界ノ同情者ニ對シテ、此基金法ヲ苦クテモ設ケテ、彼ノ債主ニ安心ヲ與フルコトハ、吾々日本國民ノ信義ヲ明カニスル所以ニアラウト思フノデアル（拍手起立）ソレデ、詰リ言フト自然ニ任カシテ於テモ、日本ノ財政ノ信用ガ

厚ケレバ、更ニ公債ノ價格ヲ失フコトモナク、財政上ノ信用ヲ低ウスルコトモナイト云フ説が一番強力デアル、所が吾々自身カラ見レバ誠ニ日本ノ財政ハ堅固デアル、吾々ノ財政ハ姑ク堅固テナマデモ、吾國力ナルモノハ非常ニ強イノデアルカラ、自カラ疑フコトハナイケレドモ、外國ノ債主ニ位地カラ見レバ決シテ未ダ安心ハ出來ナイ、吾々ガ知ル程外國ノ方面カラハ知ラレテ居ラヌノデアル、一番日本ノ進歩シタル點ハ、何處デアルカト云ヘバ、申スマデモナニ、軍備ノ擴張デアル、兵力ノ充實デアル、是サヘモ十分ニ認メル人がナカタ、僅ニ此近キ數年即チ五年程前ニ、英吉利が此事ヲ確認シテ、始メテ日英同盟ト云フモノが出來タノニアリ、吾々カラ見レバ當然ノ話デアルガ、彼ノ方面カラ見レバ餘程突飛ナコトヲ致シタ譯ニナラテ、現ニ英吉利ノ國民中非常ナル反対ヲ表明シタコトモアルノデアル、況ヤ債主ナル者ハ最初ニ於テ——國債ヲ募ル最初ニ於テ、多ク各銀行ニ連絡シタル「シンデケート」ノ手ニ據リマスケレドモ、此國債ヲ持ツ人ハ中人以下ニ多クノデアル、彼等西洋ノ人々が日常ノ生活ノ有様ハ、吾々トハ少シ違テ居ツテ、吾々ハ家モ持ツテ居ル、田地モ持テ居ルト云フノガ、中人ノ常アリマスガ、彼等ノ中人ナル者ハ家モ持ツテ居ル人ガ少ナケレバ、田地ヲ持テ居ル人モ少ナリ、併ナガラ一軒ノ家ニ公債ヲ持ツテ居リ、株券ヲ持テ居ルト云フ人ハ澤山ニアル、其收入ニ依テ生計ヲ定メル人モ多クノデアリマスカラシテ、吾々日本ナルモノハ是程進歩シテ居ル、是程強イト云フコトハ、政府若クハ銀行ト云フヤウナ大キノ機關ヲ持テ居ルモノハ知ルニ難クハナイガ、此公債ヲ持主ニナル中以下ノ人ハ甚ダ知ルニ困難デアル、西洋ノ人ハ餘程進歩シテ居ル、進シテ居ルト昔ハ思ウタガ、今日ノ日本人ノ程度ト左程違ヒハナイ、中以下ノ人ハ政府ノ力ハ此通デアル、國家ノ力ハ此通デアル、人民ノ力ハ是ダケノ程度デアルト云フコトヲ、一々知リ得ラル、ト見ルハ、少シク無理ノ註文ト云ハナケレバナラヌ、然ラ、誰ニモ分リ易イ方法ヲ以テ、是ニ安心ヲ與ヘルノガ一番宜シイ、租稅ヨリ分ケテ一億一千萬圓ヲ基金トシテ、是ヲ利息ニ當テ、其中カラシテ元金モ拂フト云フ方法ヲ立テレバ誰ニモ分ル、必シモ國家ノ力若クハ兵力ヲ調查セズトモ宜シイノデアル、我見ル所ハ是ノ如シ、然ルニ是マテ承ルトコロニ依ルト世界ノ中日本ハ裏カラモ表カラモ十分ニ知リ得ラル、ガ如ク解釋シテノ論ガ多カタノデゴザイマスガ、吾々ハサウハ見ナイ、サウ見ナイト云フコトハ、モウ一ツ諸君が知リ得ラル、大キナ證據ガアルデハナイカ、日露戰爭ノ起ツタノハ、要スルニ日本ノ力ヲ外國カラ能ク知ラレナカタ結果ト言ハナケレバナラヌ、若シ是ノ如ク民力が強ク、是ノ如クニ兵力が強イト見タナラバ、歐羅巴ノ強大國ハ容易ニ彼ノ失敗ヲ取ランカッタデアラウト思フ、一例ヲ舉ケレバ是ノ如キデアル、ソレデ併ナガラ減債基金ヲ置イタコロガ、一面ニハ還シテモ一面ニハ借入レル、而シテ借入ル、トヨロノモノハ、八千万圓ニモ上シテ、減債スルノハ三千万圓デヘ無イカ、斯様三言ハル、ガ、是ハテス、常ニ是ノ如キモ適當デアルカモ知レナイ、併ナガラ我國運ハ決シテ退却スルノデナク、非常ナル長足ノ進歩ヲナシテ往クノデアル、先づ私が外國貿易表ヲ繙イテ見マスルニ、十年毎ニ三倍以上ノ増加ヲ見テ居ル、即チ明治二十七年ノ輸出高ハ、一億一千三百七万八千五百八十七圓デアタ、而シテ明治三十七年、即チ其後ノ十年目ニハ、二億一千九百六十六万八百九十五圓ニナタ、約三倍ノ進歩デアル、而シテ更ニ立戻ツテ十年前、即チ明治十七年ハ如何ニト云ヘバ三千三百九十八万六百八十一圓デアル、二十年前ハ三千万圓ノ輸出高ガ、二十年後ニハ三億一千九百何十万圓ニナラ、殆ド九倍以上ニナツテ居ル、十年毎ニ三倍四倍、二十年ニハ殆ド九倍進ムト云フ、此國力ノアル以上

ニハ、一面ニ資金ヲ借入レテ、一面ニ還スト云フコトヲスルトモ、決シテ憂ハナイノデアリマス、此進ム力ヲバ愈益進ムルト云フニハ、低利ナル外資ヲ輸入シテ、而シテ大イニ國ノ發展ヲ期セナケレバナラヌコトダラウ思フ、故ニ此點モ亦心配ニ及ブマイト思フ、免ニ角反対論者ノ根據ハ、自然ニ任セテ自然ノ信用ヲ厚ウスル、ソレガ一番上策デアルト言ハレマスガ、是モ一理アル、併ナガラ政治ト云フモノハ、自然ニ任セルモノデハナイ、若シ政治ナルモノガ自然ニ任セルト云フモノナラバ、總テノ法律モ規則モ何ニモ彼モ止メテシマヘバ、頂上ニ達スルト云ハナケレバナラヌ、是ハ私ガ概シテ云フノアルガ、政治ナルモノハ自然ニ甚シク逆コトハ出來ヌカ、自然ノミヲ頼ムコトハ出來ナイ、時二人爲ヲ加ヘテ程好キ制シナケレバナラヌコトハ、御諒知デアラウト思フ、先刻大石君ノ親切ニモ此所見ヲ述ベラレ、現内閣ニ忠告セラレ、而シテ此案ニ對スル反対ノ理由トナツタガ、私ハ反対理由ヲ傾聽スルニ力メタガ、最モ重キ理由ハ何處ニアルカト云ヘバ、施政ノ方針が表明セラレザルガ故ニ、此基金法モ何ニモ彼モ往カヌト言ハレタ、併シ施政ノ方針ヲ定メルト云フコトハ大切ノコトニハ相違ナイガ、施政ノ方針ヲ具體的ニ舉ゲテ、一々是ヲ演説スルニアラザレバ、不可ナリト云フコトハ私ハ俄ニ同意シナイ、昔頻ニ有リタケノ政治意見ヲ表明シテ、而シテ内閣ヲ造ツタモノガアル、其表明シク政綱ノ一モ行フコト能ハズシテ倒レタ例ガアルノデアル、必シモ政治ノ要目ニ付イテ意見ヲ定メテ發表スルガ、政治ヲ行フ、所以トモ思ハレス、併ナガラ是ハ人ノ立方デアル、大石君即チ進歩黨ノ諸君ハ、之ヲ最上ノ方便トセラル、人デアルカラ、敢ア非難ハシナイガ、併ナガラ私ハ之ニ從フコトヲ得ス、今假ニ從フタナラバ、ドンナ結果ガアル、大石君ハ世界ノ大勢ヲ説クニ於テ、他人ニ讓ラヌ、能ク世界ノ大勢ヲ説イタ結果トシテ何ニナルカ、今後二十年間ハ東洋ノ平和ハ請合フト云フコトニアリ、今後二十年間東洋ノ平和ヲ確信シテ、此政治ヲ行ヒマシタナラバ、如何ナル大事が起ルデゴザイマセウカ、前途ハ知ラズ、既往ノ實例ニ於テ如何ナル事がアリマシタカ、十年ノ間ニ開戦が二度アリマシタ、明治二十七八年ノ戰争、三十二年ノ團匪、及三十七八年ノ戰争、此十年ノ間ニ世界ノ大戰トモ謂フベキモノガ一ツ、及世界ノ關係シタル重要ナル戰争が一ツ、東洋ノ局面ニ於テ斯ウ行ハレテ居ルノデアル、モウ一つ私ハ立入テ申シマグベカラズ、是ヲ縮小スベシ等ノ意見デアル、成程戰後ニハ往々シテ軍備擴張が過大ニ失スル憂ガアルカラ、是ヲ程宜キニ制シテ財政ト相伴フヤウニスルハ適當ナコトデアリマス、併ナガラ一十年ノ間ノ平和ヲ保證シテ、而シテ軍備ノ擴張ヲ急上ノ方便トセラル、人デアルカラ、敢ア非難ハシナイガ、併ナガラ私ハ之ニ從フコトヲ得ス、今假ニ從フタナラバ、ドンナ結果ガアル、大石君ハ世界ノ大勢ヲ説クニ於テ、他人ニ讓ラヌ、能ク世界ノ大勢ヲ説イタ結果トシテ何ニナルカ、今後二十年間ハ東洋ノ平和ハ請合フト云フコトニアリ、今後二十年間東洋ノ平和ヲ確信シテ、此政治ヲ行ヒマシタナラバ、如何ナル大事が起ルデゴザイマセウカ、前途ハ知ラズ、既往ノ實例ニ於テ如何ナル事がアリマシタカ、十年ノ間ニ開戦が二度アリマシタ、明治二十七八年ノ戰争、三十二年ノ團匪、及三十七八年ノ戰争、此十年ノ間ニ世界ノ大戰トモ謂フベキモノガ一ツ、及世界ノ關係シタル重要ナル戰争が一ツ、東洋ノ局面ニ於テ斯ウ行ハレテ居ルノデアル、モウ一つ私ハ立入テ申シマスレバ、軍備ノ擴張ニ反対セラレタルトコロノ諸君ハ——今私が申シタナハ、議會ノ開會以來、著シク軍備ノ擴張ニ反対セラレタルトコロノ諸君ハ、東洋ニ於ケル今數ヘタ戰争ヲ宣言通ニ從シテ軍備ノ擴張ヲセズニ置イタラドウナツタデセウ、軍備擴張ニ反対ノ主義ヲ極力唱ヘラレタル其政治家ニ日本ヲ賴シテ置イテ、サウシテ露西亞トノ交渉ラドウシマセウカ（「日英同盟ト云フモノハサウスルト何ノ效果モ無イト云フノデスカ」ト呼フ者アリ）日英同盟ナルモノハ相當ニ效果ヲ收ムベキモノト私ハ信ジマス、併ナガラ日英同盟ハアッテモ日露戰争ハ起ツタノアルデハゴザイマセスカ、同盟ハ或程度マデハ力ガアリマスケレドモ、其同盟ヲ約束ノ以外ニ於テ、戰争ノ起ルコトガアルノデアリマス、日本ガ今日世界ニ抽デ、信用ヲ博スルヤウニ至ツタ——抽デ、トハ申サレマセヌガ、從來ノ位置ヨリ抽デ、列強ノ間ニ間ツタ、強國ノ中ニ這入シテ居ルトコロノ此國ノ位置、及吾ノ名譽ヲ博モタノハ何ノタメアルカト云ヘバ、諸君、今演説セラレタ大石君等ノ言フ意味ニ於テハ出來ナカツタ、常ニ平和ヲ賴シテ軍備ヲ縮小シ縮小シ往々タナラバ、今日ノ位置ハ得ルコトノ出來ナカツタ云フコトヲ考ヘテ見ナクテハナルマイト思ノノデアル（拍手起ル）故ニ此基金法案ヲ讀スルニ當ツテ、大體ニ於テ軍備ノ縮小マデシナケレバ、役ニ立タスト云フヤウナ反対ハ、私ハ取ルニ足ラヌト思ヒマス、茲ニ私ハ此案ヲ賛成スルトコロノ理由ハアリマ

スケレドモ、餘リ多ク申サズトモ、反対ノ理由ハ頗ル強力トモ私ハ思ヒマセヌカラ、茲ニ單ニ贊成ノ意ヲ表明シテ終リマス（拍手起ル）

〔島田三郎君登壇〕

○島田三郎君 諸君、本案ニ對シテハ、委員會ニ於テ引續イテ反対致シテ居リマシタガ、今日モ矢張反対ノ説ヲ諸君ノ前ニ述ベルコトノ機會ヲ得タノハ、甚ダ満足ニ存シマス、是マテ本員ノ信シテ居リマシタルトコロノ反対意見ヲ幾許カ修正シ、若クハ翻然改メテ、本案ヲ贊成スル榮譽ヲ得タイト云フ一點ノ希望ヲ以テ、反対諸君ノ御説ヲ伺シテ居リマシタガ、更ニ此希望ハ充タスコトが出來ズシテ、依然反対論ヲ述ベナケレバナラヌノハ、甚ダ本員ノ元來ノ希望ニ背イタコトヲ歎息シナケレバナラヌト思ヒマス、唯今政友會ヲ代表シテ述ベラレタ大岡君ハ、專ラ憲政本黨ノ大石君ニ對スル駁論デゴザイマスカラ、勢ヒ外交論ニ瓦ル世界ノ形勢ニ瓦ル雄大博論ヲ費サレタニ拘ハラズ、本員ノ謹シテ承シテ居ルトコロニ據リマスルト、實ハ本問題ノ脇ヘ多ク走ツタヤウニ考ヘマス、是ハ甚ダ遺憾ニアリマス、本員ハ單刀直入此案ノ是非ヲ決シタイ、此案ノ性質ヲ定メタイト云フノガ論旨テゴザイマスガ、本案ハ國債整理基金特別會計法案ト題シテアラズ、世ノ中デハ普通ニ減債法案ト言シテゴザイマスカラ、無論日露ノ對戰ニ依シテ既ニ募リマシタトコロノモノト、竝ニ是カラ募リマストコロノモノヲ併セテ、十八億ニ至リマストコロノ此巨額ノ公債ヲ整理スルノ目的ヲ以テ立案セラレタルモノニ相違ナイ、整理ノ中ニ此負債ヲ減却スルトコロノ方針ヲ立テラレタニ相違ナイ、此趣意ニ於テハ何人カ是ニ同意セラランヤ、整理ト云フコトハ不整頓デアルトコロノモノヲ整頓スル意味デアラズ、減債トハ有ルトコロノ負債ヲ減却スルノデアリマスカラ、是ヲ個人ト致シマシテモ、必要ナコトアリ、國家ト致シマシテモ必要ナコトテアリマスカラ、是ハ議論ノ無イコトデアル、吾々が此減債法案、國債整理基金法案三反対致シマスルノハ、其目的が名ト相副ハズシテ、其手段が決シテ其目的ヲ遂ゲルニ足ラヌト云フコトガ、論ヲ岐ル、トコロデゴザイマスカラ、財政ヲ整理スル必要ナルトカ、種々ナコトヲ述ベラレルノハ實ハ餘波デアラズ、殆ド本員ノ耳ニハ論ズルニ足ラヌヤウニ聽ユルノデゴザイマス、事實ニ關シテ論ジナイトコロノモノハ、實ハ空論デアラズ、數字ヲ除イテ論ゼラル、トコロノモノハ全ク餘談ニ過ギナイト思ヒマスカラ、本員ハ直ニ此本案ヲ評スルノニ、是ハ整理法案トアラズ、實ハ整理法案ニアラズ、他日ニ紛亂ヲ遺ストコロノ法案デアルト思ヒマス、減債ト云フコロノ名ガアラズ、實ハ減債ニアラズシテ、増債準備法案ト、本員ハ解釋ヲ致サウト思フ、之ガ本當ノ性質デアルト思ヒマスカラ、元來物ノ得失利害ヲ決シマスノハ名義ニ依シテ決スルノガ正當デアリマスガ、名義ノ如何ニ拘ハラズ事實ニ依シテ決スルノガ正當ノ判断デアルカト申シマシタナラバ、諸君モ必ズ名義ノ如何ニ拘ハラズ事實如何ト云フコトニ付イテ、得失利害ヲ判定セラル、デアラウト思ヒマス、大體ヲ評シマスルト云フ、過度ノ信用ヲ此方法ニ依シテ控ヘテ、サウシテ後ノ公債ヲ募ルトコロノ活路ヲ開テモ日露戰争ハ起ツタノアルデハゴザイマセスカ、同盟ハ或程度マデハ力ガアリマスケレドモ、其同盟ヲ約束ノ以外ニ於テ、戰争ノ起ルコトガアルノデアリマス、日本ガ今日世界ニ抽デ、信用ヲ博スルヤウニ至ツタ——抽デ、トハ申サレマセヌガ、從來ノ位置ヨリ抽デ、列強ノ間ニ間ツタ、強國ノ中ニ這入シテ居ルトコロノ此國ノ位置、及吾ノ名譽ヲ博モタノハ何ノタメアルカト云ヘバ、諸君、今演説セラレタ大石君等ノ言フ意味ニ於テハ出來ナカツタ、常ニ平和ヲ賴シテ軍備ヲ縮小シ縮小シ往々タナラバ、今日ノ位置ハ得ルコトノ出來ナカツタ云フコトヲ考ヘテ見ナクテハナルマイト思ノノデアル（拍手起ル）故ニ此基金法案ヲ讀スルニ當ツテ、大體ニ於テ軍備ノ縮小マデシナケレバ、個人ニ於テモ一家ニ於テモ危険デアルガ如ク、一國ニ於テモ同様ニ危険デアリマスカラ、果シテ之ガ是ノ如キ目的ヲ遂ゲテ

信用ヲ高メ得ルヤ否ヤト云フコトヲ吟味シ、第一ニハ之が後來安全ニアシテ、急國利ヲ保全スルニ足ルヤ否ヤト云フコトヲ吟味スルノガ、全ク至當ノ評定論アリテ、イロイロ、豫算委員ノ多數ヲ占メタルトコロノ兩黨ノ諸君、竝ニ大同派ノ諸君ハ飽マテ御承知ニアリマセウガ、豫算書ニ依リマスルト云フト、後年一八九年若クハ十年ノ後ニ繼續以シマスルトコロノ事業ノ費用トシテ、今年初メテ其第一ヲ現ハシテ居リマスル費用ノ八千萬圓バカリト云フモノハ、是ハ經常ノ收入カラ取ラズシテ、臨時ノ募債即チ公債ヲ募フ之ニ填補致シマストコロノ計算ニナシテ居リマス、サウ致シマスルト、本年一億一千萬圓ヲ債ノ基本ニ充テマシテモ、凡ソ十八億ノモノヲ五分ト積リマスルト、利子ノタメニ九千万圓取ラレテシマヒマスカラ、減債ニ充テマスルノハ二千万圓テ、大層減債基金トカ、或ハ整理法案トカ謂ジテ名ハ大キイガ、十八億ニ對シテ元金一千萬圓ヲ還スト云フ算定ニナシテ居ル、一方ニ經常收入デモテヤラナイテ、國債ニ依リテヤラナイテ、國債ニスルトコロノ續キマスルコトハ九年若クハ十年デ、是ガ八千万圓ツニ致スト云フト、十年後ニハ是ガ丁度八億ニナル譯デゴザイマスルカラ、一年ニ二千万圓ツ、元金ヲ還シテ、一年ニ八千萬圓ツ、公債ヲ募ルト云フコトガ、是ガ個人トシテモ、一家トシテモ、安全ナル會計ノ立方デゴザイマセウカ、信用ヲ博シ得ルトコロノ組織デゴザイマセウカ、此事ニ向テ判断フ下シマシタナラバ、區々ノ評論ハ無益アルト本員ハ思フテ居リマス、ソレ故ニ本員ハ斷乎トシテ是ハ増債準備基金法案ナリト、斯ウ評スルノハ、決シテ誣告テモナケレバ、證方デゴザイマスカラ、是ガ信用ヲ繫グニ足リスト云フコトデアクタナラバ、既ニ本案ノ精神ト云フモノハ破レタリト私ハ思フノデゴザイマスルガ、是ハ今年ノ豫算通ニ來年カラ推往キマスルトコロノ算定ニテモ、丁度此委員會ヘ陸海南相が臨マレテ委員ノ經テモ六イト思フ、是ガ信用ヲ繫グニ足リスト云フコトデアクタナラバ、既ニ本案ノ精神ト云フモノハ破レタリト私ハ思フノデゴザイマスルガ、是ハ今年ノ豫算通ニ來年カラ推往キマスルトコロノ算定ニテモ、丁度此委員會ヘ陸海南相が臨マレテ委員ノ中カラノ質問ニ答ヘテ、マダ陸海ノイロイロナ調査が出來ア居ラヌカラ、來年ニ至テラバ、スッカリ調査ヲシテ持出ス、其豫定ハドノ位アラウカト質問ヲ致シマシタラバ、海軍ニ於テハ一億ノ餘デゴザイマスシ、陸軍ニ於テハ六千万圓バカリアルノデゴザイマスルガ、此金ノ出所モ實ハ經常收入ニハナイノデ、是ヲ除イテ今年即チ豫算ニ居リマスル、三十年ダケテ還スコトガ一千萬圓デ、借ルコトガ八千万圓アルト云フモノセ、是ハドウカシナケレバ、海軍費用ヲ取ランカト云フトコロノモノガ、陸海軍兩省ノミテ唯今申シタヤウナ巨額ナルモノガゴザイマス、此他滿韓ノ經營費ト云フモノモ、必ズ後來出ア來ナケレバナラスト思フシ、アチラニ分駐サセルトコロノ軍人ノ兵營ト云フモノセ、是ハドウカシナケレバ、早ク此事實ヲ世云フイロイロナモノガ含マレテ居リマスカラ、極メテ前途ニ危險アル、經常收入ヲ以テ、經常支出ヲ償フニ足ラヌトコロノモノデアルカラ、禍ヲ早ク見出シテ、速ニ料理スルト云フコトガ國ノタメニ忠實アルカ、禍ヲ不言ノ間ニ延ハシテ置イテ、後來其大ナルニ向テ料理スルト云フコトガ、宜シイコトデアルカト云フコトヲ極メマシタナラバ、早ク此事實ヲ世人ニ表明シテ有ル信用ニ依ジテ或經營ヲ立アルト云フコトガ一番眞面目デ、英八ノ商業ガ天下ニ信用ヲ得テ居ルノハ、是ノ如キ確實ナルトコロノ考持テ居ルカラデアッテ、相場的ニ無イモノヲ有ルトシテ、多クノ信用ヲ維持シ、其信用ニ依クテ新ナル負債ヲ

起サウト云フ増債準備法案ニ向テハ、本員其精神ニ於テ甚ダ危險ナリト思フノアリマス、ソレナラバ一步ヲ退キマシテ、是ノ如キコトテ信用ヲ繫ケルカドウカト云フコトヲ吟味シテ、豫算委員ノ詳シテ承知セラレテ居リマスカトテ思ヒマスルガ、前ニ申シマシタル通、此後ニ公債ヲ募ラナイト云フノテ、此種ナガラ是ヲ聽クノヲ餘り希望致シマセウ、諸君ニ矢張餘餘ニ五百コトヲ御聽カセ申スコトヲ謹シテ私ハ避ケナケレバナラスト思フ、豫算委員ハ詳シテ承知セラレテ居リマスカラ、豫算委員ノ多數ヲ占メタルトコロノ兩黨ノ諸君、竝ニ大同派ノ諸君ハ飽マテ御承知ニアリマセウガ、豫算書ニ依リマスルト云フト、後年一八九年若クハ十年ノ後ニ繼續以シマスルトコロノ事業ノ費用トシテ、今年初メテ其第一ヲ現ハシテ居リマスル費用ノ八千萬圓バカリト云フモノハ、是ハ經常ノ收入カラ取ラズシテ、臨時ノ募債即チ公債ヲ募フ之ニ填補致シマストコロノ計算ニナシテ居リマス、サウ致シマスルト、本年一千萬圓ヲ債ノ基本ニ充テマシテモ、凡ソ十八億ノモノヲ五分ト積リマスルト、利子ノタメニ九千万圓取ラレテシマヒマスカラ、減債ニ充テマスルノハ二千万圓テ、大層減債基金トカ、或ハ整理法案トカ謂ジテ名ハ大キイガ、十八億ニ對シテ元金一千萬圓ヲ還スト云フ算定ニナシテ居ル、一方ニ經常收入デモテヤラナイテ、國債ニスルトコロノ續キマスルコトハ九年若クハ十年デ、是ガ八千万圓ツニ致スト云フト、十年後ニハ是ガ丁度八億ニナル譯デゴザイマスルカラ、一年ニ二千万圓ツ、元金ヲ還シテ、一年ニ八千萬圓ツ、公債ヲ募ルト云フコトガ、是ガ個人トシテモ、一家トシテモ、安全ナル會計ノ立方デゴザイマセウカ、信用ヲ博シ得ルトコロノ組織デゴザイマセウカ、此事ニ向テ判断フ下シマシタナラバ、區々ノ評論ハ無益アルト本員ハ思フテ居リマス、ソレ故ニ本員ハ斷乎トシテ是ハ増債準備基金法案ナリト、斯ウ評スルノハ、決シテ誣告テモナケレバ、證方デゴザイマセウカ、是ガ信用ヲ繫グニ足リスト云フコトデアクタナラバ、既ニ本案ノ精神ト云フモノハ破レタリト私ハ思フノデゴザイマスルガ、是ハ今年ノ豫算通ニ來年カラ推往キマスルトコロノ算定ニテモ、丁度此委員會ヘ陸海南相が臨マレテ委員ノ中カラノ質問ニ答ヘテ、マダ陸海ノイロイロナ調査が出來ア居ラヌカラ、來年ニ至テラバ、スッカリ調査ヲシテ持出ス、其豫定ハドノ位アラウカト質問ヲ致シマシタラバ、海軍費用ヲ取ランカト云フトコロノモノガ、陸海軍兩省ノミテ唯今申シタヤウナ巨額ナルモノガゴザイマス、此他滿韓ノ經營費ト云フモノモ、必ズ後來出ア來ナケレバナラスト思フシ、アチラニ分駐サセルトコロノ軍人ノ兵營ト云フモノセ、是ハドウカシナケレバ、早ク此事實ヲ世云フイロイロナモノガ含マレテ居リマスカラ、極メテ前途ニ危險アル、經常收入ヲ以テ、經常支出ヲ償フニ足ラヌトコロノモノデアルカラ、禍ヲ早ク見出シテ、速ニ料理スルト云フコトガ國ノタメニ忠實アルカ、禍ヲ不言ノ間ニ延ハシテ置イテ、後來其大ナルニ向テ料理スルト云フコトガ、宜シイコトデアルカト云フコトヲ極メマシタナラバ、早ク此事實ヲ世人ニ表明シテ有ル信用ニ依ジテ或經營ヲ立アルト云フコトガ一番眞面目デ、英八ノ商業ガ天下ニ信用ヲ得テ居ルノハ、是ノ如キ確實ナルトコロノ考持テ居ルカラデアッテ、相場的ニ無イモノヲ有ルトシテ、多クノ信用ヲ維持シ、其信用ニ依クテ新ナル負債ヲ

起サウト云フ増債準備法案ニ向テハ、本員其精神ニ於テ甚ダ危險ナリト思フノアリマス、ソレナラバ一步ヲ退キマシテ、是ノ如キコトテ信用ヲ繫ケルカドウカト云フコトヲ吟味シテ、豫算委員ノ詳シテ承知セラレテ居リマスカラ、豫算委員ノ多數ヲ占メタルトコロノ兩黨ノ諸君、竝ニ大同派ノ諸君ハ飽マテ御承知ニアリマセウガ、豫算書ニ依リマスルト云フト、後年一八九年若クハ十年ノ後ニ繼續以シマスルトコロノ事業ノ費用トシテ、今年初メテ其第一ヲ現ハシテ居リマスル費用ノ八千萬圓バカリト云フモノハ、是ハ經常ノ收入カラ取ラズシテ、臨時ノ募債即チ公債ヲ募フ之ニ填補致シマストコロノ計算ニナシテ居リマス、サウ致シマスルト、本年一千萬圓ヲ債ノ基本ニ充テマシテモ、凡ソ十八億ノモノヲ五分ト積リマスルト、利子ノタメニ九千万圓取ラレテシマヒマスカラ、減債ニ充テマスルノハ二千万圓テ、大層減債基金トカ、或ハ整理法案トカ謂ジテ名ハ大キイガ、十八億ニ對シテ元金一千萬圓ヲ還スト云フ算定ニナシテ居ル、一方ニ經常收入デモテヤラナイテ、國債ニスルトコロノ續キマスルコトハ九年若クハ十年デ、是ガ八千万圓ツニ致スト云フト、十年後ニハ是ガ丁度八億ニナル譯デゴザイマスルカラ、一年ニ二千万圓ツ、元金ヲ還シテ、一年ニ八千萬圓ツ、公債ヲ募ルト云フコトガ、是ガ個人トシテモ、一家トシテモ、安全ナル會計ノ立方デゴザイマセウカ、信用ヲ博シ得ルトコロノ組織デゴザイマセウカ、此事ニ向テ判断フ下シマシタナラバ、區々ノ評論ハ無益アルト本員ハ思フテ居リマス、ソレ故ニ本員ハ斷乎トシテ是ハ増債準備基金法案ナリト、斯ウ評スルノハ、決シテ誣告テモナケレバ、證方デゴザイマセウカ、是ガ信用ヲ繫グニ足リスト云フコトデアクタナラバ、既ニ本案ノ精神ト云フモノハ破レタリト私ハ思フノデゴザイマスルガ、是ハ今年ノ豫算通ニ來年カラ推往キマスルトコロノ算定ニテモ、丁度此委員會ヘ陸海南相が臨マレテ委員ノ中カラノ質問ニ答ヘテ、マダ陸海ノイロイロナ調査が出來ア居ラヌカラ、來年ニ至テラバ、スッカリ調査ヲシテ持出ス、其豫定ハドノ位アラウカト質問ヲ致シマシタラバ、海軍費用ヲ取ランカト云フトコロノモノガ、陸海軍兩省ノミテ唯今申シタヤウナ巨額ナルモノガゴザイマス、此他滿韓ノ經營費ト云フモノモ、必ズ後來出ア來ナケレバナラスト思フシ、アチラニ分駐サセルトコロノ軍人ノ兵營ト云フモノセ、是ハドウカシナケレバ、早ク此事實ヲ世云フイロイロナモノガ含マレテ居リマスカラ、極メテ前途ニ危險アル、經常收入ヲ以テ、經常支出ヲ償フニ足ラヌトコロノモノデアルカラ、禍ヲ早ク見出シテ、速ニ料理スルト云フコトガ國ノタメニ忠實アルカ、禍ヲ不言ノ間ニ延ハシテ置イテ、後來其大ナルニ向テ料理スルト云フコトガ、宜シイコトデアルカト云フコトヲ極メマシタナラバ、早ク此事實ヲ世人ニ表明シテ有ル信用ニ依ジテ或經營ヲ立アルト云フコトガ一番眞面目デ、英八ノ商業ガ天下ニ信用ヲ得テ居ルノハ、是ノ如キ確實ナルトコロノ考持テ居ルカラデアッテ、相場的ニ無イモノヲ有ルトシテ、多クノ信用ヲ維持シ、其信用ニ依クテ新ナル負債ヲ

起サウト云フ増債準備法案ニ向テハ、本員其精神ニ於テ甚ダ危險ナリト思フノアリマス、ソレナラバ一步ヲ退キマシテ、是ノ如キコトテ信用ヲ繫ケルカドウカト云フコトヲ吟味シテ、豫算委員ノ詳シテ承知セラレテ居リマスカラ、豫算委員ノ多數ヲ占メタルトコロノ兩黨ノ諸君、竝ニ大同派ノ諸君ハ飽マテ御承知ニアリマセウガ、豫算書ニ依リマスルト云フト、後年一八九年若クハ十年ノ後ニ繼續以シマスルトコロノ事業ノ費用トシテ、今年初メテ其第一ヲ現ハシテ居リマスル費用ノ八千萬圓バカリト云フモノハ、是ハ經常ノ收入カラ取ラズシテ、臨時ノ募債即チ公債ヲ募フ之ニ填補致シマストコロノ計算ニナシテ居リマス、サウ致シマスルト、本年一千萬圓ヲ債ノ基本ニ充テマシテモ、凡ソ十八億ノモノヲ五分ト積リマスルト、利子ノタメニ九千万圓取ラレテシマヒマスカラ、減債ニ充テマスルノハ二千万圓テ、大層減債基金トカ、或ハ整理法案トカ謂ジテ名ハ大キイガ、十八億ニ對シテ元金一千萬圓ヲ還スト云フ算定ニナシテ居ル、一方ニ經常收入デモテヤラナイテ、國債ニスルトコロノ續キマスルコトハ九年若クハ十年デ、是ガ八千万圓ツニ致スト云フト、十年後ニハ是ガ丁度八億ニナル譯デゴザイマスルカラ、一年ニ二千万圓ツ、元金ヲ還シテ、一年ニ八千萬圓ツ、公債ヲ募ルト云フコトガ、是ガ個人トシテモ、一家トシテモ、安全ナル會計ノ立方デゴザイマセウカ、信用ヲ博シ得ルトコロノ組織デゴザイマセウカ、此事ニ向テ判断フ下シマシタナラバ、區々ノ評論ハ無益アルト本員ハ思フテ居リマス、ソレ故ニ本員ハ斷乎トシテ是ハ増債準備基金法案ナリト、斯ウ評スルノハ、決シテ誣告テモナケレバ、證方デゴザイマセウカ、是ガ信用ヲ繫グニ足リスト云フコトデアクタナラバ、既ニ本案ノ精神ト云フモノハ破レタリト私ハ思フノデゴザイマスルガ、是ハ今年ノ豫算通ニ來年カラ推往キマスルトコロノ算定ニテモ、丁度此委員會ヘ陸海南相が臨マレテ委員ノ中カラノ質問ニ答ヘテ、マダ陸海ノイロイロナ調査が出來ア居ラヌカラ、來年ニ至テラバ、スッカリ調査ヲシテ持出ス、其豫定ハドノ位アラウカト質問ヲ致シマシタラバ、海軍費用ヲ取ランカト云フトコロノモノガ、陸海軍兩省ノミテ唯今申シタヤウナ巨額ナルモノガゴザイマス、此他滿韓ノ經營費ト云フモノモ、必ズ後來出ア來ナケレバナラスト思フシ、アチラニ分駐サセルトコロノ軍人ノ兵營ト云フモノセ、是ハドウカシナケレバ、早ク此事實ヲ世云フイロイロナモノガ含マレテ居リマスカラ、極メテ前途ニ危險アル、經常收入ヲ以テ、經常支出ヲ償フニ足ラヌトコロノモノデアルカラ、禍ヲ早ク見出シテ、速ニ料理スルト云フコトガ國ノタメニ忠實アルカ、禍ヲ不言ノ間ニ延ハシテ置イテ、後來其大ナルニ向テ料理スルト云フコトガ、宜シイコトデアルカト云フコトヲ極メマシタナラバ、早ク此事實ヲ世人ニ表明シテ有ル信用ニ依ジテ或經營ヲ立アルト云フコトガ一番眞面目デ、英八ノ商業ガ天下ニ信用ヲ得テ居ルノハ、是ノ如キ確實ナルトコロノ考持テ居ルカラデアッテ、相場的ニ無イモノヲ有ルトシテ、多クノ信用ヲ維持シ、其信用ニ依クテ新ナル負債ヲ

起サウト云フ増債準備法案ニ向テハ、本員其精神ニ於テ甚ダ危險ナリト思フノアリマス、ソレナラバ一步ヲ退キマシテ、是ノ如キコトテ信用ヲ繫ケルカドウカト云フコトヲ吟味シテ、豫算委員ノ詳シテ承知セラレテ居リマスカラ、豫算委員ノ多數ヲ占メタルトコロノ兩黨ノ諸君、竝ニ大同派ノ諸君ハ飽マテ御承知ニアリマセウガ、豫算書ニ依リマスルト云フト、後年一八九年若クハ十年ノ後ニ繼續以シマスルトコロノ事業ノ費用トシテ、今年初メテ其第一ヲ現ハシテ居リマスル費用ノ八千萬圓バカリト云フモノハ、是ハ經常ノ收入カラ取ラズシテ、臨時ノ募債即チ公債ヲ募フ之ニ填補致シマストコロノ計算ニナシテ居リマス、サウ致シマスルト、本年一千萬圓ヲ債ノ基本ニ充テマシテモ、凡ソ十八億ノモノヲ五分ト積リマスルト、利子ノタメニ九千万圓取ラレテシマヒマスカラ、減債ニ充テマスルノハ二千万圓テ、大層減債基金トカ、或ハ整理法案トカ謂ジテ名ハ大キイガ、十八億ニ對シテ元金一千萬圓ヲ還スト云フ算定ニナシテ居ル、一方ニ經常收入デモテヤラナイテ、國債ニスルトコロノ續キマスルコトハ九年若クハ十年デ、是ガ八千万圓ツニ致スト云フト、十年後ニハ是ガ丁度八億ニナル譯デゴザイマスルカラ、一年ニ二千万圓ツ、元金ヲ還シテ、一年ニ八千萬圓ツ、公債ヲ募ルト云フコトガ、是ガ個人トシテモ、一家トシテモ、安全ナル會計ノ立方デゴザイマセウカ、信用ヲ博シ得ルトコロノ組織デゴザイマセウカ、此事ニ向テ判断フ下シマシタナラバ、區々ノ評論ハ無益アルト本員ハ思フテ居リマス、ソレ故ニ本員ハ斷乎トシテ是ハ増債準備基金法案ナリト、斯ウ評スルノハ、決シテ誣告テモナケレバ、證方デゴザイマセウカ、是ガ信用ヲ繫グニ足リスト云フコトデアクタナラバ、既ニ本案ノ精神ト云フモノハ破レタリト私ハ思フノデゴザイマスルガ、是ハ今年ノ豫算通ニ來年カラ推往キマスルトコロノ算定ニテモ、丁度此委員會ヘ陸海南相が臨マレテ委員ノ中カラノ質問ニ答ヘテ、マダ陸海ノイロイロナ調査が出來ア居ラヌカラ、來年ニ至テラバ、スッカリ調査ヲシテ持出ス、其豫定ハドノ位アラウカト質問ヲ致シマシタラバ、海軍費用ヲ取ランカト云フトコロノモノガ、陸海軍兩省ノミテ唯今申シタヤウナ巨額ナルモノガゴザイマス、此他滿韓ノ經營費ト云フモノモ、必ズ後來出ア來ナケレバナラスト思フシ、アチラニ分駐サセルトコロノ軍人ノ兵營ト云フモノセ、是ハドウカシナケレバ、早ク此事實ヲ世云フイロイロナモノガ含マレテ居リマスカラ、極メテ前途ニ危險アル、經常收入ヲ以テ、經常支出ヲ償フニ足ラヌトコロノモノデアルカラ、禍ヲ早ク見出シテ、速ニ料理スルト云フコトガ國ノタメニ忠實アルカ、禍ヲ不言ノ間ニ延ハシテ置イテ、後來其大ナルニ向テ料理スルト云フコトガ、宜シイコトデアルカト云フコトヲ極メマシタナラバ、早ク此事實ヲ世人ニ表明シテ有ル信用ニ依ジテ或經營ヲ立アルト云フコトガ一番眞面目デ、英八ノ商業ガ天下ニ信用ヲ得テ居ルノハ、是ノ如キ確實ナルトコロノ考持テ居ルカラデアッテ、相場的ニ無イモノヲ有ルトシテ、多クノ信用ヲ維持シ、其信用ニ依クテ新ナル負債ヲ

「月君ノ逃ベラル、トコロ、大岡君ノ逃ベラル、トコロハ、敗國タル露諸國ヲ主トシテ傲ウテ、
ヨガ國タル日本ヲシテ此危險ニ微ハシメントスル恐ルベキ危險ヲ含シダルトコロノ、誤サタ
ル政策ニアラウト私ハ思フ（拍手起ル）是ヨリ餘論ニ移ツテ少シク本員ノ意ヲ述ベナケ
レバナラヌ、ソレハ日本ノ弱點ハ何レニアルカト云フコトヲ考ヘナケレバナラヌ、國力ノ上
ニアルガ、抑、兵力ノ上ニアルカト申シタナラバ、海陸軍トモ列國ヲ敬服セシムルトコロノ、
吾々ノ最正信任シ尊重スルトコロノ此忠勇ノ士ガ、國光ヲ大ニ輝セル勵キヲ遂ゲテ、列
國ノハニ一言モナイト敬服サセタノアカル、此點ニ於テ英吉利ノ軍隊ヲ一人モ借りタコ
トモナゲレバ、亞米利加ノ輪卒ヲ一人モ使用シタコトモナイ、全ク日本全國ノ壯丁ヲ驅ツ
テ是ノ如キ雄大ナル仕事ガ遂グラレタ軍備ノ點ニ至シテハ、日本ハ他國ニ誇ルニ足リルト
私ハ算敬ト驚嘆トヲ以テ之ヲ仰ギ見ルノアリマス、是ハ日本ノ強點アル、然ラバ日本
ハ如何ナル財力ニ依シテ、此十八箇月戰ヲ續ケタカト申スト、嘆息スベシ、若モアノ連戦
連勝ノ際ニ亞米利加ナリ英吉利ナリが同情ヲ持タシテ金ヲ貸サナカツタナラバ、此驚嘆
敬服スベキ軍隊モ、其效ヲ奏タルコトが出來ナリ、本員ノ承テ居ルトコロニ依レバ、尙ハ爾
寶ニ進ンテ、大ニ活動ラスルニハ、前途三十八億ノ金が要ルカラ、是ノ如キコトヲヤツタト
ヨロガ、後トテ之ヲ補填スベキ見込モ確立セヌノアルカラ、既ニ收メ得タルトコロノ勝利
ヲ以テ、満足スルト云フコトノ發議が、廟堂ノ上ニ、元老ノ口ヲ經テ發セラレタト承ツテ
居ル、是ハ確カニサウデアルカ、サウデナイカ、本員ハ確聞スルコト能ハズ——確聞スル
コト能ハザルモ、併ナガラ事情ヲ推シテ考ヘテ見マスレバ、財力ノ上ニ付イテ第一ニ痛心
セラレテ、尙忠勇ナルトコロノ兵ハ、側カラ訓練シテ側カラ送タナラバ、隨分遣り得ルテ
ヨラウト云フ信用ハアタラウト思フ、然ルニ第一ノ弱點ト感ジタノハ財力ノ上ニアル、英
士ゴリノ兵ハソレ程勇敢デハナカラケレドモ、「ボア」ノ戰争ニハ英吉利ハ氣長イ戰争デ
アッタガ、自分ノ金デヤツタ、金力ハ強點デアッタガ、兵力ノ方ハ讓ツタ、日本ハ之ニ反対
テ、兵力ニ於テハ強ラ誇ルニ足シテ、財力ニ於テハ他國ノ資本デ喧嘩ヲシタト云フ有様
デヨルカラ、後來大ニ注意スベキコトハ、財政ヲ整理シ財力ヲ堅固ニスル、發達スルニア
ルト云フコトハ、一番理ノ賭易キコトデアルノニ、何ゾ計ラン強ハ益、強ナラシムルニ、弱
チシテ弱ナラシメントスルコトヲ前途ノ方針ナリト、大岡君ノ説明セラレタノガ、是が若シ
政友會全體ノ志ニアラ、政友會ノ一部デ拘ヘテ居ル内閣ノ志ニアタナラバ、本員ハ
誤レルノ甚シキモノナリト、全部ヲ併セテ反対ヲ表サナケレバナラヌ、凡ソ人ノ病ヲ醫スル
ニハ、弱キヲ補益シテ、強キニ副フト云フノガ策ノ得タルモノト考ヘテ居リマスガ、今ニ於
テ顧ミルベキハ、國力ノ如何、財力ノ如何ト云フコトニアル、此點ニ付イテ考ヘテ見レバ、
名ヲ整理基金ニ藉リテ、負債ノ始末ヲスルノガ、戰後第一ノ務ダト言ハレルガ、其論ト
精神ハ反対テアリマスケレドモ言葉タケハ本員ト同ジニナル、ドウシテモ負債ヲ始末シテ、
負債ヲ殖サナイヤウニスルが宜イ、全體公債ヲ以テ平素ノコトヲヤルト云フコトハ、國ニ
取テ甚ダ危險デ、萬一事ノアッタ時ニ、公債ヲ募リ得ル餘地ヲ持ツテ居ルノガ、國家變
ニ備ヘル廣キ意味ニ於テ、軍備鞏固ナルモノト本員ハ信ズルノアアル、然ルニ信用ヲ過度
ニ高メテ、借り得ル活路ヲ開イテ尙其上ニ借リタイ、此上ニ借リルニハ信用ヲ高メテ置
カナケレバナラヌ、名ヲ大ニシテ整理基金法案ト云フヤウナ、如何ニモ俗人ヲ瞞著スル法
律ヲ立て、ソレヲ以テ今信用が低イカラ、モット信用ヲ高メルニハ、外ノ意

味テハナイ、二千万圓ヲ返シテ六千万圓ヲ借りタウト云フ、負債準備ノ法案ヲ是認スル
ト云フコトハ誤レルノ甚シキモノト、本員ハ全體ニ於テ排斥シナケレバナラヌト思ヒマス、且
還スト云フコトニ、ソレ程重キヲ置クニ及バムト思ヒマス、今望月君ノ言レル如ク、望月
君ハ種々政治年鑑ニ御取リニナシタノアルガ、英吉利ガドウデアル、佛蘭西ガドウデアル、
アルゼンチンガドウデアル、大層該博ヲ誇ラレタガ、是ハ數圓ヲ費シテ、丸屋ノ書店
ニ御求メニナレバ、政治年鑑ノ表ノ中ニ舉ゲテアルノデ、新タニ謹聽スル程ノ事實デモ
ナイト思フノアリマス、（笑聲起ル）併ナガラ望月君ノ數ヘラレタ政治年鑑ノ中ノ數字
ハ、他國カラ金ヲ借リテ英佛ガ減債基金ト云フモノヲ造ツタ例ガアリマスカ、是ハ私ハ曾
テ聞カザルトコロアル、現在經常歲入が足リナイデ、是カラ借リヤウ、併ナガラ是ダケハ
三十二年ヲ豫定シテ置カウト云フノハ、誠ニ朝四暮ニノ術ト評スベキ、笑フニ堪ヘタル
諺語デアルト排斥ヲシナケケバナラヌト思ヒマス、且又此事ハ甚ダ不利デアル、前ニ申シ
マシタ通、過度ノ信用ヲ行政府ニ與ヘテ、國家ガ此事ヲ政府ニ授機的ニ運用サセルト
云フコトハ、健全ナル財政ノ根本原則デナインミナラズ、是ノ如キコトヲシタナラバ、事實
ニ於テ不利デハナイカ、若シ歲計ニ餘裕ガアッテ、其中カラ少ナクモ利息ヲ拂シ僅デモ元
ヲ拂フコトが出來ルナラバ、是ハ健全明白ナル政策デアリマスケレドモ、之ニ反シテ多クヲ
借リテ少ナク拂フト云フコトニアタナラバ、其差ニ於テ國力ノ根柢ヲ危クスルト云フコト
ノアッタキニ、何人ニ依頼シテ整頓シタル軍備ヲ動スコトが出來マスガ、私ハ今マデ幸
ニ吾ニノ唱ヘタルトコロノ國力増進、財力發展ノ議論が行ハレテ居ツテ、負債ヲ起ス餘地
ガアッタカラ、幸ニ日露ノ戰爭ヲ續ケルコトが出來タト思ヒマス、若シ更ニ活動スルノ餘
地ガナイ、信用ノアリダケ借リルダケ借リルト云フコトニアタ、望月君ノ憂ヘラレル如ク、大
岡君ノ憂ヘラレル如ク、今後強點ヲ持ツテ居ツテモ、財力ノ弱點ハ勇敢ナル兵士ガ食ナク
衣服ナクシテ立竦ミヲシナケレバナラヌト云フコトヲ深ク本員ハ憂ヘルノアゴザイマス、望月
君ノ言ハレル如ク、歐羅巴ニ借リテアリマス、米國ニ借リテアリマスノハ、利子ハ不幸
ニシテ高イ、ソレ故ニ或時本員ハ斯ウ云フコトヲ聽イタ、倫敦ニ日本ノ公債ヲ起シマシタ
トキニ、此コチラデハ、償還年限が短イ方ガ受けガ宜イト思ツタ、長ク借リテ貰ハナケレ
バ徒ニ煩雜テ割合ニ手數ヲ要スルノデ、永ク續イテ貰フ方ガ、貸主ノ便利デアル、確ニ
還スト云フ信用ヲ繫イテ置ケベ、寧ロ利息ノ良イ負債ト云フノハ、短期ヨリハ長期ノ方
ガ直打ガアルト云フコトヲ記憶セラレシコトヲ望ム、ソレ故ニ遺縁リヲシテ強テ元ヲ還スヨ
リハ、若干年間利息ヲ拂フテ、若干年間整理ヲシテ、其中ニ日本ノ財力ガ伸ビテ來ルカ
ラ、元利ヲ拂フダケノ前途ノ目的ガ著イタナラバ、此五年位ハ元ヲ拂ハナイデモ決シテ財
政ハ不安ヲ感ズルコトハナイ、利息ノ高イノヲ長ク借リテ居ルト云フコトハ債主ノ望ムト
コロデアル、唯財政ノ健全ナリヤ否ヤト云フコトガ、根本ノ問題ア、五箇年以後ニ利息
ト元金ヲ拂ヒ得ルダケノ日本ノ財政デアルカ、日本國民ノ實力ガアルト云フコトハ、實地
ノ問題デアル、名ニアラズシテ實ニアルト云フコトヲ記憶セラレシコトヲ望ム、斯ウ云フ譯テ
アリマスカラ、サウ慌テ、遣リ緑リヲスルニハ及ハヌ、遣綠リヲスレバ手數料ヲ取ラレル募
債手續ニタメニ金ガ要ル、禮モシナケレバナラヌト云フヤウナ譯テ、個人ノ負債ニシテモ、一
國ノ負債ニシテモ、屢々借替ヘル——信用ヲ増サズシテ借替ヘルト云フト、借替ト借替
トノ間ニ、雜費ヲ散シマウ金ノアルト云フコトヲ記憶シナケレバナラヌ、信用ガ厚ケレバ

長ク借りルコトが出来ルノアルカラ、本員ハ根柢ニ迦ニテ今過大ナルトコロノ計畫ヲ立
テ議セラレタナラバ、是コソ外國ニ向クテ日本ノ根柢堅キ信用ヲ維持スルコトが出来ルト
思フノデゴザイマスカラ、全體戰爭ノ間ハ金ノ上ノ損得ヲ議スル餘地ガナイ、國ノ存亡
ヲ賭スル時デゴザイマスカラ、ドンナコトモヤラナケレバナラヌガ、平和ノ時期ニ入クテ尙
外國ノ公債ガ貸シ易イ、借り易イト云フ所ニ活路ヲ開イテ、之ヲ無限ニ殖ストコロノ隙
ヲ明ケテ置クト云フコトハ、財政ノ危険是ヨリ大ナルハナシ、是ノ如キ權力ヲ政府ニ與フ
ルト云フコトハ、實ニ國會ガ——其職責ヲ懸念スルモノガ御同様甚々相濟マヌコト、本員
ハ思フ、少額タリトモ確カ還スト云フ目的ガ立ツタナラバ、年限ヲ追ア何年マデニハ還ス、
現金拂ニ還スト云フテモ決シテ差支ナイ、唯此間ハ高低ノアルコトハ、私ハ信用ニ關係
スルト思フ、今年ハ多ク拂タ、來年ハ拂ヒ得ナカッタ云フノハ、甚ダ宜シクナイコトデ、
還スナラバ還スト云フコト、ハキリト年割ニ當嵌メテ、此表ノ如ク還シマスト云フコトハ、
一番明白ナル健全ナル財政ニアツテ、若シ節儉整理ノ結果常收入カラ之ヲナス基礎ガ立
チマシタナラバ、是ヨリ安全ナコトハナイ、併ナガラ本員ハ爲シ難イコトヲ政府ニ責メルノデ
ハナイ、唯空中ニ櫻閣ヲ構ヘテ、多クノ信用ヲ維持セントスルトコロノ根柢精神ニ反對
スルノデアリマス、陸海兩相ハ此點ニ於テ本員ノ委員會ノ質問ニ満足ナル答ヲ與ヘラ
レタ、若シ陸海當局者ノ單純ナル意見ヲ以テスレバ是ミニ金ガ要ルケレドモ、併ナガラ國
方ト相伴ハナケレバナラヌ、財力ト相對セナケレバナラヌカラ、是ハ大藏當局者ト議シタ上
テナケレバ、確定ノ意見ト認メサランヤウニ望ミマスト言ハレタノハ、本員ハ其當時ニ於テ
誠ニ満足ナル御答アルト云フコトノ謝辭ヲ述ベル位マデ、此問題ニ付イテハ大イニ喜ン
ダノデアリマス、詰リ國力ニ相應ズルトコロノ飾ナキトコロノ準備ヲ整ヘテ來ラレルコト
ハ、本員ノ望ムコトニアツテ、大石君ノ豫言セラレタル如ク、現在ニ於テハ恐ルベキ敵ハ目
前ニナニ、「クリミヤ」戰爭ノ創痍ハ二十ニシテ癒ヘタト英人ガ露國ヲ評シテ居リマスケ
レドモ、今回ノ打擣ハ恐ラク「クリミヤ」戰爭ノ打擣ヨリ甚シノテアル、況ヤ今申シマシタ
ハ、海外ニ動亂ガ暴露シテ居リマスノト、總テ綜合シテ見マスルト、「クリミヤ」以後ノ露
國ヨリハ、滿韓ニ於テ敗レタルコロノ露國ノ方が、苦痛が深イアラウト思フ、之ト反
對デアツテ、日本ハ此戰ヲナス前ニハ、消極的ノ同盟デアツタガ、今日ハ積極的ノ同盟ヲ
フルデアル、之ニ反對デ借リルダケハ借りテ、信用ヲ益過大ニ維持シヤウ、今マデノ既ニ
全ノ借り易イ精神ヲ以テ、此案ニ賛成ヲ表セラレルノハ、國家ニ對シテ不忠實ナルトコ
ロノ行アル本員ハ排斥シナケレバナラス、況ヤ一言附加ヘベキハ、高橋是清君ガ日本
ノ委任ヲ受ケテ、アチラニ參テ金ヲ借リルトキニ、斯ウ云フ約束ヲシタカラ、是ガ日本ノ言
質アルト云フニ至ラテハ、實ニ國會ヲ侮辱シ、日本ノ全體ヲ侮辱シタルトコロノ淺マ

○議長(杉田定一君) 井上角五郎君

シキ言葉ト私ハ言ハナケレバナラヌ、計ラザリキ博覽達識ノ望月君ノロヨリ、此演壇ニ
於テ是ノ如キ報告ヲ受ケントハ、流石ニ政府ハ「レゾブル」シタ答ラシテ、アツカモ知レヌト
言テ居ルノハ、政府ノ方ニ常識ハアツテ、之ヲ明言シテ憚ラズ、是ガ日本ノ言質デアル
ト云フノハ失禮ナガラ常識ニ外レタルトコロノ言葉ヲアルト思フ、本員ハ高橋君ガ是ノ如
キ言葉ヲ放ダタナレバ齊東野人ノ語ナリ、國家ノ獨立ト相容レズ、己レノ信ズルトコロヲ
以テ議決セヨト、諸君ニ向テ告ダケレバナラヌと思フ

○井上角五郎君 諸君、本員ハ唯今ノ問題タル法案ニ對シテ贊成ヲ表スルモノアゴザ
イマズ、贊成ノ主意ヲ茲ニ簡單ニ述ベタイト考ヘマスノテス、ケレドモ、既ニ先輩タル大岡
君、又望月君ヨリ十分ニ之ヲ述ベラレ、サウシテ是が反對タル淺野君、大石君、就中
唯今ノ島田君ニ至リマシテハ、勿論一一擧ゲテ評スベキコトハアルケレドモ、要スルニ大
體要領ヲ得ズノ一言ヲ以テ、之ヲ駁スルニ足リルト思フノアリマス、(ヒヤー)ノ聲
起ル)本員ハ故ニ極メテ簡單ニ唯所見ヲ述ベテ置ク積デアリマス、諸君、今回我國ガ露
西亞ニ打勝フタ、此打勝^タタル名譽ノ重モナルモノハ何デアルカ、勿論陸軍ガ強イ、海軍
ガ強イ、故ニ我國ガ勝^タト云フコトハ論ノ無イコトデアルケレドモ、私共ハ自カラ信ズル、
殊ニ平生實業ニ從事スルノ立場ニ於ケル井上角五郎ハ信ズル所ガアルノアル、即チ今
回戦爭ノ勝利ノ最後ノ名譽ハ、我國財政ノ鞏固ニアルト云フコトニ歸シナケレバナラヌ
ノデアル、(然リ)ト呼フ者アリ)諸君、我國ガ露西亞ト戰端ヲ開ク當時ニアツア、
外國ノ新聞、又ハ外國ノ人々ハ如何ニ之ヲ評シ、如何ニ之ヲ期シテ居^タカ、到底日本
ガ露西亞ト戰^タシタコロガ勝^タコトが出來マイ、間モナク陸軍ハ鴨綠江ニ勝利ヲ得、海
軍ハ旅順港ニ勝利ヲ得タキニモ、外國ノ人々ハ如何ニ之ヲ言^タカ、成程戦爭ハ強イ、
強イガ到底シマヒマデ財政ガ持續カヌラウ——到底シマヒマデ財政ガ持續カヌラウ、
日本ハ之ガタメニ失敗スルノアル、斯^タニ居^タガ、其財政ガ鞏固ニシテアス、即
チ既ニ平和充復ノ今日ニ至^テ未ダ日本ノ財政ト云フモノニ甚シキ紊亂ヲ見ズ、彼ノ貨
幣制度ハ依然トシテ戦爭前ノ有様ヲ繼續シテ居ルト云フ、此事コソ今回ノ戦争ニ於ケ
ル最後ノ勝利アル、最後ノ名譽アル、是アレバコソ即チ我國ノ信用ハ忽チ從前ニ倍
シテ、戦争前ノ日本ノ公債ハ、幾失利付ノモノガ幾ラシテ居^タガ、即チ海外ノ市場ニ
モノデアルト云フヤウニ、此戦争ハ即チ我國ノ財政ノ鞏固ヲ示シタル勝利ニアツテ、其勝
利ハ即チ我國ノ經濟ノ信用ヲ増シタノアル、此時ニ當^タテアス、我日本ガテス、之ヲ如
テ居ルカ、公債ノ直段ハ能ク此國ノ信用ノ如何ヲ徵スルニ足リル、即チ一ノ標準トスベキ
モノデアルト云フヤウニ、此戦争ハ即チ我國ノ財政ノ鞏固ヲ示シタル勝利ニアツテ、其勝
利ハ即チ我國ノ經濟ノ信用ヲ増シタノアル、此時ニ當^タテアス、我日本ガテス、之ヲ如
タノデアツタ、島田君ハ日本ト露西亞トノ戰争中ハ、日本ノ財政ガ鞏固デアルノモナク、
日本ノ財政ガ充實シテ居ルノモナク、借財ヲ以テ戦争シタノアル、(島田二郎君)借
財ト云フノハ、外債ノ意味^{テス}ト呼フ)勿論デゴザイマス、外債ヲ以テ戦争^シ
モ——大岡君ハ左様^タケレドモ、ソレ程鞏固ニアツノヘナイ、借財ヲ以テ戦争^シ

シテ」——「一億万遠シテ、八億万倍ルコトニナラウケレドモ、ソレ等ハ音ニ自カラモ能ク其事ニ付意シテ整理シテ往クナラバ、之ヲ即チ此整理法案ハ（拍手スル者アリ笑聲起ル）自カラ財政整理ガ出來、其公債ノ償還ガ出來、サウシテ我國ノ信用ガ保タルモノアアルト思ヒマスルカラ、私共ハ此際ニ於テ、最モ此案ヲ必要ナリトシテ、折角戰勝依テ得タルトヨロノ我國ノ信用、我國ノ名譽ヲ維持スルニハ、唯一是ノミトハ言ヒマセヌケレドモ、此案ハ最も大切ナリト思テ、茲ニ賛成ヲ表スルノテアリマス

（拍手起ル「討論終結」ト呼フ者アリ）
○長谷場純孝君既ニ本案ニ對シマシテハ、各派ノ代表者ガ交（討論ヲ盡シタト信シマスカラ、是ニ於テ討論終結ノ動議ヲ提出シマス

○議長（杉田定一君）討論終結ノ動議ニ御異議ハナザイマセヌカ
（「異議ナシ異議ナシ」ノ聲起ル又「異議アリ」ト呼フ者アリ）

○議長（杉田定一君）御異議ハナイト認メマス、討論ハ終結セラレマシタ

○元田肇君直チニ本案ノ一讀會ヲ開カレンコトノ動議ヲ提出シマス

（「賛成イカ」ノ聲起ル）

○議長（杉田定一君）本案ニ付キマシテ、一讀會ヲ開クヤ否ヤト云フコトニ付イテ決

○議長（杉田定一君）投票法ニ付イテ御諮詢致シマス、長谷場君外二十名以上ヨリ、記名投票ヲ以テ採決セラレントノ要求ガ出テ居リマスル、因テ衆議院規則百一十七條ニ據リマシテ、記名投票ヲ以テ採決ラズルコトニ致シマス、第一讀會ヲ開クベシト云フ御方ハ、即チ白雲フ——白ラ御持參ニナルヤウニ願ヒマス、又第二讀會ヲ開クベカラズトブルトコロノ御方ハ、青キ札ヲ御持參ニナルヤウニ願ヒマス、ソレテ御分リニナリマシタ

○議長（杉田定一君）閉鎖——是ヨリ點呼ヲ始メマス

（書記氏名ヲ點呼ス）

○議長（杉田定一君）投票済アリマセヌカ、ナイト認メマス——閉鎖——開匣

○議長（杉田定一君）投票ノ結果ヲ書記官長報告セシメマス

（林田書記官長報告）

出席總員三百四十七
否トスル者一百三十七

（參照）

（本案第二讀會ヲ開クヘシトスル者）

由布	中	漢	持	辻	小	辻
喜太郎君	義君	若佐君	鐵五郎君	貫一君	寛君	高木
石川島	時	矢嶺	山中谷	市	龍藏君	藏君
清君	中	山	宇平君	庫	太君	君
植木	君	善	時善君	尾	福島	造君
元太郎君	君	謙	君	見	濱五郎君	有君
長谷川	長	達	君	濱	福島	造君
豊吉君	昌	漆	君	口	星渡邊	敬君
吉君	君	豊	君	佐	竹野	敬君
		吉	君	佐	佐	敬君

國債整理基金特別會計法案
〔異議ナシ異議ナシ〕ト呼フ者アリト
（杉田定一君）御異議ハナトイタ
柱第六、非常特別稅法中改正注

○長谷場純孝君 既ニ本案ハ大多數ヲ以テ可決セラレマシテ以上ハ、直チニ二讀會ヲ開カレシコトヲ希望致シマス、〔「贊成々々」ト呼フ者アリ〕而シテ、本案ハ委員會ニ於テ逐條ニ對シテノ議論ハ、一モナカツタノデゴザイマスカラ、逐條ノ朗讀ヲ省イテ、議案全部ヲ第二讀會ニ附セラレンコトヲ希望致シマス

〔「贊成々々」ト呼フ者アリ〕
付イテ御異議ハゴザイマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕
○議長（杉田定一君） 御異議がナイト認メマス、是ヨリ直チニ二讀會ヲ開キマス又議案ノ全部ヲ議題ト致シマス

國債整理基金特別會計法案
〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕
○議長（杉田定一君） 本案ニ付イテ御異議ハゴザイマセヌカ
〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕
○議長（杉田定一君） 御異議がナイト認メマス、本案ハ直チニ……
○長谷場純孝君 既ニ第二讀會ガ異議ナシト決シタ以上ハ、二讀會ヲ省略シ、直チ確定セラレンコトヲ希望シマス

〔「贊成々々」ト呼フ者アリ〕
○議長（杉田定一君） 長谷場君ノ發議ノ如ク三讀會ヲ省略シ、直チニ之ヲ確定議ニセラレルト云フコトニ付イテ御異議ハアリマセヌカ
〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕
○議長（杉田定一君） 御異議ハナイト認メマス、本案ニ付キマシテ、二讀會ヲ決議ノ通御異議ハゴザイマセヌカ

第一讀會

○長谷場純孝君　此場合ニ於テ非常特別稅法中改正法律案ノ委員會ノ結果ヲ御報告致シマス、其概要ハ前回陳述シタ通デゴザイマス、而シテ此案ハ議論がニ二分力レマンシタ、一ハ此案全部ノ反對論、一ハ此案ノ第一削除ト云フヲ、又削除シテ第二十七條削除トアルノヲ、是ヲ「本法ハ明治四十一年三月三十一日廢止ス」ト斯ウ云フ修正案が出マシタ、一ハ原案賛成、斯ウ云フコトニナリマシタ、即チ第二ノ修正案ハデス、現行法律ノ非常特別稅法中ノ第一條ガ「第一條臨時事件ニ依リ生シタル經費ヲ支辨スルタルメ、本法ニ依リ租稅ヲ増徵シ若クハ附加シ又ハ印紙ヲ貼用シ若クハ貼用セシム」斯ウアルノヲ此儘活カシテ置タト云フ「証デアツタノゴザイマス、而シテ其第二十條ノ現行法ハ「第二十七條平和克復ニ至リタルトキハ其翌年末日マテ本法ヲ廢止ス」トアルノヲ「第二十七條本法ハ明治四十年三月三十一日限り廢止ス」斯ウ修正ヲ

加ヘタイト云フ説が出タノデゴザイマス、而シテ種々討論ノ末、採決致シマシタトコロガ、此原案反對論者モ少數テ潰レ、第二ノ修正論モ潰レ、終ニ此原案賛成論が即チ過半數ヲ以テ可決致シマシタ、尤モ其理由ハ自カラ發言通告者が出テ、御演説ニナリマセウカス、私ハソレダケノコトヲ報告スルニ止メテ置キマス

〔島田三郎君登壇〕

〔簡単タタト呼フ者アリ〕

○島田三郎君 諸君、本員ハ不幸ニシテ矢張リ此案モ反對デゴザイマス、政友會ノ諸君ノ中ニ謝スベキコトアリ、將タ御忠告申スベキコトガアル、ソレハ他デモゴザイマセヌガ、此案ノ委員長ハ特ニ意ヲ用井テ、成來タトコロノ慣習ニ變ヘテ、特ニ報告ヲ分ケラレテシマシタノハ、案ヲ取扱ヒマスルニ鄭重ノ禮アッテ、本員ハ大イニ是ヲ悅ブノアリマス、何故ナレバ衆議院ニ於テ是ヲ議シマシテ、實地ニ國ニ重大ナル影響ヲ及ボスノデゴザイマス、是ヲ議シマスニモ、慎重ニ鄭重ニ謹シテ議シタト云フコトハ、一片國民ニ對スル衆議院ノ禮儀ニアラウト思フテ居リマス、然ルニ何ゾ圖ラン、或方面カラ簡單ニ演ベヨト云フニ至ツテハ、甚ダ黨派ノ節操ノ緩ンデ居ルコトハ、本員幾分ノ冷評ヲ以テ迎ヘル、院内總理ハ大イニ意ヲ用井マシタガ未卒ニ至ツテハ、未ダ十分號令が行居カナカッタクト思フト甚ダ御氣ノ毒ニ感ズル、本員ハ若シ意ヲ盡サザレハ、イソ迄モ長ク演ベマスカラ確カニ此事ヲ明言シテ置キマス、本員ハ此案ニ絕對ノ反對デゴザイマシテ、種々ナル理由由がゴザイマシテ、大イニ長ク論ジナケレバ、意ヲ盡スコトが出來マセヌ、此法律ハ唯今委員長カラ報告セラレタ如ク、至極簡單ナルモノデゴザイマシテ、現在ノ法律ハ二行カ三行ニナツテ居リマシテ、初メノ一箇條ト第二十七條ノ終リノトコロデアリマスガ、此改正案ハモット簡單デアル、第一條削除、第二十七條削除、誠ニ文字デ見マスト簡單テ、幾ド述べ程ノ理由ノナイヤウナ、斯ウ云フヤウナ案デゴザイマス、併ナガラ其實質ニナリマスルト、實ニ重大ナル關係ノアルモノデ、一億六千万ヲ戰時ニ不意ニ課セラレタトコロノ、急激ニ課セラレタトコロノ、此臨時特別稅ヲ無期限ニシテ、延期シテ成立タセルト云フノアリマスカラ、是ハナカノ、國民全體ノ生活ニ非常ナル影響ノアルモノデゴザイマス、之ヲ簡單ニ議スルト云フコトハ、衆議院ハ其職責ヲ曠クシタト云フ責ヲ免レヌノアリマス、總テノ意志ヲ盡シテ、急ニ討論終結ナドノ出ヌヤウニ、院内總理ニ之ハ注意セラレシコトヲ衆議院ノタメニ望ム、此戰時特別稅ト云フモノハ、實ニ國民犠牲ノ精神ノ凝結シタルモノデ示シテ居リマシテ、戰ノトキノ急ニ應ズルトコロノ費用ニ議定シタモノアリマスカラ、自然ノ結果トシテ戰が息メバ、平時ニ復シマスカラ、之ニ對シテハ無限ノ尊敬ト、無限ノ謹慎ヲ表シテ見ナケレバナラヌ、ソコテ此案ノ性質ヲ申シマスルト非常特別稅ト題シテアルガ如ク、其名稱が其意味ヲ示シテ居リマシテ、戰ノトキノ急ニ應ズルトコロノ費用ニ議定シタモノアリマスカラ、自然ノ結果トシテ戰が息メバ、平時ニ復シマスカラ、此奧書ヲ衆議院が加ヘタノデアリマセウ、ソレデ平和克復一年ノ後ニ止メルノアリ、確ズ衆議院ハ尙特ニ意ヲ加ヘテ特ニ二十七條ヲ加ヘタノデアリマセウ、ソレデ平和克復ノ後ハ、一年ノ間續ケテ後トハ消滅スルト云フコトヲ明記シタノアリ、恰モ表題ハ戰時特別稅ト題シ、第一箇條ニ云々タトル、此奧書ヲ衆議院が加ヘタヤウナモノアリマス、此期限ニ至ツテハ、上下共ニ確實保證シタノデ、平和克復一年ノ後ニ止メルノアリ、確カ本員ノ記憶致シマストコロハ、政友會ノ豫算委員長栗原君が此文章ノ筆ヲ執ラレタト記憶シテ居ル、斯ウ云フ具合ニ政友會ハ之ニ向ツテ重キ責任ヲ持シテ居ルコトヲ一言述べテ置カナケレバナラヌ、本員ハ戰後經營ノ第一義トシテ、信義ヲ國民ニ守ラナケレバナラヌト云フ意味カラ、是ヲ無期限ニ輕忽ニ延期スルコトハ反對シマス、第一ニハ現

内閣が誠意ヲ表シテ舉國一致ヲ國民ニ求マラレタ宣言ハ、一度ナラズ二度ニ度ニ至ツタノデ、深ク内閣ノ誠意ヲ國民ニ表セラル、コトヲ本員ハ信シテ居リマス、ケレバナラヌ國力ヲ發展シナケレバナラヌト云フ演説アリマシタ、其後此壇ニ現ハレテ、首相ノ資格ヲ以テ演説セラレタノハ、同ジャウナ意味デゴザイマシタガ、謹シテ是等ノ演説ヲ本員が是ヲ聽キ是ヲ目ニシテ、其言ヲ聽キ其文ヲ讀ミマスルト、實ニ西園寺首相竝ニ政友會總裁ノ兩資格ヲ以テセラレタ演説ハ、抽象的ニ同シ演説デ、唯辭令ヲ巧ミニ述ベラレタダケデ、事實ハ何ニモ捕マヘドコロガナリ、是ヲ政治方針ト云ヒマスレバ、幾ド方針モナケレバ、政策モ別ニナリ、併ナガラ其中ニ捉ヘベキトコロヲ考ヘタナラバ、舉國一致上下心ヲ同シクシテ國事ヲ此多難ノ際ニ切括ケテ、立派ナ日本帝國ニシタイト述ベラレタダケデ、事實ハ何ニモ捕マヘドコロガナリ、是ヲ政治方針ト云ヒマスレバ、幾ド方針モナケレバ、政策モ別ニナリ、併ナガラ其中ニ捉ヘベキトコロヲ考ヘタナラバ、舉國一致ノ誠意ノ表彰ニアラウト思シテ居リマス、本員ハ其手段ニ於テ西園寺内閣ノ提出セタ此精神ニ付イテハ、本員ハ滿腹ノ同意ヲ表スル、舉國一致ニ意味ヲ解釋シタナラバ、皆ゾロ／＼同意ヲ表スルノ意味ニアラズ、國民が同情シテ政府ト共ニ、道理アルトコロ打勝ツタトコロノ大ナル助ケデアッタ、誠ニ其當時モ既ニ本員ハソレヲ評論シ、後トニ於テ民ト共ニ國事ヲ議サウト云フ内閣ノ豫望ニ背イタモノト思ヒマスカラ、矢張善意ヲ以テ反對ヲ表サケレバナラヌト思フ、抑國民が痛ミヲ忍シテ急卒ニ、而カモ一年二年ノ増稅ニ服シテ、一人ノ苦情モ述べズ、此稅ヲ拂ツタト云フコトガ露國ノ强大ナル勢力ニシテ此内ニイロ／＼ゴザイマス、本員が見テ惡稅ト評シテモ、一方ノ力カラサウナイトモ事實已ム能ハザルモノ故ニ急遽之ヲ議定シタノアリマス、其額一億六千万圓其内ニ含マシテ居ル稅目ハ巨多デゴザイマス、此内ニ何人が見テモ恩カナル惡稅ト云フモノガ含云ハル、カ知リマセヌガ、何人が見マシテモ本當ニ笑ニ堪ヘヌト云フノハ、銀行ノ小切手ニ稅ヲ課シテ、一方ニハ貯金ヲ獎勵スルトコロノ金ヲ掛ケタ役人ノ勵キガアルカト思フト、一方ニハ貯金ヲ成ルベクサセナイト云フ稅ヲ課シテ何ノ得ルトコロモナク國民ノ勤儉心ヲ破ツタノハ、愚ナル稅ト苟モ識慮ノアル人ハ皆之ヲ批難スルノハ、其意味ニ於テ殆ド異論ガナイ、ソレカラ本員が當時モ既ニ評論シタル如ク、彼ノ玉蘭ニ輸入稅ヲ課シタノハ、日本ニハ玉蘭が澤山出來テ、品質が劣ルカラ、其劣ルモノヲ出シテ、日本ノ蘭ノ善手ニ製出シテ、内ニ入レタモノニ付イテハ、價ヲ十倍ニモ二十倍ニモナシ、紋縮緬ノ如キモノヲ製造シテ、國力ヲ増スト云フノアルカラ、苟モ狂人ニアラザル限りハ、其惡稅タルコトニハ、何人モ異論ガナイ、米ノ稅ノ如キ、本員ハ絕對ニ惡稅ナリト思シテ居リマスガ、一方ニ惡稅ナイト云フ人がアリマスカラ、是ハ議論トシテ鬪ハス餘地ガアリマスガ、利ヲ忍シテ居シタ國民ノ精神ニ對シマシテハ、本員ハ無限ノ尊敬ヲ拂ハナケレバナラヌト思ッゲタノデ、是ノ如キモノガ含マレテ一億六千万圓ニナツテ居リマスカラ、此稅ハ急卒ニ思慮ナク議定シタノモナケアル、併シシガラ戰爭ノ間ニハ餘義ナイト云シテ、其痛ミヲ忍ビ、其不利益ヲ忍シテ居ルコトニハ、然ラバ國民ハ是ノ如ク恩ナル稅ヲ含マレテ居ルコロノ、而モ巨額ノ一億六千万ノ稅ニ堪ヘテ苦情ヲ言ハナカッタノハ何カト云ヘバ、是ニハツノ理由ガアリマス、一ハ國難ニ於テ金ヨリモ貴い血ヲ流スノヲ惜マズ、己レガ愛スルトコロノ子弟ヲ戰場ニ送ッテ

モ涙ヲ流サミル忠勇ナル國民ハ、如何ニシテ其財産上ニ加ヘラレタル損害ニ對シテ苦情ヲ唱ヘル餘地ガアリマスカ國ノ安危ニ繫テハ己レノ身ヲ國ノタメニ捧ゲ己レノ愛スル子弟ヲ捧ケルトコロノ國民ハ、愚ナル稅ト雖モ、唯愚ナルハ衆議院デ之ヲ議定シタル人ノ責任デアルトシテ、國民ハ致方ガナイト思ッテ忍ンデ居シタノデアラウト思ヒマス、モウ一ツハ何カト云ヘバ、臨時特別稅デアリマスガ、戰爭ガ止シングラ平和克復ノ後一年ニシテ元ヘ戻ルノデアルカラ、限リアル稅ヲ忍ブノハ、痛シト雖モ尙忍ブダケノ勇氣ヲ出サナケレバナラヌト思ッテ、惡稅トシテ擯斥ハシテモ、此二ツノ理由カラ巨額ノ一億八千万圓ヲ忍シノデアリマス、此精神ニ向シテ本員ハ無限ノ尊敬ヲ拂ハナケレバナラヌト思フ、政府モ勿論ノコト、國民ニ對シテ大ニ感謝ノ意ヲ表セラルベキ皆ニアルト思ッテ居リマス、此精神が凝結シテ、有形ノ事物ニ於テハ武器モナカク彼ガ精巧デアリ、人數モ多イニデアル、一人トシテ見マシタナラバ體力モ彼が強クシテ且大ナルモノデアルガ、ソレニモ拘ヘラズ、世界が見テ角力ニハナラヌト思テ居シタコロノ日露ノ戰爭ガ、彼ニ多大ノ損傷ヲ被ラシメテ、首尾能ク強露ヲ擊退シタト云フノハ、此精神が無形ノ間ニ活動シタ結果デアシテ、決シテ有形的器械的力ニ依頼シテ、此目的ヲ遂ゲルコトハ出來ナイト思ヒマスカラ、戰後ノ經營ニ於テモ、此精神ヲ國民ニ發揚セシメ、瀕憂セシメテ、此多難ノ時期ヲ切抜ケルノガ第一ノ著眼デアルト思ウテ居リマス、斯ウ考ヘマシタナラバ、無限ニ所謂簡單ナル四文字ヲ以テ、此信約ヲ破ヲテ平和克復後一年ノ後ニハ此稅ガ止ムト思テ居シタコロノ國民ニ唯一一片ノ法律ノ改正ヲ以テ、之ヲ無限ニ延バサントスルノデアルカ、而モ本員ハ委員會ニ於テ大臣竝ニ委員長ニ注意シタル如ク、國債整理基金法律案外一件ト云フノ例ヲ破ヲテモ確カニ慎重ニ議シタトイト云フ注意ヲ與ヘマシタハ、此譯デアリマス、斯ウ云フ譯デアルカラ、政府が輕率ニモ是ノ如キ改正ヲ加ヘテ、而モ本年十二月三十一日ニアラザレバ消ヘナイトコロノ法律ヲ改メ、條件ヲ付ケシメントシテ、中ニ一ノ議會ヲ挿シテ置キナガラ、恰モ之ヲ無限期ニ延バサウト云フ法律ノ改メ方ノ形式ニ於テ、本員ハ第一ニ不^ト同意ヲ表サナケレバナラヌト思フ、國民ノ希望ヲ破り、竝ニ國民ニ對シテ禮儀ヲ破ルト云フコトニ付イテハ、國ニ取シテ重大ナルコトデアルト思ヒマス、且顧ミテ見マスルト云フト、政友會ノ諸君が曾ア國民ニ親切ナル舉動ヲセラレタコトヲ本員ハ思ウテ居リマス、ソレハ何アルカト云スト、地租ニ關係致シマシテ、一千万圓ニ滿タザル租稅ヲ、戰爭ノ間ニモ内閣ト往復致シテ、之ヲ減シテ貰ヒタトイト云フコトヲ論ジラレタコトガアリマシテ、本員ハ其算定ヲ與ヘテ見マスルト、此處ニ簡約ニ申シテ見マスト、田畠三箇六ト云フモノヲ増スト云フ原案デアタノヲ、上ヲ減シマシテ二箇ニシタノデゴザイマス、此田畠三箇六ヲ増スノヲ三箇ニ引上ゲタノハ、其金額ハドノ位カト申シマスト、七百五十万圓ニ過ギナイ、唯一箇所地租ト云フ中ノ宅地稅——ノモノヲ取除ケタ田畠タケデ僅ノ所デ金額カラ見マシタラ七百三十万圓ニ過ギナイモノデアルガ、矢張交渉委員ヲ設ケテ、當時其衝ニ當テ桂首相ト折衝サレタノハ、唯今ノ内務大臣原君、司法大臣松田君、此兩君ガアシテ、是マテ匆卒ノ間ニ注意ヲ拂シテ、而モ戰時匆卒ノ間ニ注意ヲ拂シタ、此諸君が一度内閣ニ這入ラレタカラ、一億六千万圓ヲ一筆ニ抹殺シテ國民ノ希望ヲ破リ、尙是ノ如キ略式ニ依シテ無限ノモノニ改メヤウト云フコトニ同意サレタノハ、本員大イニ解セヌトコロデアル(拍手起ル)之ヲ惡ルク評シマスレバ、位置ニ依シテ節ヲ變ヘルノデアシテ、紳士タルモノハ、果シテ是ノ如キモノデアルカ、黨人ノ信用ハ、是ノ如クニシテ國民ノ間ニ存

ニ代シテ其不當アラム鳴マサニラサミシタヲ得タク思スノ、(ヒヤカ)ト呼フ者アリ併ナガラ、是ハ前
内閣ノ事アリ、今内閣ハ與ラヌト云ヒマスガ、何レノ會社モ前重役ノヤツタ失策ニ付イ
テ、直接ノ責任ガ無クトモ、相對シテ居ル者ニ向カシメハ、相當ノ禮儀ヲ拂フコトハ少シモ
ヒドクナイコトアル、是ガアレバコソ重役ニ向カシメ株主ガ尊敬ヲ拂フノデアル、私ハ之ヲ扳
フニ付イタ、爲シ得ベキダケ信用ヲ維持スルトコロノ形式方法ヲ執チテ、其最モ忌ムベキ租
稅ヲ除イテ、之ヲ後カ來ニ引繼ゲト云フコトハ、誠ニ穩當ナコトアシテ、決シテ難キ政府
ニ責ムル要求テハナイト思カシメ居リマス、然ルニ此戰時稅ヲ容易ニ今回ノ議場ニ出サレタ
ニ付イテハ、本員ハ大イニ不服デアルノテ、容易ニノヲ議決スルコト、ナタナラバ、非常ニ
後來ニ事ガ心配ニ堪ヘヌ、イツテ政府ト云フモノガ、約束ニ背カシメノデアル、國政ノ變
化・時勢ノ變遷ト云フ、此簡單ナル文字ガアレバ、如何ナル約束モ常ニ破ラレルト云フコ
トニナレバ、丁度唯今議決ニナリマシタトコロノ彼ノ減債基金ノ事モ、此年限ヲ極メテ
年ニ一億一千万圓、ヲ取除ケテ置イテ、其中カラ二千萬圓ヲ拂フト云フ約束モ、時
勢ノ變遷・政局ノ變化ニ依シテ破ラレルト云フコトニナレバ、是亦不信用ノ結果、折角可
決セラレテ吾々が、之ヲ冷評ヲ以テ迎ヘマシタケレドモ、歡迎セラレタ諸君ノ盡カシメ力ガ水ノ泡
ニ歸シタト、國民ニ看做セラレルデアラウト私ハ思フ、(ヒヤカ)ト呼フ者アリ斯ウ考ヘテ
見マスルト、之ヲ大イニ苦慮シテ已ムヲ得ズシテ增スト云フコトニ事實ヲ國民ニ示シタイン
デアル、古人が民ヲ見ル傷メルガ如シト言フタノハ此事ヲアラウト思フ、暖衣飽食水ノ人ガ
僅カノ租稅ガ上タカラト云シテ、生活ニ響クモノノデナイト想像シテ居ルノデアリマセウケレ
ドモ、今日彼ノ東北ニ饑饉地方ノ者ガ訴ヘテ居ルト云フコトヲ聞イテ居リマス、是ハ天災ニ遭ウテ饑
饉ニ際會シタノデアリマスカラ、此苦ヲ訴ヘル者ガアルノデアリマスケレドモ、多數ノ人ニ
至シテハ、何レノ地方カ然ラザラン、租稅ヲ議スルニ當テハ、大ニ是等ノ事ハ考ヘナケレバ
ナラスト思フノデアル(ヒヤカ)ト呼フ者アリ政府ガ初メヨリ斯ノ如キ者ヲ持シテ國民
ニ臨マレタナラバ、國民ハ此政府ニ向カシメ、大ニ同情フ拂フデアラウト思フ、過日西園寺
總裁ガ大會ニ於テ演說ヲサレタ如ク此壇ニ登カシメ、演說ヲサレタ、簡單ニシテ無味ナルト
コロノ、捉ヘドコロノナイン——政治方針トシテ見ルベカラザル此演說ノ中ヨリ捉ヘテ見レ
バ、誠意ヲ披瀝シテ一致スルト云フ點ニ落著スルデアラウト思ヒマス、此精神ガ能ク發展
シタナラバ、國ノ總テノ事ガ平和ニ調和セラレテ、能ク運ブデアラウト思フ、抑ミ西園寺侯ノ
桂伯ニ異ルトコロノモノハ、何んデアルカト云ヘバ、西園寺侯ノ桂伯ニ異ルトコロハ、西園寺
侯ガ平素立憲政治ヲ重ンシ、國民ニ對シテ同情ヲ持ツト云フコトニアル、ヤ
是ガ必ス桂伯ノ爲ストコロト異ルデアラウト本員ハ思シテ居フ、現内閣ガ前内閣ト異ル
トコロハ、何んデアルカト云ヘバ、立憲主義ヲ謹シテ守ル言ハレタノデアル、之ガ今ノ內
閣ニ向カシメ一點希望ヲ屬シテ居カシメタノデアリマスケレドモ、果シテ此言語ノ實ニセラル、ヤ
否ヤト云フコトハ、此案ノ形式竝提出方ニ於テ、本員ハ吟味スベキトコロノ一ノ試驗
場デアラウト思ツタ(ヒヤカ)ト呼フ者アリ既ニ立憲主義ヲ謹シテ守ル上ハ、立憲主義
ノ財政ト云フコトハ、他ノ事デナシ、國ノ經營スルニ必要ナル事物ヲ確定シテ、之ガ今ノ内
閣ニ向カシメナル費用トシテ、國民ガドウシテモ拂ハナケレバナラヌト云フ義務ヲ負フヤウニシナケレバナ
ラス、先ツ其事が必要アルカ不必要デアルカ不必要アル思フト本員ハ思シテ居フ、現内閣ガ前内閣ト異ル
以上ハ、如何ナル痛ミ忍ヌデモ、租稅ヲ拂ハナケレバナラヌト云フコトニナルノデアル、事
實ヲ確定シテ、出スヲ量シテ入ルヲ爲スト云フ、所謂專制政體ノ入ルヲ量シテ出ダスヲ爲

ノモノヲ出サナケレバナラヌト云フ國民ノ意ヲ體シテ、議スルコトモ出來ルノデアル、何故ニ此調査が出來ナシノデアルカ、何故ニ當局者ニ於テハ此調査ハ出來ヌト云フノデアルカ、戰爭ノ場合ニハ急卒ノ間ニ二回マテモ議會ヲ開イテ、二回ノ増税ヲ出シタ、二回

故ニ議員諸君ハ餘義ナイコトデアルカラ、之ニ向シテ同意ヲシナケレバナラヌト、斯ウ云フ事ヲ言ハレルノデアルカ、本員ハ前二例ヲ舉ゲテ、何人モ異論ナキ惡稅ノ一二ヲ舉ゲマシタガ、其他之ニ合マレテ居ルモノハ澤山アル、一日モ早ク營業ノ安心ヲ得、一日モ早ク良民ノ職分ヲ盡シテ、國力ヲ養フコトニ勉メタイト思フテ居ルモノガ、此稅ノタメニ妨げラレテ居ル者ガ澤山アル、取ルトキニハ急遽ニ取ルケレドモ、痛ミハ一年ドコロデハナイ、二年ノ間調査ノ時限が掛ルト云ヒナガラ、一年ノ間痛ヲ忍ハセルト云フコトハ、實ニ當局者怠慢ノ責、眞ニ過ルベカラズアル、是レ國民ニ對シテ不親切ナル者ト言ハナケレバナラスト思フノデアル、諸君ハ何ノタメニ議會ニ出テラレタノデアルカ、國民ノ意思ヲ代表スル職分ニアシテ、何故ニ當局者ニ對シテ忠言ノ責ヲ盡サヌノデアルカ、(「無禮ダゾ」「何ガ無禮ダ政友會顏色アルカ」ト呼フ者アリ)是ノ如キモノノアル、決シテ私ハ無禮ダトハ思ハヌ、決シテ「オブストラクション」ヲ——妨碍ヲ政務ノ進行ニ與フル者デハナイ、事實ニ於テモ數ニ於テモ、著々議論スペキ論據ガアルノデアル、ソレナラバ今年十二月三十一日ニ於テ、修正ノ方ノ期限ハ盡キテシマダ、二箇月缺ケテアシテ、一千萬圓ノ差ガアルト云フが、今マテノ經歴ニ依レバ、幸ニシテ豫定シタ額ヨリ多クノ收入ガアルノテ、是ハ甚ダ御國ノタメニ賀スベキコトデ、大凡一千万圓マデニハ至ルマイト思フ、六七百万圓ノ不足ヲ生ズルノ算定ニナラウト思フ、斯ウ云フヤウナ場合ニ當局者ハドウ云フコトシタカ、急要ノトキニハ借入ヲシタコトモアリ、大藏證券ノ發行シタコトモアル、其高ハ一千萬圓位デハナイ、六七百万ニ止マツモノデハナイ、モット多ク出シテ居ルノデアル、愈々十月ニ臨時議會ヲ開イテ改正稅率ヲ議シ、十二月ニ通常議會マテ待シトシテモ、議決セラレヌテ、來年ノ一月ニナタタシテモ、僅ニ大藏省證券ヲ發行シタコトモアル、其高ハ一千萬圓位ニ、決シテ先刻申シタ六七百万圓ニハ上ラヌト思フ、是亦爲シ能ハサルニアラズ爲サルナリト思フ、其精神ヲ分析スレバ、一旦議會ノ承諾ヲ得テ租稅ヲ議定セシメタ上ハ、一度ノ消滅セシメテ、再ビ之ヲ謀り出スト云フハ、誠ニ手數アリ、且其時ハナカレ反對が強クテ出來マイト云フ懸念カラ、斯ノ如キ簡略ナル形式ヲ取ラレテ、先ダシテ要求セラル、ト云フノハ、決シテ私ノ邪推ニアラズシテ、議論ヲ詰メレバ左様ニナルノデアルカラ、六七百万圓ノタメニ、五千萬ノ忠義ノ國民ニ向シテ、之ヲ訴ヘルト云フコトハ忍ブ能ハサルコトデアル、是レ即チ國ノタタニ不利益デアルト思フノデアル、斯ノ如キ手續ハ取ラレメコトヲ本員ハ望ムノデアル、立憲主義ニ於テモ國民ニ於テモ、戰時特別稅ヲ議定セシ當時ノ形勢ニ微シテ見テモ、約束ハ約束テ履シテ、新ナル法律ハ新ニ出シ、飽迄國民ヲ感服セシメテ、政務ノ費用ヲ徵收シテヤラレルノガ何ノ妨ガアラウ、本員ハ決シテ政務ノ上ニ已ムベカラザル費用デアルナラバ、今日反對ヲスルニ拘ラズ進シテ贊成ノ先鋒ト民ハ如何ニシテ信用スルコトが出來ルカ、舉國一致ヲ要求セラレタ根柢ノ精神ハ、斯ノ如キ手續ニ依シテ破壞セラルト思フノデアル、立憲的主義ヲ標榜セラレタ所ノ内閣モ、忽ニシテ此主義ハ傷ケラレルト思フ、本員ハ善意ヲ以テ内閣ヲ迎フ者デアリ、政黨

ノ發達ヲ希望スルガタメニ、内閣ニ縁故アル政黨諸公ニ忠告ヲ星サナケレバナラヌ、斷然之ヲ否決シテ、正當ノ處置ニ出テラルコトハ、朋友ニ善ラ勸ムルト云フ筆法カラ、男子ラシキ舉動ニ出ルコトヲ期シテ之ヲ申スノデアル、西園寺公ハ誠意ヲ披瀝シテ舉國一致ヲ求メ、又立憲主義ニ依シテ行動スルト言ハレナガラ、爲ス所若シ之ニ反スルナラバ、恰モ破戒僧ノ空念佛ノ如ク、輿論ノ非難ハ内閣ニ向シテ來ルト思ヒマスカラ、本員ハ内閣シマス

(元田肇君登壇)

○元田肇君 諸君、私ハ本案ニ贊成スルモノニアリマス、贊成ノ意ヲ述ベルコトハ多々ゴザイマスケレドモ、私ハ島田三郎君ノ如ク眞ニ辯ニ富ミマセヌ故ニ、骨ダケヲ述ベテ後トハ諸君ノ御諒察ヲ仰ギタイト思ヒマス、苟茲ニ一言述ベテ置キマスルガ、本案ヲ贊成スルノヲ平然トシテ贊成スルノデアリマセヌ、如何ニモ戰爭中ノ非常特別稅テアリマスカラ、法律ノ規定通ニ、戰爭ガ濟シテ翌年ニハ、之ヲ止メルコトテナケレバナラヌ、サウアリタインデアリマス、デアリマスが如何セシ今日ノ時局ニ於テ政府案ニ贊成シナケレバナラヌ必要ヲ認メタノハ平然テアリマセヌガ、又之ニ贊成ラセラルヲ得ザル必要ヲ認メテ贊成ヲ致スノデアリマス、島田三郎君ノ御演説ヲ駁シテナケラ私ハ自分ノ意見ヲ貫クコトが出來ルダラウト思フ、島田三郎君ノ御議論ハ、非常ニ長ク御述ベニナツタコトニアリマスガ、如何ニモ辭令ニ巧ミノ辯論ヲアリマスガ、其骨ハ何處ニアルカ分ラヌ、島田三郎君ハ頻リニ戰爭ノ翌年ニ止メベキモノガ、償金が取レナカツノハ、何タル不都合カト云フヤウナ、御説モ御述ベニナツタガ、是ハ現内閣が提出スル法案ニ向シテ發言セラルベキモノテハナイト思フ、苟モ立憲政治ノ何物タルヲ御心得ニナツタラバ、此席ニ於テサウ云フコトハアルベカラザルコトト思フ、(「ノウ」「ヒヤー」「聲交起」)又其他種タルコトヲ言ハレタケレドモ、要スルニ此稅ト云フモノが必要ガアルカナイカト云フコトニ付イテハ、少シモ御述ベニナツテ居ラスト思フ、私ハ茲ニ贊成シナケレバナラヌコトヲ申述ベマスガ、國家ハ一日モ活動ナルベカラズ、活動スルニ付イテハ必要ノ費用ガ要ル、其費用ガアルカナイカト云フコトガ、贊否ノ別ル、所以ト思フ、今日ノ豫算ヲ御覽ニナレバ、分リマスガ(「ノウ」「ト呼フ者アリ)進歩黨ノ諸君ニ御願ヲ致シマスルガ、暫ク御清聽ヲ煩シタイト思ヒマス、(「ノウ」「謹聽々々」ト呼フ者アリ)今日ノ歲出ト云フモノハ何程ニナツテ居ルカ、經常ノ歳出ガ二億何千万圓デ、歲入ガ幾々、是ハ私が茲ニ數字ヲ一々申上ゲナクモ豫算ニ現ハレテ居ルノテ、非常特別稅ヲ除イテ、經常歲入ニ屬スル分ヲ以テ、總テ諸般ノ經費ノ支出が出來ルカ、是ハ出來ナイコトハ斷然明カデアル、既ニ經費ヲ支辨スルニ足フナイ、而モ先刻マテ御反對ノ御議論ガアッタケレドモ、人多數ヲ以テ可決シタル基金ト云フモノハ、一億一千万圓ヲ、据置カナケレバナラヌト云フコトヲ本院が認メタル以上ハ、如何ニ反對ノ御方が「ノウ」(「」)トシヤリタクモ、可決シタル以上ハ、此極ニテ居ルノ歲出ノ外ニ、一億一千萬圓ト云フ金ヲ置カナケレバナラヌト云フコトハ明カニナテ居ルアルカト云フコトニ至テハ、島田三郎君ノ論據ハ甚ダ薄弱ア、一モ之ニ對シテ言ハヌノデアルカト云フコトニ至テハ、島田三郎君ハ喋々述ベラレタ、其支出ニ對スル財源ハ何デアルカト云フコトニ至テハ、島田三郎君ハ喋々述ベラレタ、其委員會ノ修正案ヲ承ツタアル、此點ニ付イテ進歩黨ノ諸君ハ如何ニ辯論ヲ爲サルカ、委員會ノ修正案ヲ承ツタトコロが今年ノ暮アシマフト、三十九年度一杯ニスルト、不足ガ一千万圓デアルカラ、修正案ヲ提出シテ明治四十年三月三十一日マテ、即チ會計年度一杯ト云フコトニスル、現ニ此議場ニモ配テアル、成程之ヲ出セバ一年度ダケノ歲計ハ相合スルヤウニナル、是ハ

一年度ダケニシテモ進歩黨ノ諸君ハ歲出ト歲入ノ比較ヲ取テ御出しニナツタノデ、眞ニ敬服ニ堪ヘナイガ、之ヲ敬服スルト同時ニ、島田君ノ辯論ハ無責任テアルト云フコトハ明カデアラウト思フ、「ヒヤく」又ハ「進歩黨トハ何ノコトダ」ト呼フ者アリ)ヨコデ進歩黨ノ諸君ト申シテ惡ルケレバ、角田君アリマシタカ、發言ガアリマシタガ、是ヲ二月三十一日マテト云フコトニ延ベルノハ歲出入ノ權衡ヲ得ルマテニセラレタノハ明カデアル、既ニ是ダケヲ御認メニナツタナラバ、私ヨリ諸君ノ方ガ豫算ニ詳シイ御方デアルガ、此中ノ非常特別稅ヲ廢シテハ基金ヲ置クコトモ出來ズ、計算モ立タヌト云フコトハ御承知デアラウト思フ、何ニモ「一年度ニ三箇月間延バシテ足リルモノデハナイ、二年三年ニ亘ツテ計算ノ足リヌコトハ、數字ノ上ニ明カデアル、既ニ明カデアルナラバ、進歩黨ノ諸君ハ僅カ三箇月間ヲ延ベルト云フ道理ニ服シナガラ、モウ少シ進ンテナセト云フコトニ同意シナインデアルカ、「ノウ」「ヒヤく」「ヒヤく」(ノ聲起ル)私ノ説明ハ諸君ニ取シテ御分リ惡イカ知ラヌガ、論理トシテハ明カデアルト思フ、ソコニ第一ニ來ルベキ問題ハ、島田三郎君モ言ハレタ如ク、成程非常ノ惡稅ガアル、是ハ本員モ甚ダ立派ナル稅法トハ信シテ居ラヌ、居ラヌガ、之ヲ修正スル必要ガアルニ付イテハ、茲ニ委員會ニ於テ政府ニ確メテアルコトガアル、政府ハ永久無限ニスルノアルカドウカ、是ニ付イテ大藏大臣ハ政府ヲ代表シテ曰ク、「二箇年間ニ調査會ヲ特ニ設ケテ、廣ク朝野ノ人士ヲ集メテ、稅法ノ改正ヲ計ル其改正ヲ計テ二箇年間ニ惡稅ヲ廢棄シ、改正スル積メアルト明言セラレタノデアリマス、二箇年間ニ於テ此事が出來ル譯デアル、シテ見ルト一部ノ方ガ之ヲ三月三十一日マテ延ベル、後トノ一年一年ハ延ベラレスト云フ論據ガ立ツテアラウガ、其論據ハ少シモ立タヌト思フ、結局致シマスニ、多辯ハ致シマス、是ハ表面ハ永久ノ如クシテ置イテ、調査會ヲ設ケテ、漸次ニ改廢シテ往ク、是カラ先キ政府カラ案ヲ出シテ改正ヲシテ往ク、シテ見レハ詰リ表ト裏ダケノ違ヒテ、少シモ違ハナイ、勿論一部ノ方ハ現政府ヲ信用セヌ御方デ、信用ヲセヌト云フ論據ガ立ツテアラウガ、其論據ハ少シモ立タヌト思フ、尙諸君ニ一言スルコトガアル、既ニ本院ガ基金法トニ云フモノヲ御認メニヲ修正シテ、非常特別稅ノ性質ヲ失ハシムルト云フコトデアル、益大切ナ事ト思フトアルト思フ、尙諸君ニ一言スルコトガアル、既ニ本院ガ基金法トニ云フモノヲ御認メニナシテ、反對論者ハ、國民ノ意志ヲ代表スルト絶叫サレル諸君モアリマシタガ、如何セン國民ヲ代表スル我議院ニ於テ、大多數ハ一部ノ人ノ意見ト違テ基金ヲ置クハ至當ナリト云フ決定ニナツテ居ル、「ヒヤく」「ノウ」「ノ聲起ル」此決定ヲ是認セラレタ譯ハ先ギニ種々之ヲ論セラレタノデ分テ居ルガ、是ハ置クコトガ第一ニ安心ヲ與ヘル、内外コトニナツタナラバ、基金ハ置カレタケレドモ、一年ヲ非常特別稅ヲ廢シテシマフト云フコトニナツタナラバ、基金ハ置カレタケレドモ、一年ヲ非常特別稅ヲ廢シテシマフト云フコトニセシムルト云フコトハ出來ヌコトデアラウト思フ、基金ヲ置ク必要ガアルナラバ、此金ハ確カニ這入ルト云フトコロノ稅源ヲ備ヘテ置クト云フコトガ、益大切ナ事ト思フノアリマス(ノウ)「ト呼フ者アリ」諸君ガ「ノウ」ト云シテ本員ハサウ云フ理論ヲ認メテ、既ニ基金問題ヲ可決シテ居ルノアル、故ニ私ハ以上ノ理由ヲ以テ贊成致スモノデゴザイマス、而シテ本件ハ……

(東尾平太郎君「質問ガアリマス」ト呼ヒ「答辯ノ必要ナシ」「ヤレ」「ト呼フ者アリ)

○元田肇君 有要ナル質問デアレバ答ヘルコトハ躊躇シマセヌガ、大抵私ノ趣意ハ御分ニナツタコト、思ヒマス、非立憲的トカ立憲的ト云フコトヲ、島田君ハ言ハレマスケレ

ドモ、是等ノコトハ一言ヲ以テ御答シマス、却テ島田君ガ非立憲的デアルト私ハ信ズルノデアリマス、單簡ニ是ダケニ致シマス(拍手起ル)

○議長(杉田定一君) 波多野傳二郎君

(波多野傳二郎君登壇)

○議長(杉田定一君) 最早定刻ノ六時ニ垂ント致シマスカラ、時間ヲ延長致シマス(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○波多野傳二郎君

唯今政友會ノ院内總理タル元田肇君ノ明言セラル、が如ク抽象的ニ論シマスレバ、政友會ノ諸君ニ於カセラレテモ、勅旨ヲ奉シテ本案ヲ當院ニ提出セラレタル總理大臣以下ノ各大臣ニ於カセラレテモ、蓋シ此案ヲ提出スルト云フコトハ不本意デアルニ相違ナイト本員ハ信ズルノデアリマス、併ナガラ具體的ニ之ヲ論ズレバ、今ノ財政ハ本案ヲ提出スルコト已ム得ズト認メラル、ノガ、總理大臣以下ノ各大臣竝ニ之ヲ贊成セラル、政友會、其他ノ諸君デアルト考ヘマスルが故ニ、本案提出ガ果シテ必要デアルヤ否ヤト云フコトノ事情ヲ盡シナベナラスト本員ハ存ズルノデアリマス、本員ハ本院ニ此本案ヲ提出スルノ必要ハ無シト第一ニ斷定ヲ致シマス、何故ナイカト申シマスルト云フ、平和克復後ノ翌年、即チ來ル十二月三十一日マテハ此法律ハ效力ヲ持テ居ルノデアリマスルが故ニ、政府ニシテ果シテ稅率ヲ改正スルト云フ真意ガアルナラバ、其間ニ諸稅率ヲ改正スルニハ決シテ難キ事デハナイ、之ヲ改正セザルハ能ハザルニアラズシテ爲サミルナリト云フコトア、本員ハ諸君ノ前ニ陳述シヤウト存シマス、何故左様ニ申スカ、既ニ委員會ノ速記ニ於テ諸君ガ承知セラル、デアリマセウガ、當局ノ大臣ハ宅地地價修正法、醬油稅則ノ改正法、國稅定率法、取引所稅法ノ改正法、公債條例ノ改正法等ハ當議會ニ提出スル積リテアルト明言シテ居ラル、ノデアリマス其中ノ宅地地價修正ト云フ如キハ、果シテ易イカ難イカト申シマスルト云フ、二十三年ニ帝國議會が開カレマシテ以來ノ歴史ニ徵シマスレバ、長キ間地價修正ノ問題、尤モ地價修正ハ田畠ノ地價修正デハゴザイマシタガ、長イ問題デアツタ、サレハ地價修正ノコトタル決シテ易イ業デハナイニ相違ナシ、併ナガラ難キハ即チ難シト雖モ、政府ニシテ之ヲ行フノ眞意アレバ行ヒ得ルト云フコトヲ茲ニ表明シテ居ルト存ジマス、即チ昨年非常特別稅ヲ協賛致シマスル場合、政府ニ向テ……

○奥野市次郎君 今ノ波多野君ノ御議論ハ修正ノ意見デスカ、全廢ノ意見デスカ、ドチラデスカ承リタイ

(「黙シテ聽イテ居レ」ト呼フ者アリ)

○波多野傳二郎君 先以テ全廢ノ意見ヲ述べ、已ムヲ得ザル場合ニハ修正ト云フコトニナルト、是ニ充ツルモノハ何レニモ無イコトニナル、ドウモ唯一言ノ言葉ヲ以テ國民ニ安心ヲセシムルト云フコトハ出來ヌコトデアラウト思フ、基金ヲ置ク必要ガアルナラバ、

此金ハ確カニ這入ルト云フトコロノ稅源ヲ備ヘテ置クト云フコトガ、益大切ナ事ト思フテ、既ニ基金問題ヲ可決シテ居ルノアル、故ニ私ハ以上ノ理由ヲ以テ贊成致スモノデゴザイマス、而シテ本件ハ……

(東尾平太郎君「質問ガアリマス」ト呼ヒ「答辯ノ必要ナシ」「ヤレ」「ト呼フ者アリ)

○元田肇君 有要ナル質問デアレバ答ヘルコトハ躊躇シマセヌガ、大抵私ノ趣意ハ御分ニナツタコト、思ヒマス、非立憲的トカ立憲的ト云フコトヲ、島田君ハ言ハレマスケレ

(「宜シ」「男ラシイ」「モウ止メ給ヘ」ト呼フ者アリ)

○波多野傳三郎君 卽チ之ヲ爲サントスレバ、決シテ難キコトデナイト云フハ、即チ宅地地價修正案ヲ出スト明言セラレタノテ明カデハアリマセヌカ、然ラバ次ノ議會マテノ間ニ、政府ニシテ果シテ稅法ヲ改正シテ、本院ニ提出スルト云フ真意ガアレバ、決シテ難イコトノナイト云フコトハ此一事が表明スルコトが出來ルノデアリマス、然レバ第一段ノ議論ノ岐レ目トナリマストヨロノ、政府提出案ノ如クセザレバ、果シテ歲計ノ上ニ於テ差支ガ有ルカ無イカト云フコトニ於テハ、尙一年ノ效力ノアルト云フコト、而シテ其一年間ニ政府ニ信義ガアレバ、確カニ修正案ヲ出シ得ルト致シマスルト、此點ヨリ論ジマシテ、決シテ茲ニ無期トナルベキノ本案ヲ、此院ヲ通過ゼニベナラスト云フ、論據ハナクナツタ存ジマス、第一段ニハ國家ノ財政、出スヲ量ラントシテモ、未ダ出ス根據ガ立ツテ居ラヌノデアリマス是モ亦確カニヤ否ヤ、委員會ノ場合ニ屢々國務大臣ノ明言セラレテ居ルが如クニ、陸軍海軍共ニ未ダ國防ノ計畫ガ立ツテ居ラスト上言ハル、ノデアリマス、然レバ國防ノ計畫立ツタ致シマスルト云フト、出スヲ量ラントシテモ、未ダ出ス根據ガ立ツテ居ラヌノデアリマス是モ亦確カニ茲ニ其證據ヲ舉ケルコトが出來ルト存シマスル、當議會ニ政府が出来セラマシタトヨロノ諸種ノ豫算案中ニ、陸軍海軍ノ復舊費ト名ヲ付ケマシタモノが、合セテ五千万圓アツタノデゴザイマス、然ル三政府ハ眞ニ出スヲ量ルノ所信ガアレバ、此五千万圓ハ飽マデ貴カル、皆デアリマスニ、元々出スヲ量ル根據ナキノ豫算アルガ故ニハ、如何デアリマスルカ、既ニ今日ノ豫算委員會ニ於テ、政府ヲ代表シテ大藏大臣が明言セラレタルが如ク、其一割五百万圓ハ減ズルコトヲ承諾セラレテ居ルト云フガ如キ態デアリマス、是ハ元々何ニ基クカト申シマスレバ、出スヲ量ル其本ガ未ダ立タザルヨリ起リタルコトハ、此一事デモ明カデアルト存ジマス、然レバ未ダ此法律ノ效力ノアル其間ヨリシテ、慌ア、此修正案ヲ出スト云フコトノ必要ハ果シテ何處ニアルデアリマセウ、斯ク申ス本員等トテニ、國家將來ノ財政ノ有様ヲ見マスレバ、決シテ此稅ヲ廢シテ其儘デ出入相償フカト云ヘバ、蓋シ償ハヌデアラウト云フコトハ豫測スルノデアリマス、唯豫測ハ致シマスルガ、戰時咄嗟ノ間ニ協賛シタル法律其儘ハ甚ダ感心シナイト思フノデアリマス、先づ其一例ヲ申シマスレバ、既ニ年度ヲ過去リマシタルニ十七年度ニ、砂糖消費稅ハ幾許ノ收入アル豫定デアツタカト申シマスルト、一千百十万圓ト云フ豫定デアリシニ、實際ノ收入ハ其内ヨリ六百三十五万圓ヲ減シテ居ルト云フカ如キハ、即チ如何ニモ此非常特別稅ナルモノガ、戰時咄嗟ノ間デ杜撰ヲ免レザリシト云フコトノ一例トシテ、茲ニ諸君ハ蓋シ御認メニナルコトデアラウト存ジマス、又今一ツノ例ヲ申シマスレバ、是ハ三十八年度ニ至リマシテ、十一月マテノ調査シカ出來居リマセヌガ故ニ、十一月以降ニ二月マテノ間ニ幾干ノ收入ガアルカハ分リマセヌケレドモ、通行稅ハ豫定三百十八萬圓アルニ、十一月マテノ收入ハ僅ニ三百四十七万圓ニ過ギヌノテアリマス、今一ツノ相續稅ハ四百三十萬圓アルニ、十一月迄ノ收入ハ僅ニ三十二一万圓ニ過ギヌト云フ態デアリマス、斯ノ如キハ戰時咄嗟ノ間ニ協賛シタ稅法デアツテ、已ムヲ得ザルトハ申スモノハ、如何ニモ杜撰極マルト云フコトハ、諸君ニ於テモ蓋シ御認メニナルニ相違ナイト存シマス、然レバ此ノ如キ諸種ノ稅ヲ今ニ於テ改ムルノ必要ノアルト云フコトハ、諸君モ確カニ認メラレ、政府モ之ヲ認メラレ、ソレガ故ニハ殊更ニ調査會ヲ置クト云フコトモ明言セラル、ノデアリマス、併ナガラ是モ亦諸君ガ御承知ノ如ク、二十三年以來ノ歴史ニ就イテ考ヘマスレバ、官民混淆ノ調查會ト云フが如キガ、果シテ效力ガアッタカ、寧口責任ヲ互ニ譲合シテ、利ハ少ナキヤウニ見ルノデアリマス、鐵道會議ノ如キ、土木會議ノ如キ、本員等モ其末班ヲ汚シタコトガアリマスルガ、御承知ノ如ク、二十三年以來ノ歴史ニ就イテ考ヘマスレバ、官民混淆ノ調查會ト云フが如キハ、却テ責任ヲ相讓ルノ態ガアツテ、決シテソレ程ノ效ハ無イノデアリマス、然レバ眞ニ西園寺内閣其責任ヲ重ンゼラル

ルトナラバ、官民混淆ノ調査會ヲ置イテ云フヤウナ姑息ナ手段ハ執ラズシテ、其局ニ當
ル人ガ自ラ責ニ當シテ、此法律ノ效力ノアル間ニ調査セラル、ト云フコトハ、難キコトハナイ
筈デアリマスル、即チ宅地地價修正法ヲ一年ト豫約スレバ、地價修正ノモノタル數年
ニ亘ラテ難イト云ッタモノガ、一年ニモ出來ルト云フ此一事ニ依ラズモ、爲スノ心アレバ決シ
テ爲セヌノデハナイ、是ハ即チ今ノ政府及之ヲ贊成セントセラル、トコロノ諸君ハ、唯易キ
ニ就カル、ニ過ギヌノデアルト本員ハ信ズルノデアリマス、實ニ易キニ就クガ果シテ相當デア
ル、總理大臣モ舉國一致ヲ希望スルト言ハレテアル、實ニ一十七八年ノ戰役ト云ヒ、又
三十七八年ノ戰役ト云ヒ、幸ニ我國が連戰連勝ノ勢ヒヲ得タノハ何デアルカト云アト、
舉國一致ノ力、其舉國一致ヲ將來モ尙續ケントナレバ、先以テ政府ヨリシテ信ヲ失ハ
ヌダケノ勤キハセラレネバナラヌ皆デアル、ソレモ能ハザルコトナラバ已ムコト得ヌト承知スルデ
アリマセウケレドモ、宅地地價修正法ノ一ツニ依ラズモ、茲明カナル例證ガアル、又今ノ
政府ノ財政ハ未ダ根據ノ立タスト云フコトハ、陸海軍兩大臣ガ明言セラレテ、且既ニ一
度ハ提出シタル豫算ヲ、直ニ五百万圓モ減ゼラル、ト云フ一事ニ依ラズモ明カナ位ナコト
トデアリマスルデ、本員ハ本案ヲ政府自ラガ撤回セラル、コト然ルベシト信ズルノデアリマ
ス

○横田虎彦君 本員ハ意見ヲ述ベタノデスガ、演題ニ登ル前ニ「應大藏大臣ニ確メタコトガアリマス、其點ハ委員會ニ於キマシテ大藏大臣ハ〔登壇々々ト呼フ者アリ〕唯一言確メテカラ、登壇致シタク、委員會ニ於キマシテ此案ニ付イテハ、相當ナル調査機關ヲ設ケテ、二箇年以内二十分ナル調査ヲシテ、改廢修正ヲスル積リダアルト云フコトヲ確カニ明言セラレタノテスガ、果シテ二箇年以内二十分ニ調査シテ、此稅法ノ完全ヲ期セラル、ト云フ決心デアルヤ否ヤト云フコトヲ、此議場ニ於テ今一應確メタイ

〔大藏大臣法學博士阪谷芳郎君登壇〕

○大藏大臣(法學博士阪谷芳郎君) 横田君ニ御答致シマスガ、唯今御尋ノ通り政府ハ稅法調査會ヲ設ケマシテ、慎重ニ調査ヲ致シ、二箇年以内ニ是ヲ結了シテ更ニ諸君ノ御協贊ヲ求メタイト考ヘテ居リマス

東尾平太郎程大藏大臣三説明天赤メタイ」ト呼

東尾平太郎程大藏大臣三説明天赤メタイ」ト呼

○横田虎彦君　既ニ本案ニ付キマシテハ、反対竝ニ贊成ノ御意見トモ詳細ナル御讀論ヲ拜聽致シマシテ、最早此上ニ諸種ノ議論ヲ致シマスニ餘地モナリヤウニ考ヘマスガ、唯最モ簡單ニ本員モ茲ニ贊成ノ意志ヲ表スルタメニ、其意見ヲ陳述致シ置キマス、尤モ本員ハ反対ノ論者トシテ詳細ニ御述ベニナリマシタコロノ島田君ノ御演説、竝ニ唯今波多野君が縷々數千言語費サレマシタコロノ演説中、其理由ノ大部分ト云フモノハ、徹頭徹尾贊成ヲ表スルモノニアリマス、尤モ其中ノ冗長ナル歎辯ヲ除キマシタ、其骨髓ニ於テハ最モ贊成ヲ表スルノニアリマス、即チ反対論者ノ御意見トシテ述ベラマシタコロノ精神ヲ伺ヒマスルト、今日ノ此非常特別稅法ト云フモノハ、非常ノ場合ニ於テ萬已ヲ得ズ、十分ノ調査ヲナスノ暇ナクシテ、之ヲ可決シタモノニアル、故ニ其内容ニ至ラテハ所謂世ニ惡稅ト唱ヘルトコロノモノモ含蓄致シテ、居ル、是等ノモノハ十分ナル改廢ラシナケバナラヌ、又此稅法ハ時局ノ終局後一箇年ヲ期シテ以テ必不廢スルト云フコトノ約束ヨリ成立ツモノニアルが故ニ、國民ニ對シテ以テ此法律上ノ約束ヲ履行シナケレバナラヌ、之ヲ改廢セズ又此約束ヲ履行セズト云フ如キニ至ラテハ、殆ド立憲政治其モノ、精神ニモ反スルコトデアルト云フコトノ議論ニ歸著スルノニアリマス、ソデ其大體ノ理由ニ至ラテハ、本員ハ全然之ニ同意ヲ表スルノニアリマスガ、唯其主

文ニ至テ本員ノ意見ヲ異ニスルノアリマス、私ハ此點ニ於テ簡單ニ此異ナルトコロヲ述ベマスレバ、既ニ元田君モ述ベラレマシタル如ク、所謂今日ノ戰後ノ始末、戰爭後ノ總テノ始末ヲ著ケマスル上ニ於キマシテモ、又戰後ノ經營ヲ圖リマスル上ニ於キマシテモ、又今日ノ國運ノ發展上ニ於キマシテモ、到底已ムヲ得ザルノ上ニ於テ、是ヲ贊成シナケレバナラズト云フコトハ、最早茲ニ喋々多辯ヲ要シナイト本員ハ信ズルノデゴザイマス、併ナガラ既ニ已ムヲ得ズ之ヲ贊成スルト云フノデゴザイマスが故ニ、永久無期ニテラ已ムヲ得ザルノ状態ヲ存シテ以テ贊成ヲスルト云フコトハ本員ハ出來ナイノデ、即チ茲ニ特ニ大藏大臣ニ明言ヲ求メマシタル如ク、政府當局者ニ於キマシテモ、此稅法其者ニ於テ修正ヲ要スベキモノ、改廢ヲ要スベキモノハ多々アルト云フコトハ、殆ド上下ニ異論ノナイノデアル、併ナガラ今日ニ於テ、十分ニ調査ヲシテ此議會マニアニ提案ヲスルト云フコトニナシテ、即チ唯今大藏大臣十分ナル調査ヲ爲ス餘地ヲ與ヘナケレバナラズト云フコトニナシテ、即チ唯今大藏大臣ノ明言ヲ求メマシタル如ク、特ニ調査機關ヲ設ケテ、二箇年以内ニ慎重ナル調査ヲシテ、以テ案ヲ具シテ此帝國議會ニ御詔リラスルト云フコトノ決心アルト云フコトヲ明言セラレタノアリマス、即チ本員等ハ此明言ノ下ニ於テ、本案ニ贊成ヲスルノアリマス、由來此調査ト云フコト、或ハ期限ト云フコトニ付キマシテハ、往々ニシテ或ハ名ヲ調査ニ托シテ、事ヲ曖昧ニ附セントスルガ如キ、或ハ又其期限ノアルニ拘ラズ、其期限が十分ニ履行ヲセラレナカッタ云フヤウナコトガアルガタメニ、或ハ反對ノ諸君ハ此點ニ於テ、大ニ氣遣ハレルト云フヤウナ様様ガアルヤウデアリマス、即チ絶對的反對ヲセラル、トコロノ諸君ニ於キマシテモ、進歩黨ノ如キハ一面ニハ修正案ヲ提出セラレテ、唯其修正ノ年限ニ本員ノ如キハ一箇年ノ間ニ十分ノ調査ヲセラレテ、以テ所謂此獨り本法ノミナラズ、稅法ノ根柢マデモ修正シナケレバナラズト云フ位ノ考ヲ以テ居ルニ拘ハラズ、進歩黨ノ諸君ニ於キマシテモ、矢張相當ナル極メテ短期ナル時日ヲ藉シテ、以テ修正調査ヲセシメナケレバナラズト云フ意思ニ過キヌノデアル、併ナガラ稅法修正ノ如キ調査ノ如キ、固ヨリ是等ノコトニ致シマシテ、唯短簡ナル僅カ數月ノ間ニ以テ、十分根柢ヨリ調査ヲスルト云フコトハ、固ヨリ望ムベクシテ實際ニ行フベカラサルコトデアル、況ヤ又假ニ修正調査ヲ致シマシテモ、十分ナル根抵ヨリ是が調査ヲシテ然ル後ニ之ガ調査ヲシテ然ル後ニ是ヲ議場ニ詰シテ、以テ永久ニ我財政稅法ノ根本ヲ定メルト云フコトニ至ラナケレバ、姑息ノ修正姑息ノ調査ト云フコトハ、決シテ本員ガ茲ニ望ムベキコトデハナイト思フ、ソレ故ニ私ハ此調査ノ上ニ於キマシテモ、或ハ名ヲ調査ニ藉シテ、以テ徒ニ遷延セシムルト云フヤウナ嫌ガアルカハ知リマセヌケレモ、茲ニ大藏大臣が明言ヲセラレタル以上ハ、之ヲ信ゼナケレバナラズ、又是ヲ信ゼント欲スル者アル、而シテ若シ此事柄が二箇年以内ニ至リテ此調査が出來ナイ、二箇年以内ニ至リテ尙之ヲ政府ハ案ヲ具ヘテ、議場ニ詰シテ云フコトが出來ヌト致シマシタナラバ、此時コソハ吾ミハ即チ正トト鼓ヲ鳴ラシテ其責任ヲ問ヒ、或ハ自カラ進シテ其稅法ヲ改正スルコトモ決シテ差支ヘナイト思フ、私ハ決シテ云フコトニ付キマシテ、輕々シク見テ居ラナイノデアル、此事ニ於キマシテハ、深ク是ニ重キ有シテ居ルノアリマス、トウカ政府ノ大臣ニ於キマシテモ、此コトヲ議場ニ明言シテ、一時逃レニ斯ノ如キコトヲ言シタト云フコトハ、假ニモナイヤウニ今日豫メ希望致シテ置クノアリマス、既ニ此點ニ於テ今日ハ已ムヲ得ズシテ以テ此案ヲ贊成ヲスルトシナケレバナラズ以上ハ、此上ニ於テ最早多辯ヲ要スル必要ハナイト思フ、唯茲ニ一言シテ置クノハ、私ハ此反對論者ノ述ベマスルヤウニ、日本ノ今日ノ財政竝ニ國民ノ經濟ノ状態ニ於キマシテ、斯ル一億六千万圓位ノ増加ノ負擔が出來ナイト云フヤウナル、諸ラナイモノハナカラウト云フコトヲ信ズルガ、又今日ノ上ニ於キマシテモ之

ヲ修正シ改廢ヲスルト云フコトニ於キマシテモ、必シモ是ヲ以テ何處ニテモ此稅法ヲ全廢ヲシテスマハナケレバナラズト云フヤウナ考ヲ以テ言ヲノデハナイ、即チ稅法ノ根柢ヲ改正シテ、以テ財政ノ基礎ヲ鞏固ニスルト云フコトノ精神ヲ以テ、十分ナル調査ヲシ、十分ナル審査ヲシテ、以テ即チ此說去ノ根柢カラ改正ヲスルト云フコトヲ希望スルノデアリマス、謹シテ一言ヲ述ベマス

○議長(杉田定一君) 島田和夫君
(鳴山和夫君登壇)

(拍手起ル)

○鳴山和夫君 諸君、此問題ニ付キマシテ、元田君モウ一人横田君ト申シマスカノ御演説ヲ拜聴致シマシタ、最早モウ反對黨ハ私共ノ主張スル議論ニ降伏セラレテ居ルノデアルカラ、此上タント論タル必要ハナイノデアル、降伏トハ何シダルカ、元田君ノ御讀論ノ中ニ委員會ニ大藏大臣ノ説明シタトコロデハ、一年間ニ稅法ヲ調査シテ案ヲ出ス、今此處デ横田君ハ更ニ大藏大臣ヲ引出シテ、活キタ證人ヲ出シテ、二年間ト云フコトヲ明言セシメテ是ヲ以テ論ノ根據トセラレタノデアル、既ニ吾輩等ノ議論ニ降伏セラレタト云ノハ此事デアル(ヒヤー^トト呼フ者アリ)二年ト云フ短い期限ノモノデアルカラ、我慢シロト云フスウ云フトコロノ話ニアクテ、實質其物ニ付イテ争ハレルノデハナイノデアル、非常特別稅ナルモノハ、始メカラ有期限ナモノデ、期限が到來スレバ必ズ是ハ其期限ノ通廢スペキモノデアルト云フコトハ、元田君モ御承知アリ、横田君モ御承知アリ、ソコト呼フ者アリ)僕ノハ短いカラ早ク聽入テ御シマヒナサイ、島田三郎君ノ演説ヲ元田君が非評シテ、一體償金が取レタナレバコンナ心配ヲ今シナインノデアルト云フトコロヲ捉ヘテ、川雲平君「三箇月ニ隠ルトハ如何」トソレデアルカラ吾輩ハ諸君ハ無論議論ノ根柢ト云フモノハナイト見アカラウト思フノテアル、ソレカラ順々ニ申シテ往クト(「簡単々々」)ト呼フ者アリ)僕ノハ短いカラ早ク聽入テ御シマヒナサイ、島田三郎君ノ演説ヲ元田君が非評シテ、一體償金が取レタナレバコンナ心配ヲ今シナインノデアルト云フトコロヲ捉ヘテ、是ハドウモ西園寺内閣ニ其罪ヲ歸シテ、西園寺内閣ニ向シテサウ云フコトヲ云フノハ無理デアルト言ハレタ、サウ強チ無理デモナカラウト思フ、何トナレバ西園寺侯ハ、其當時ニ於テハ是位ハ仕方がナインノアラウト云フコトヲ、世ノ中ニ發表セラレタノデアル(拍手起ル)然ラバ桂前内閣總理大臣ト其點ニ於テ同シ意思ヲ持シテ居ラルノデアルカラ、島田君カラ多少ノ愚痴ヲ向ケラレテモ仕方がナインノアラウト思フ(拍手起ル)過去タコトデアルカラ、是ハ無論誰が言シテモ愚痴ニ相違ナシ、今カラ怒シテ見アモ無理デアルト言ハレタ、サウ強チ無理デモナカラウト思フ、何トナレバ西園寺侯ニ、其當時ニ於テハ是位ハ仕方がナインノアラウト云フコトヲ、世ノ中ニ發表セラレタノデアルカラ、島田君ノ演説ハ私モ聽いて居リマシタケレドモ、兎ニ角本年ノ十二月マデノ御演説中ニ、何ント言シテモ是ハ金ガナクチャイケナイノデハナイカ、斯ウ云フ御言葉デハナイが免ニ角金が要ルノアアル、島田君ノ議論ト云フモノハ、甚ダ無責任グト言ハレタガレルダケノ覺エが西園寺侯ニアツテモ宜カラウト思フノデアル(拍手起ル)ソレカラ元田君ノ御演説中ニ、何ント言シテモ是ハ金ガナクチャイケナイノデハナイカ、斯ウ云フ御言葉デハナイが免ニ角金が要ルノアアルカラシテ、マルデ無責任デハナインノデアル、五十六百万圓ダケが事ニ依ツタラサウデナシ、島田君ノ演説ハ私モ聽いて居リマシタケレドモ、兎ニ角本年ノ十二月マデ無責任カモ知ラヌガ、サウスルト元田君ノ攻撃ノ根據ト云フモノハ、一億六千万圓ニ取レルノデアルカラ、一億六千万圓ノ内ノ一億五千万圓ハ取レル、事ニ依ルト思ツタヨリハ餘計這入テ來ルコトニナルカラ、不足ハ僅カ五六十萬圓シカナイト云フコトヲ島田君ハ僅カナルセノニナルト思フノデアリマス(「拍手起ル」「立川雲平君無責任ハ一ナリ」ト呼フ)ソレカラ先刻一年間ノ調査會ヲ作ゲ、朝野ノ者ヲ集メテ此調査ヲスルト云フ話デア

第一讀會

鞍澤谷田真平君
角谷田來清慎君
太郎君仁太郎君
木野上嘉平君
木村高木村嘉平君
橋木半兵衛君
市鈴木金治君
君久次郎君
君七君國飯島梅野
君久保國澤井
君久保國澤井

星	安	矢	三	輪	野	長	太	郎	君	有	造	君					
島										小	田	貫					
										高	木	龍					
										藏	君	福					
										若	佐	島					
										藻	寄	根					
										田	中	喜					
										太	郎	君					
										嶺	山						
〔	本	案	第	二	讀	會	ヲ	開	ク	ヘ	カ	ラ	ス	ト	ス	ル	者

丹坂淺元尾元英俊馬君
川眞田徳二郎君正順平君山田村順之助君
岩本晴之君和君横湯山山木幸彦君
高梨哲四郎君板東勘五郎君寅一郎君壽介君
雄倉本橋永鈴中竹見木村田

原寺矢大是久保伊一郎君
田井島戸永歲太郎君
浦復三郎君
純太郎君
城司君
黃内佐野七森秀
田貴藤尻里
堯甚邦清次
完里基君
彦治君
參君
左關荒河鈴須藤
根川木藤

糲	下木	卿太郎君
瀨	上部	秀夫君
大	倉	藏君
淵	藏君	
龍	村	向坂
太	松	愛
郎	邊	弘君
君	渡	
一	南條吉左衛門君	修君
平	山田省三郎君	瀧口松田
君	忠藏君	井上物部
三	浅服	
井	井	

奧	林	賓	名	由	宮	本	布	嘉	樂	君	烏	海	哲	四	郎	君	麥	丹	後	植	木	西	山	根	廣	瀨	鹿	之	助	君	
繁	三	郎	君	小	參	君	信	平	君	原	島	美	之	助	君	敬	福	島	長	谷	川	豐	吉	君	根	廣	瀨	鹿	之	助	君
三	郎	君	參	君	平	君	代	司	君	原	島	美	之	助	君	敬	福	島	長	谷	川	豐	吉	君	根	廣	瀨	鹿	之	助	君
郎	君	參	君	代	司	君	惟	義	君	原	島	美	之	助	君	敬	福	島	長	谷	川	豐	吉	君	根	廣	瀨	鹿	之	助	君
君	參	君	代	司	君	惟	義	君	神	前	修	三	君	植	木	西	山	根	廣	瀨	鹿	之	助	君	敬	福	島	美	之	助	君

中西光三郎君 元田 肇君 栗原
松田正久君 岩元信兵衛君 中西

非常特別稅法中改正法律案
○議長(杉田定一君) 角田真平君
(角田真平君登壇)
○議長(杉田定一君) チヨット申上ゲマ
部ヲ議題トシテ採決ノ場合ニ至リテハ、各
○角田真平君 修正案ハ御手許へ回シ

〔「異議ナシ」ノ聲起ル〕
○議長（杉田定一君） 御異議ハナイト認メマス、是ヨリ本案ノ第二讀會ヲ開キマス。
第一條ヲ議題ニ供シマス

○議長（杉田定一君） 本案ハ第二讀會ヲ開クベシトスルニ決シマシタ
○長谷場純孝君 直チニ第一讀會ヲ開カレントラ希望致シマス
〔異議ナシト呼フ者アリ〕
○議長（杉田定一君） 直チニ第一讀會ヲ開クト云フ長谷場君ノ動
リマセヌカ

ノ便宜ノタメニ一條ト二十七條ニ付イテ修正意見ヲ述べマスル、此非常特別稅ナルモノハ、僅ニ一時間ノ間ニ決定ヲセラレテ、法律トナツタモノデアル、ソレ故ニ吾ミハ翌年ノ末日ヲ以テ、此效力ガナクナルト、云フコトヲ特ニ記シテ、爲政家ガ之ヲ執行スル上ニ餘地ヲ與ヘタノデゴザイマス、此時ニハ種々ノ說ガアツテ翌年ノ末日トナルト少ナクモ十數月ト云フコトニナルノデアルカラ、多過ギルト云フ議論ガアツテ、ヤカマシウゴザイマシタノデ、御列席ノ諸君モ御承知ノ通各派折合ヲタ上ニ、其位ハ多クシテヤラネバ次ノ事ノ計畫ニ差支ヘルト云フ意味ヲ以テ、是ニ全然同意ヲ致シテ、翌年ノ最終ノ日ニ效力ヲ失フト云フコトニ致シマシタ、而シテ先刻來ノ討論ノ末ニ其通履行スルト云フ說ハ潰レテ、遂ニ今ハ第二讀會ニ移リマシタノデ、是ニ於テ私ハ滿堂ノ諸君ノ贊成アルベキヤウニ修正案ヲ提出シタ、即チ其意味ハ何デアルカト云フト、第一條ヲ削ルト云フ原案ノ此五文字ハ是ヲ削リマシタ、サウスルト此現行法律ノ通ニナリマス、第二十七條ト云フノハ「本法ハ明治四十年三月三十日限り之ヲ廢止ス」ト是ヲ訂正ヲシマスノデゴザイマス、先刻來諸君ノ高說ヲ拜聽シテ居リマスルト、吾ミニ反對ノ諸君即チ原案ニ贊成ノ諸君ト雖モ、是ヲ無期限ニスルノ有害ナルコトヲ自ラ茲ニ喋々論シテ居ラレ、遂ニ是ヲ形式上ニ社會ニ知ラセルカタメニ、甚ダ氣ノ毒ニモ大藏大臣ヲ態ミ呼出シテ、芝居的行動ニ依テ二年ノ間三調査ヲスルト云フコトヲ言ハシメタノデ、「ノウ」「ノウ」ト呼フ者アリ)若シソレガ「ノウ」ニアレバ、然ラバ諸君ハ永久ニ是ヲ繼續ヲシャウト云フノデアルカ、驚入タル話デアル(「ヒヤー」と呼フ者アリ)少ナクトモ、諸君ハ此事ノ永久ハ不便デアルカラ、二年ノ中ニハ止メルコトニ致シマス、一年ノ中ニハ事ニ依ルト、來年ニモ止メルモノガアルカモ知レヌト、ホノメカシテ諸君ノ說ヲ社會ニ照會シテ、是テ逃ゲヤウト企テタノデハゴザイマセヌカ、是ハ事實デアル、若シ是ガ事實デナク、永久ニスルト致スナラバ、何ヲ苦シテ斯様ナ芝居ヲ此議場ヲ打タレタノデアル、凡ソ事ハ露骨言シテ世間ノ同情ヲ失ケルハ結構アリム、諸君ノ一年說ヲ持テ居ラル、ト云フノデ、多少ノ同情ガアルノデ、若シ夫レ之ヲ取消サバ、氣ノ毒ナガラ諸君ハ此言論ヲ總テ取消サナケレバナラス、境遇ニ陥ラネバナラス、既ニ諸君ハ一年說ヲ唱へ制限ノ上ニ於テハ吾ミト同一ノ講論デアル、此時ニ當テ是ヲ法律ニ書イテ制限ヲスルガ宜シイ、日外ハ大藏大臣某ガ、彼モ一時此モ一時ト議會ニ辯明ヲシテ笑ヲ招イダコトガゴザイマス、一年說ヲ主張シテ誠意ニヤル積リテゴザイマシタガ、國情斯様デ許サナイ、事情斯様デ許サナイ故ニ、報告スルノ時期到來セズトタナラバ、二年、四年、五年、六年或ハ十年ニナルカモ知レヌデハゴザイマセヌカ、果シテ然ラバ諸君ト共ニ満足ニ之ヲ法律ニ明記シテ、國民ニ安心ヲ與ヘルト云フコトハ、御互ニ努力ベキコトデアツテ、又當局者モ蓋シ歡迎スベキ說デアラウト思フ(「ロヤー」と呼フモノアリ)僅ニ一時間ニ一億ハ千万圓ノ議案ヲ可決セシメテ、而モ之ヲ提出シテ變更ヲシテ、卒爾ノ間此國難ニ出遇タカラト說明ヲシタノデ、之ヲ改廢シ稅制ヲ改良シテ後カラ、出シテ來ルノニ、一年ノ猶豫ヲ與ヘテ出來ヌ内閣諸公ノ腕トハ認メヌ、又諸君ガ左様ニ腕ノナイ内閣トシテ御賛同ヲ表シテ居ラヌコト、私ハ信ジマス(「ヒヤー」と呼フ者アリ)果シテ然ラバ吾ミハ前ノ說ガナクナリマシタ以上ハ、即チ前ノ履行ヲスル說ガナクナリマシタ以上ハ、少ナクモ豫算ノ上ニ於テハ來年ノ三月マテハ支出ヲ可決セネばナラヌノデアル、此豫算ノ執行ニ安心ヲ與ヘ、收入ヲ確保スルト云フ上カラハ、是ヲ二箇月延バシテ、年度ノ調和ヲ計ルト云フノが職責ノ上ニ於テ——今ノ場合ニ於テ即チ第一案ガ倒レタ場合ニ於テハ、相當アツテ而モ猶豫ヲ與ヘル上ニ於テハ、當局ノ腕ニ任セル餘地ガアルト信ジテ疑ハヌノデゴザイマス、殊ニ當局大臣ノ言ハル、トコロニ依リマスト、是々々々ノ稅ト云フモノハ、既ニ取調ベテアル、尙此外

ニ此稅モ此稅モ取調ベシ、ゴザイマスト報告ラシテ居ル、ソレ故ニ調査ヲ致シヤスルナラバ、思ヒノ外ニ共中カラ——片一方カラ抜イテ往ブア、案外此中カラ稅制ヲ改正スルコトノ速ニナルカモ知レヌト云フコトハ明言モゼラレテ居ル、是ノ如ク此以前カラ準備ヲサレテ來ア、既ニ今會ヲ開イテ、準備調査委員會ヲ開カウト云フ組織案マダナフテ居ル以上ハ、此事ニ付イテ御不同意ハナイ筈ニアラウト信シテ疑ヒマセヌ、畢竟スルトコロ、豫算ト云フモノ、上ニ付イテ、御互ガ三十九年度ノ豫算ヲ議定スル上カラハ、三十九年度御述ベニナリマシタコロノ、二年稅ヲ御再考ニナルト云フト、長キニ失シテ而モ甚ダ薄弱ニ——誠ニ適當ナル調和ヲ得タル法律ノ上ニ明記シテ、此國民ニ安心ヲ與ヘルトコロノ修正案ニハ御贊同アランコトヲ希望致シマス

(拍手スル者アリ)

○元田肇君 唯今修正案ガ角田君ヨリ出マシテゴザイマスガ、此修正案ハ委員會ニモ提出サレ、動議トシテ起サレテ尙先刻配ラレテ——實ハ配リヤウガ早カツタンデアルト云フ断リデアリマシタガ、既ニ配ラレテアリマスカラ、本員ハ演壇ニ於テ此點マデモ不同意デアルト云フコトヲ演説致シテ置キマシタカラ、ソレ故ニ唯今事新シク之ニ向シ別段ニ辯駁ヲ加ヘルノ必要ハナイト思ヒマス、是ノ如キ修正ハ決シテ許スベキモノアナイト云フコトハ明カデアリマスカラ、別段ニ演壇ニ登ラヌデ是ケラ申シテ置キマス

○議長(杉田定一君) 討論終結ニ定規ノ贊成ガアリマスカ
(「アリマス」ト呼フ者アリ)

○議長(杉田定一君) 定規ノ贊成ガアルト認メマス、討論終結ニ御異議ハゴザイマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(杉田定一君) 御異議ハナイト認メマス——採決致シマス——角田君ノ修正、即チ第一條ニ付イテ採決ヲ致シマス、此修正ハ削除アリマスルデ、原案ニ就イテ採決致シマス、原案即チ政府原案ニ御同意ノ御方ハ起立ヲ願ヒマス

起立者 多數

○議長(杉田定一君) 大多數ゴザイマス——二十七條ニ付イテ採決致シマス、角田君ノ修正、即チ第一條ニ付イテ採決ヲ致シマス、此修正ハ削除アリマスルデ、原案ニ就イテ採決致シマス、原案即チ政府原案ニ御同意ノ御方ハ起立ヲ願ヒマス

起立者 少數

○議長(杉田定一君) 少數アリマス、原案ニ付イテ決ヲ採リマス、原案ニ同意ノ御方ハ起立ヲ願ヒマス

○議長(杉田定一君) 多數アリマス、原案ニ付イテ決ヲ採リマス、原案ニ同意ノ御方ハ起立ヲ願ヒマス

○議長(杉田定一君) 直チニ二讀會ヲ開カレテ確定セラレントコトヲ望ミマス

○議長(杉田定一君) 長谷場君ノ動議ノ通り直チニ二讀會ヲ開クト云フコトニ付イ

テ、御異議ハアリマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(杉田定一君) 御異議がナイト認メマス、直チニ二讀會ヲ開キマス

非常特別稅法中改正法律案

○議長(杉田定一君) 二讀會ノ決議通御異議ハゴサイマセヌカ
〔「二讀會通異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(杉田定一君) 〔異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(杉田定一君) 二讀會ノ決議ノ通決シマシテゴザイマス、是ニテ本案ハ確定致シマシタ

(拍手起ル)

○議長(杉田定一君) 日程第七、日本興業銀行法中改正案ノ第一讀會ノ續キニ

第七 日本興業銀行法中改正法律案(政 府提出、貴族院送付)

第一讀會ノ續(委員長)

(元田肇君登壇)

(簡單々々ノ聲起ル)

○元田肇君 少シシクドウゾ御聽キヲ願ヒマス、短クヤリマスカラ——委員會ニ於キマシテハ、本案ハ今日ニ於テ最も必要ナリト認メマシテ、可決致シマシタ、「贊成々々」又「ソレア宜シイ」ト呼フ者アリ)ドウゾ内容ハ此書面ニ書イテゴザイマスカラ、御贊成ヲ願ヒマス

○議長(杉田定一君) 鈴置倉次郎君

(「委員長報告通異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○鈴置倉次郎君 本員ハ本問題ニ反対ノ意見ヲ有スル者デアリマス(「簡單ニ願ヒマス」ト呼フ者アリ) 簡単ニヤリマス(「贊成々々」又「無用々々」又「謹聽々々」ト呼フ者アリ) 本員ハ發言權ヲ得マシタ、興業銀行ノ資本金ヲ増加致シマシテ、内外共通經濟ノ機關タルコトニ於テハ、本員ハ固ヨリ異論ノナイトコロアリマス、大ニ賛成ヲ表スルトコロデアリマスガ、此動ラナス上ニ於キマシテ、此改正案ノ必要ヲ本員少シモ認メナイ

○法第二條ノ但書ニ「但シ政府ノ認可ヲ得テ之ヲ增加スルコトヲ得」ト書イテアリマシテ、資本金増加ト云フコトハ立法手續ニ據ラズシテ、政府ノ認可ニ據シテ出來ルコトニナシテ居リマスカラ、第二條ノ修正ハ不必要デアリマス、然ラバ此改正ノ主眼ハ、何レニアルカト申シマスルト、第三條ノ百圓株ヲ五十圓株ニ切下ケルト云フコトガ、主眼ニナシテ居ルノアリマス、現今ハ百圓株アリマシテ、之が現在拂込金ハ五十圓ニナシテ居リマス、然ルニ商法ノ規定ニ據リマスレバ、全額拂込以前ニ増資スルコトが出來ナイト云フコトニナシテ居リマスカラ、增資前ニ一時ニ拂込ラヌルト云フコトハ、甚ダ株主ニ氣ノ毒デアル故ニ、株金ヲ切下ケテ未拂込ノ五十圓ト云フモノハ、新株ノ形ニシテ日本人ノ所有スル株ハ、四分ノ一拂込シテ宜イ、西洋人ノ所有スベキ株、十五万株ハ直チニ全額ヲ拂込ム、斯ウ云フコトニ致シマシタノデアリマス、斯ル見苦シキ小刀細工ガ即チ改正案ノ骨子ニナシテ居リマシテ立法上は甚ダ忌ハシキ點アルト本員ハ考ヘルノデアリマス、全額拂込ラシタコロデ、高ノ知レタ五百万圓ノ株アリマス、此五百万圓ノ拂込ガ困難デアラウ——日本ノ今日ニ於テハ困難デアラウハ、如何ニモ情ケナイ觀察デアリマス、如何ニモ我國民ノ財力ヲ輕蔑シタル觀察ト云ハネバナリマセヌ、我國民ハ四億八千万圓ノ公債ニ應ジ、又一億六千万圓ノ特別稅ヲ負擔シテ居ルノデアリマス、然ルニ此株金ノ拂

込ト云フモノハ、非常特別稅ノ如ク、脅迫的ノ性質ノモノナシテ、苟モ株主タル以上ハ、未拂込ノ全額ヲ拂込ム覺悟ハ、豫テアルベキ皆デアリマス、勿論多數ノ株主ノ中テ、三人ヤ五人ハ一時拂込ニ困ル人ガアルカ知レマセヌガ、ソレハ金融機關ノ發達シタ今日、株金ノ拂込ラスルハ易イ話アル、拂込ラスレバ、擔保ノ價格が増加スルノデアリマスカラ、拂込ニハ少シモ困難ハナノデアリマス、一方ニ外資輸入ヲ計ルト同時ニ、又五百萬ノ拂込ヲ懸念スルト云フヤウナコトテアリテ、ドウシテ外資輸入ノ目的ヲ達シ得ルノデアリマスカ、本員ハ少シモ此改正案ノ必要ヲ感ジナノデアル、又現ニ日本國民ノ財力ハ、事實ニ於テ日ミニ發達シツ、アルノデアリマス、此點ニ於テハ私ハ國民ノタメニ斯ル想像致方がナイト云フ御答辯ヲ委員會テ致サレマシタガ、日本政府ノ財務委員ガ立法權ニニ對シテ冤罪ヲ雪イテ置クノ必要ガアルト思ッテ茲ニ一言スル、通過如何ハ固ヨリ問フ所デナリ、日本ノ財力ニ向シテスル憫レナル觀察ヲ下スベキ必要ガナイト云フコトヲ一言スル必要ガアリマス、政府委員ハ財務委員ガ英吉利デ約束シタ今日アルカラ、何トモシタモノト推定スル外ハナリ、若シ議會ノ經過ヲ條件トシテ約束シタモノナラバ、其約束ヲ以テ議會ノ決議ヲ強ニルト云フコトハ出來ナイノデアリマス、故ニ私ハ此改正ヲ爲サズシテ直チニ全額ヲ拂込マセ、即チ五百万圓ヲ拂込マセマシタナラバ直ニ大藏省カラ增資ノ認可ヲ與フルテアラウ、シテ見レバスル迂遠ナル手續ラスルヨリモ、五百万圓全額拂込ヲ直チニサセル方ガ早く出來ルダラウト本員ハ信ズルノデアリマス、斯クスレバスル不體裁ナ法案ヲ議會ニ出ス必要モナク、直チニ迅速ニ此目的ヲ達スルデアラウト思ヒマスカラ、此點ヲ國民ノ體面ノタメニ一言致シテ、此改正案ノ不必要ナルコトヲ一言致シテ置キマス

○元田肇君 私ハ委員會ノ委員長トシテ、諸君が能ク御分リニナシテ居ルト云フコトデアリマスカラ、簡單ニ結果ダケラ報告シタノデアリマスガ、諸君ニ於テ萬一御分リニナラヌ所ガアシテ、委員會ノ經過ヲ御聞キニナリタイト云フコトナラバ何時デモ御答ラ致シマスカラ、此段申シテ置キマス

(「討論終結」ノ聲起ル)

○議長(杉田定一君) 討論終結ニ段々御贊成ガアルヤウデゴザイマスガ、別段御異議ハゴザイマセヌカ

(「異議ナシ異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(杉田定一君) 御異議ナイト認メマス——此法案ニ付イテ二讀會ヲ開クヤ否ヤト云フコトニ付イテ決ラ採リマス、二讀會ヲ開クト云フニ御同意ノ御方ハ起立ラ願ヒマス

○議長(杉田定一君) 大多數デゴザイマス、二讀會ヲ開クト云フコトニ決シマス

○元田肇君 直チニ二讀會ヲ開カレンコトヲ希望致シマス

(「贊成々々」ノ聲起ル)

○議長(杉田定一君) 元田君ノ發議ノ通直チニ二讀會ヲ開クニ御異議ハアリマセヌカ

(「異議ナシ異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(杉田定一君) 御異議ナイト認メマス直チニ二讀會ヲ開キマス

○議長(杉田定一君) 全部ヲ議題ニ供シマス
○元田肇君 本案ハ貴族院送付ノ通り委員會ニ於テハ一ノ修正モゴザイマセヌ、各派ノ御方モ大體御賛成ガアツタノデゴザイマスカラ、讀會ヲ省略シテ直チニ全部確定アランコトヲ望ミマス

○議長(杉田定一君) 二讀會ヲ省略シテ二讀會ニ於テ直チニ確定ニシタイト云フ元田君ノ御發議ニ御異議ハアリマセヌカ
(「異議ナシ異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(杉田定一君) 御異議がナイト認メマス

日本興業銀行法中改正法律案

○議長(杉田定一君) 本案ニ付イテ決ヲ採リマス、本案ニ賛成ノ御方ハ御起立ヲ願ザイマス

○議長(杉田定一君) 大多數テス、本案ハ確定シマシテゴザイマス、チヨット報告ガゴザイマス

起立者 多數

確定議

（書記朗讀）

一委員ヲ指名スル左ノ如シ

陸海軍ニ關スル臨時事件費特別會計終決ニ關スル法律案

遊田研吉君

柚木慶二君

丹後直平君

美禰龍彦君

木村格之輔君

榎本次郎右衛門君

宮部襄君

野尻邦基君

神藤才一君

作業會計法中改正法律案

武田千代足君

本出保太郎君

前島元助君

平岡浩太郎君

藤井牧太君

佐治幸平君

○議長(杉田定一君) 次回ノ議事日程ハ追テ公報ヲ以テ御報告致シマス、今日ハ是デ散會致シマス

午後七時二十五分散會

